

巻頭言

近年、文部科学省から大学向けに多くの改革を促すメッセージが届きます。主として意思決定の迅速化、的確な意思決定のための組織体制の見直し、社会に開かれた大学への転向、教員の質向上などに結びつく改革であり、基本的にはその通りだと思われます。しかし、公立大学として、小規模校としてどのように咀嚼し適応させるか、優先順位をどこにおくかについては頭を悩ませるところです。また、競争的な外部資金も矢継ぎ早に公募され、いずれも何らかの大学改革を応募要件にしています。

本学は、開学から15年近く経過する大学として、社会の変化に応じた見直しが必要な時期を迎えていることと相まって、従来どおりの教育研究を静かに進めることが叶いにくい状況が生じています。現代の学生に適した教授方法を取り入れること、多様な学生の個性を見極めながら場合によっては個を尊重した支援も加味すること、研究においては臨床現場や地域社会への応用を意図した研究の推進などが重視されています。このように、多忙な中でも何とか成果を出してきた従来型・教員マイペース型の教育研究に固執できない状況が生まれてしまいました。より手のかかる教育方法や研究内容を、開学以来の本学の理念を変えることなく、容易さをもって遂行できるような教員の質向上が求められている時代を迎えているとも言えます。

そのような中、本学の年報は、この1年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果などが、世間におもねることなく正直にほぼ網羅的に掲載されています。どうぞご覧いただき、ありのままの本学の姿をつかんでいただきたいと思います。

8章から15章には、本学の対外的な活動が示されており、この部分は年々増加傾向にありましたが、平成25年度は数的にも質的にも近年になく豊かになりました。これらの多くのプロジェクトが学生教育と有機的な関係を持っており、この活動の中で学生たちが実社会や国際的な触れ合いから学び、その結果コミュニケーション能力や複眼的な視点で対象を捉える力を高めています。教員たちの費やすエネルギーも相当な量になっておりますが、学生の成長を糧として頑張っております。

これらの一部はカリキュラムの中にもしっかりと位置づけるべく、教務委員会やその部会等でも時間をかけて検討いたしました。また、大学院教育の改革にも力を注いだ1年でした。日本看護系大学協議会の定めに従い、CNSコースに必要な認定単位数を12単位増やしました。学部・大学院ともに次年度シラバスに新たなカリキュラムが表示されることになりました。

このような本学の事情を汲み取りながらこの年報をお手に取っていただくといろいろと感じていただけるのではないかと思います。詳しいことは個々の事業報告にまとめております。読者の皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>にもアクセスしてみてください。忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 14 回入学式（平成 25 年 4 月 5 日）



オープンキャンパス（平成 25 年 7 月 20 日）





第8回夏期アメリカ看護研修(平成25年8月26日～9月8日)





JICA 日系研修 (平成 25 年 7 月 16 日～8 月 9 日)



JICA 中央アジア・コーカサス混成青年研修(平成 25 年 11 月 28 日～12 月 10 日)



第 11 回卒業式 (平成 26 年 3 月 15 日)

目 次

巻頭言

1. 学事	1
1.1 平成25年度学事暦	1
1.2 学生の状況	2
1.3 大学組織図	6
1.4 教育・履修体制	8
1.5 オープンキャンパス	9
1.6 懇話会	9
2. 教員・職員紹介	12
2.1 教員紹介	12
2.2 教員組織構成	16
2.3 特任教員紹介	17
2.4 職員紹介	18
3. 委員会活動	19
3.1 教務委員会	19
3.1.1 フィールド実習専門部会	19
3.1.2 看護学実習専門部会	20
3.2 学生委員会	20
3.2.1 学生相談専門部会	21
3.2.2 進路支援専門部会	22
3.3 図書館運営委員会	23
3.3.1 石川看護雑誌編集専門部会	25
3.4 研究推進委員会	25
3.4.1 学内研究助成審査部会	27
3.5 情報システム委員会	28
3.6 地域ケア総合センター推進協議会	28
3.7 地域ケア総合センター運営委員会	28
3.7.1 国際貢献専門部会	29
3.7.2 地域連携・貢献専門部会	30
3.7.3 人材育成専門部会	30
3.8 国際交流委員会	31
3.9 広報委員会	32
3.10 入学試験委員会	33
3.10.1 入試実施部会	34
3.10.2 入試評価部会	34
3.11 FD/自己点検・評価委員会	34
3.11.1 教員評価検討部会	35
3.11.2 年報・自己点検評価部会	35
3.11.3 FD/授業評価部会	36

3.12	ハラスメント委員会	37
3.13	情報セキュリティ委員会	37
3.14	コンプライアンス委員会	38
3.15	遺伝子組換え実験等安全委員会	38
3.16	大学院教務・学生委員会	38
3.17	倫理委員会	39
3.18	がんプロ企画委員会	40
3.18.1	がんプロ運営委員会	40
3.19	衛生委員会	41
4.	研究活動・社会活動	42
4.1	書籍	42
4.2	学術論文	42
4.3	その他の原稿	45
4.4	学会発表	47
4.5	研究助成	55
4.6	社会活動・地域貢献	57
4.7	その他（受賞等）	67
5.	卒業研究論文題目及び修士論文題目一覧	68
5.1	平成24年度 卒業研究論文題目一覧	68
5.2	平成24年度 修士論文題目一覧	72
6.	石川看護雑誌	73
7.	附属図書館	75
7.1	今年度の主な活動概況	75
7.2	資料整備状況	76
7.3	利用統計	77
7.4	利用者サービス	79
7.5	職員研修	81
8.	附属地域ケア総合センター	82
8.1	人材育成事業	82
8.2	本学教員主催の研究会・事例検討会ならびに子育て支援講座	82
8.3	国際化促進事業	85
8.4	かほく市との包括的連携	85
8.5	大学施設の開放	85
9.	附属看護キャリア支援センター	87
10.	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	89
11.	大学間連携共同教育推進事業－ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト－	91

12. 国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修	93
13. ワシントン大学との交流	94
14. いしかわシティカレッジ	95
15. 地域連携活動	96
15.1 来人喜人里創りプロジェクト	96
15.2 棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり	96
15.3 コミュニティ形成を通じた道の駅活性化	97
15.4 世代間交流による「健康なまち」の創造	97
15.5 たかまつまちかど交流館の活用と地域振興のための調査研究 －みんなが交流できる場所づくり－	98
15.6 被災地仮設住宅住民の孤立化防止の取組	99
15.7 能登キャンパス学生教育・活動支援事業 －2市2町を対象とする地域看護フィールド教育－	99
編集後記	101

1. 学事

1.1 平成25年度学事暦

平成25年

4月 5日 (金)	入学式
4月 8日 (月)	ガイダンス
4月 9日 (火)	学生健康診断
4月10日 (水)	授業開始
4月 5日 (金) ~ 4月16日 (火)	前期履修登録受付
5月29日 (水)	開学記念日
7月20日 (土)	夏のオープンキャンパス
8月 1日 (木) ~ 8月 9日 (金)	前期補講・試験
8月10日 (土) ~ 9月30日 (月)	夏季休業
9月 8日 (土)	入学試験 (編入学試験)
9月28日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程)
10月 1日 (火)	後期授業開始
9月19日 (木) ~ 10月 4日 (金)	後期履修登録受付
10月26日 (土) ~ 10月 27日 (日)	大学祭 27日(日) 秋のオープンキャンパス
11月23日 (土)	入学試験 (推薦入試・社会人入試)
12月24日 (火) ~ 1月 5日 (日)	冬季休業

平成26年

1月18日 (土) ~ 1月19日 (日)	大学入試センター試験
2月 1日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程 (第2次募集)・後期課程)
2月12日 (水) ~ 2月20日 (木)	後期補講・試験
2月25日 (火)	入学試験 (一般入試前期日程)
3月12日 (水)	入学試験 (一般入試後期日程)
3月15日 (土)	卒業式・学位授与式
2月21日 (金) ~ 3月31日 (月)	春季休業

1.2 学生の状況

1.2.1 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位 (人)		
入学定員	3年次編入学定員	収容定員
80	10	340

②試験実施日

実施日	
3年次編入学試験	平成25年 9月 7日 (土)
推薦入試・社会人入試	平成25年11月23日 (土)
一般入試前期日程試験	平成26年 2月25日 (火)
一般入試後期日程試験	平成26年 3月12日 (水)

③受験状況等

	単位 (人、倍)							
	募集定員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	実質倍率	入学者数
	A	B	B/A	C	C/A	D	C/D	
3年次編入学	10	19	1.9	14	1.4	11	1.3	10 (8)
推薦入試	30	56	1.9	56	1.9	31	1.8	31 (28)
社会人入試	若干名	5	—	3	—	1	3.0	1 (1)
一般入試前期	40	138	3.5	127	3.2	43	3.0	40 (38)
一般入試後期	10	182	18.2	69	6.9	12	5.8	10 (10)

() の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況 (平成26年3月1日現在)

		単位 (人)				
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	3	4	5 (1)	8 (1)	20 (2)
	女性	81	79	85 (8)	90 (6)	335 (14)
	計	84	83	90 (9)	98 (7)	355 (16)

() の数字は内数であり編入学者の数を示す

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第11期生

単位 (人)

区 分	計	入学年度別卒業者数		
		平成21年度以前 入 学 者	平成22年度 入 学 者	平成23年度 編入学者
卒業者数	82 (76)	6 (5)	69 (65)	7 (6)

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第11期生 (平成26年3月31日現在)

単位 (人)

区 分	県 内		県 外		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
看護師	55	67.1%	8	9.8%	63 (57)	76.8%
国公立病院(独立 行政法人を含む)	41	50.0%	6	7.3%	47 (42)	57.3%
就 職 私立病院	14	17.1%	2	2.4%	16 (15)	19.5%
保健師	4	4.9%	1	1.2%	5 (5)	6.1%
その他	0	0.0%	1	1.2%	1 (1)	1.2%
計	59	72.0%	10	12.2%	69 (63)	84.2%
進 学 大学院博士前期課程	4	4.9%	0	0.0%	4 (4)	4.9%
養護教諭特別別科	5	6.1%	2	2.4%	7 (7)	8.5%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	9	11.0%	2	2.4%	11 (11)	13.4%
未 定	0	0.0%	2	2.4%	2 (2)	2.4%
合 計	68	82.9%	14	17.1%	82 (76)	100.0%

() の数字は内数であり女性の数を示す；割合は、総数82人を100%としたもの

③主な就職先 第11期生 (平成26年3月31日現在)

県内	県外
金沢大学附属病院	富山大学附属病院
石川県立中央病院	富山県立中央病院
公立松任石川中央病院	名古屋大学医学部附属病院
国立病院機構 金沢医療センター	琵琶湖大橋病院
国立病院機構 医王病院	国立国際医療研究センター
公立穴水総合病院	福井県済生会病院
市立輪島病院	福井県立病院
金沢社会保険病院	牧野・野村地区包括支援センター保健師
金沢赤十字病院	
済生会金沢病院	
金沢市保健師	
七尾市保健師	
珠洲市保健師	
金沢大学保健管理センター保健師	

1.2.2 大学院学生の入学・在学・修了の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

課程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	10	20
博士後期課程	3	9

②試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験	平成25年 9月28日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	平成26年 2月 1日 (土)
博士後期課程入学試験	平成26年 2月 1日 (土)

③受験状況等

課程	単位 (人、倍)							
	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	10	1.0	10	1.0	6	1.7	6 (6)
博士前期課程2次	若干名	5	-	5	-	4	1.3	4 (4)
博士後期課程	3	6	2.0	6	2.0	4	1.5	4 (4)

() の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況 (平成 26 年 3 月 1 日現在)

単位 (人)

課 程	1 年次	2 年次	計	
博士前期課程	10 (9)	14 (11)	24 (20)	

課 程	1 年次	2 年次	3 年次	計
博士後期課程	3 (3)	2 (2)	6 (5)	11 (10)

() の数字は内数であり女性の数を示す

(3) 修了の状況

① 修了者数と修了後の進路状況 (平成26年3月31日現在)

単位 (人)

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程 第9期生	8 (8)	医療機関、教育機関

() の数字は内数であり女性の数を示す

② 博士前期課程の修了後の進路状況 第9期生 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

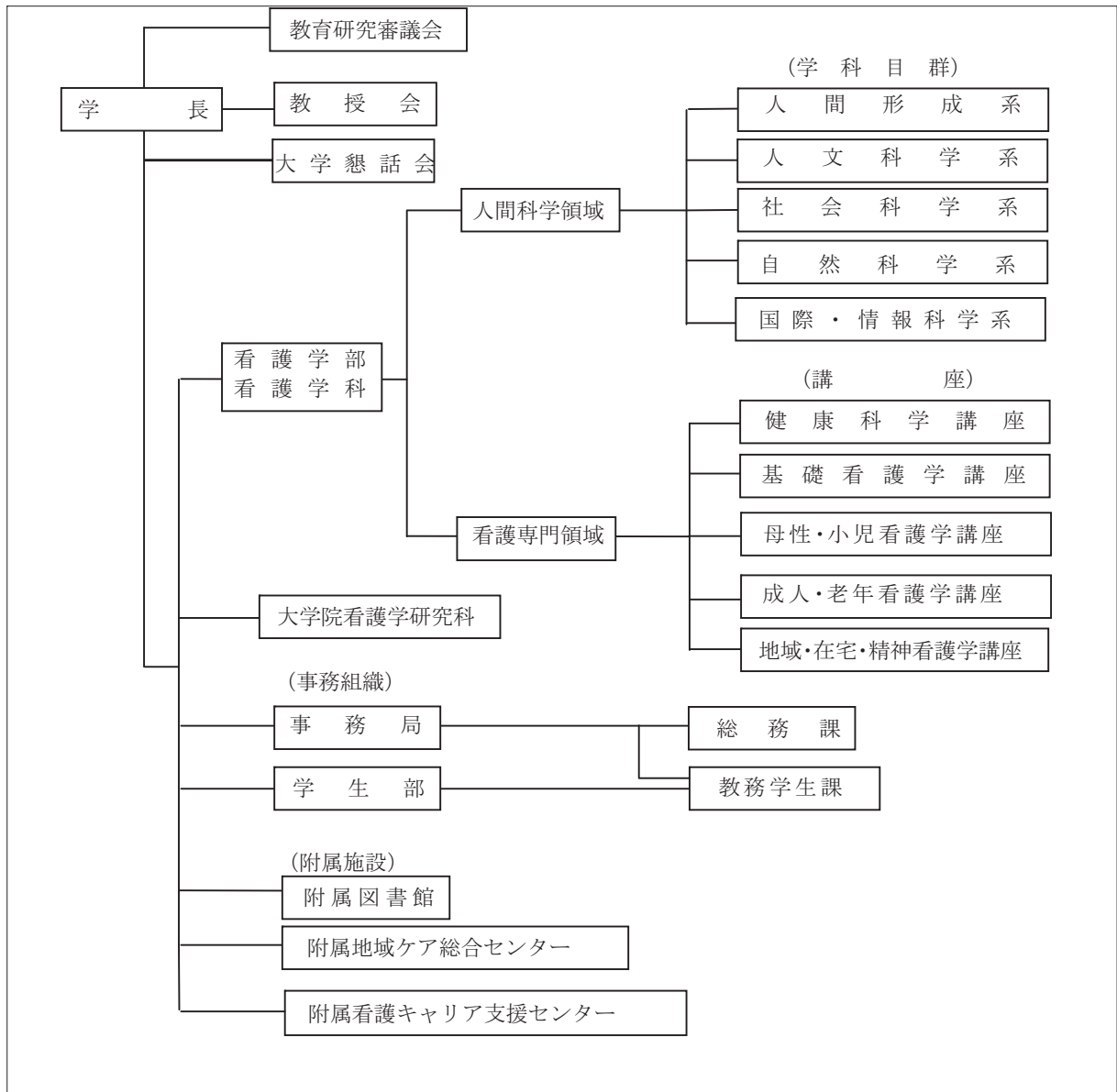
単位 (人)

区 分				県内 人数	県外 人数	合計 人数
就 職	看 護 師 研 究 員 教 員 保 健 師	計		7	1	8
				0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
進 学	大学院博士後期課程 そ の 他	計		0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
合 計			7	1	8(8)	

() の数字は内数であり女性の数を示す

1.3 大学組織図

1.3.1 大学組織図



1.3.2 委員会構成

教務委員会	第3木曜日	13:00～
フィールド実習専門部会	随時	
看護学実習専門部会	第1木曜日	9:00～
学生委員会	第3木曜日	14:40～
学年担任	随時	
学生相談専門部会	第3木曜日	16:00～
進路支援専門部会	第1木曜日(随時)	9:00～
図書館運営委員会	第2木曜日	15:30～
石川看護雑誌編集部会	随時	
研究推進委員会	第4木曜日	13:00～
共同研究審査部会	随時	
情報システム委員会	随時	
地域ケア総合センター推進協議会	年2回程度	
地域ケア総合センター運営委員会	第4木曜日	10:40～
国際貢献専門部会	第1木曜日	14:40～
地域貢献・活動専門部会	第2木曜日	14:40～
人材育成専門部会	第2木曜日	14:40～
国際交流委員会	第1月曜日	10:30～
広報委員会	第2木曜日	前期 9:00～ 後期 10:45～
入学試験委員会	必要に応じて	
入試実施専門部会	必要に応じて	
入試評価専門部会	第3木曜日	9:00～
FD/自己点検・評価委員会	奇数月第2月曜日	10:40～
教員評価検討部会	随時	
年報・自己点検評価専門部会	必要に応じて	
FD/授業評価専門部会	第4火曜日	16:20～
ハラスメント委員会	随時	
情報セキュリティ委員会	随時	
コンプライアンス委員会	随時	
遺伝子組換え実験等安全委員会	必要に応じて	
大学院教務学生委員会	第4火曜日	13:00～
倫理委員会	第4木曜日	14:40～
がんプロ運営企画委員会	第1木曜日(隔月)	15:00～
がんプロ運営委員会	随時	
大学コンソーシアム連絡会議	随時	

1.4 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
国際・情報科学系群	英語		国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
	情報科学		
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。	
	在宅看護学		
	精神看護学		

1.5 オープンキャンパス

夏のオープンキャンパスの概要

平成25年7月20日(土) 9時45分～14時30分

- 1) 大学説明会
 - ・本学の概要説明
 - ・入試説明
 - ・在学生からのメッセージ
- 2) 模擬授業
- 3) 保護者セミナー
 - ・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
 - ・学費・奨学金、アパート情報について
- 4) 学生によるキャンパスライフの紹介
 - ・看護学実習、アメリカ看護研修について
 - ・サークル・課外活動について
- 5) 在学生・教職員による相談・交流コーナー
- 6) 施設見学・看護学実習体験

秋のオープンキャンパスの概要

平成25年10月27日(日) 9時30分～12時00分

- 1) 大学案内
 - ・学長からのメッセージ
- 2) 学生によるキャンパスライフの紹介
- 3) 入試対策セミナー
 - ・小論文、面接について
- 4) 在学生・教職員による相談・交流コーナー

1.6 懇話会

石川県立看護大学懇話会

- 1) 開催日時 平成26年3月6日(木) 13時30分～
- 2) 開催場所 石川県立看護大学管理棟2階小会議室
- 3) 学外出席者
(9名)

石川県医師会長	近藤 邦夫
石川県看護協会会長	吉野 幸枝
石川県立中央病院長	山田 哲司
金沢医療センター看護部長	青木 きみ代
金沢大学医薬保健研究域保健学系教授	稲垣 美智子
石川県婦人団体協議会長	藤多 典子
会議通訳、翻訳者	早川 芳子
石川県保健所長会長	南 陸男
かほく市長	油野 和一郎
- 学内出席者 学長、研究科長、学生部長、図書館長・看護キャリア支援

センター長、地域ケア総合センター長、教育研究審議会委員、事務局長、総務課長、教務学生課長

4) 主な内容

- (1) 看護大学の現況について
- (2) 学生の進路状況について
- (3) 看護キャリア支援センターについて
- (4) 地域貢献及び国際貢献について
- (5) 意見交換

2. 教員・職員紹介

2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花 渉
	人文科学系群	哲 学	教 授	浅見 洋
		心 理 学	教 授	武山 雅志
	自然科学系群	人間工学	教 授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教 授	松原 勇
		英 語		
	健康科学講座	機能・病態学	教 授	長谷川 昇
			教 授	今井 美和
			准教授	中田 隆博
		保健・治療学	教 授	多久和 典子
			教 授	大木 秀一
	基礎看護学講座	基礎看護学	教 授	川島 和代
			教 授	丸岡 直子
			講 師	中田 弘子
			講 師	田甫 久美子
			助 教	田村 幸恵
			助 教	木森 佳子
			助 手	中嶋 知世
			助 手	三輪 早苗
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教 授	吉田 和枝
			准教授	山岸 映子
			講 師	米田 昌代
助 教			曾山 小織	
小児看護学		教 授	西村 真実子	
		講 師	堅田 智香子	
		助 教	東 雅代	
		助 教	伊達岡 五月	

研 究 課 題
住民参加型健康教育が心と身体の健康に及ぼす影響、大学生の社会人基礎力育成に関する研究
西田哲学の研究、死生学に関する研究、医療倫理に関する研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、新人看護職者のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動 (Heart rate variability) による自律神経機能評価およびその応用 体幹加速度による歩行対称性の解析
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、 情報処理教育方法の改善研究
機能性食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践、 ICTを用いた健康ケアシステムの構築と実践、医薬品の適正使用に関する研究
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
アミノ酸トランスポーターOCT2に関する細胞生物学的解析 免疫組織化学法の改良に関する研究
(1) 生理活性脂質メデイエーターの生理学・病態生理学的意義の解明 (2) 現代のメディカルプロフェッショナル育成：新しい教育メソッドの構築 (3) 疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児家庭に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究
看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）、看護技術の開発と実践への適用に関する研究
退院支援・退院調整に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究、看護管理に関する研究
清潔ケアに関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
若年男性労働者の体重増加に関する研究 労働者の健康習慣に関する研究
基礎看護教育に関する研究
看護技術に関する基礎研究と開発、創傷アセスメント・リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の 技術についての研究
在住外国人の健康課題に関する研究、生活習慣病の発生や予防に関する研究
基礎看護教育に関する研究
女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護に関する研究、産痛の受容と回避に関する研究、生殖に 関する生命倫理の研究、
母乳哺育に関する研究、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する研究、地域における子育て支援に 関する研究、国際保健に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族への援助に関する研究、周産期のケアに関する研究、 子育て支援に関する研究
周産期のケアに関する研究、妊婦のセルフケア促進に関する研究、子育て支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、特に育児不安・育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究 子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難に悩む母親への援助に関する研究、痛みを伴う処置を受ける子どもの反応に関する 研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究 子供へのデスエデュケーションに関する研究
子育て支援に関する研究、妊娠期からの子育て支援に関する研究、思春期からの親準備教育に関する 研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名	
看護専門領域	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野 智恵	
			教授	村井 嘉子	
			准教授	北山 幸枝	
			講師	岩城 直子	
			助教	中田 由紀子	
			助教	川端 京子	
			助手	寺井 梨恵子	
			助手	大西 陽子	
		老年看護学	教授	高山 成子	
			講師	中道 淳子	
			助教	森田 聖子	
			助教	山田 ルミ	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣 和子	
			准教授	阿部 智恵子	
			准教授	塚田 久恵	
			准教授	織田 初江	
			助教	曾根 志穂	
			助手	金子 紀子	
			在宅看護学	教授	林 一美
				准教授	彦 聖美
助教				子吉 知恵美	
助手				井上 智可	
精神看護学		准教授	谷本 千恵		
		講師	川村 みどり		
		助教	大江 真吾		
		助教	清水 暢子		

研 究 課 題
がん患者の「生きる意味」への支援、がん患者とその子供への支援プログラムの開発
クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
創傷の管理および看護技術に関する研究、 栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討
内視鏡看護の基礎的研究、看護師の社会的スキルに関する研究、がん患者の心理的ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究
高齢者の退院支援に関する研究
看護継続教育に関する研究、がん患者とその子供への支援プログラムの開発
転倒リスクマネジメントに関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
認知症高齢者の生活行動への看護方法の研究 治療が必要な疾患を有する認知症高齢者の看護（がん、大腿骨頸部骨折、等）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
高齢糖尿病患者のセルフケア行動の実態と支援プログラムの構築に関する研究、認知症高齢者ケアに関する研究
安静を余儀なくされる認知症高齢者への看護に関する研究 糖尿病患者のフットケアに関する研究
僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究、保健師活動に関する研究
地域で生活している対象への生活支援に関する研究
生活習慣病に係る保健事業評価に関する研究、介護予防に関する研究
①地域看護・公衆衛生看護、保健指導能力の育成に関する研究 ②行動変容、健康づくり、地域ケアシステム、保健事業の評価に関する研究
乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、高齢者の生活機能維持に関する研究、難病疾患の在宅療養支援に関する研究
地域ケアのあり方に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
根拠に基づいた家族介護者支援の研究、在宅ケアと死生観に関する研究
発達障害児とその保護者の受容状況に応じた保健師による援助方法、重症心身障害児のレスパイトに関わる看護師の介護者への支援に関する研究
訪問看護に関する研究、家族看護に関する研究
過疎地域の精神障がい者の地域生活支援、精神科病院におけるインシデントレポートの分析、セルフヘルプ・グループの意義や効果
精神科看護の教育に関する研究、精神科看護に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究
精神疾患患者における認知機能障害への介入とその効果測定、保健、医療、福祉の面から精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究

2.2 教員組織構成（平成26年3月現在）

2.2.1 所属領域・講座と職位構成

単位（人）

領域	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学		5(0)	5(0)	4(0)	1(0)			
看護専門	健康科学	5(2)	5(2)	4(2)	1(0)			
	基礎看護学	8(8)	6(6)	2(2)		2(2)	2(2)	2(2)
	母性・小児看護学	8(8)	8(8)	2(2)	1(1)	2(2)	3(3)	
	成人・老年看護学	12(12)	10(10)	3(3)	1(1)	2(2)	4(4)	2(2)
	地域・在宅・精神看護学	14(13)	12(11)	2(2)	5(5)	1(1)	4(3)	2(2)
	計	52(43)	46(37)	17(11)	9(7)	7(7)	13(12)	6(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.2.2 職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
教授	17(11)			2	10	5	57.5歳
准教授	9(7)			5	3	1	51.2歳
講師	7(7)		1	3	3		48.6歳
助教	13(12)		7	6			40.2歳
教員	46(37)		8	16	16	6	50.0歳
助手	6(6)	1	4	1			35.5歳
計	52(43)	1	12	17	16	6	48.4歳

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.2.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	23(17)	16(16)	7(1)
博士後期課程	16(16)	9(9)	7(7)

（ ）の数字は内数であり教授の数を示す

2.2.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40代	50代	60代	平均年齢
教授	17 (11)	2	10	5	57.5歳
准教授	6 (4)	4	2		49.0歳
計	23 (15)	6	12	5	55.3歳

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.2.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40代	50代	60代	平均年齢
教授	16 (11)	2	9	5	57.6歳

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3 特任教員紹介

職位	氏名	担当	任期
特任准教授	浅見 美千江	附属看護キャリア支援センター	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日
特任助教	宮崎 彩乃	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日
臨時講師	久米 真代	老年看護学	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日
臨時助教	大畑 友紀	小児看護学	平成25年9月1日 平成26年3月31日
臨時助手	津山 玲奈	基礎看護学	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日
臨時助手	舟田 眞美	在宅看護学	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日

2.4 職員紹介

事務局 長	中村 義孝
-------	-------

<総務課>

総務課 長	青山 正三
主幹兼総務管理係長	松田 敏広
専 門 員	気谷 雄次郎
専 門 員	清水 純子
主任 主 事	山崎 正志
業 務 主任	松原 安文
主 事	岩谷 茜
非常勤嘱託	青山 恵
事 務 員	初見 由依
事 務 員	岩崎 美智代

<教務学生課>

教務学生課 長	入道 勝行
専 門 員	山岸 吉輝
主 事	高平 裕介
非常勤嘱託	奥村 麻由
事 務 員	井ノ山 寿美
事 務 員	折戸 やよい

<附属地域ケア総合センター>

センター 長	(兼)川島 和代
専 門 員	砂山 美和
コーディネーター	南 美知子
コーディネーター	竹森 結花

<附属図書館>

館 長	(兼)丸岡 直子
主 幹	山本 晃暢
非常勤嘱託(司書)	山田 志歩
非常勤嘱託(司書)	東 加奈子

<附属看護キャリア支援センター>

センター 長	(兼)丸岡 直子
非常勤嘱託	片山 幸美

3. 委員会活動

3.1 教務委員会

委員長：西村真実子 教授

委員：多久和教授、垣花准教授、阿部准教授、谷本准教授、彦准教授、中田弘子講師、米田講師、岩城講師、森田助教、入道教務学生課長、山岸専門員

開催頻度：定例会議（原則第3木曜日）計11回（うち臨時教務委員会1回を含む）

活動内容：

教務に関する以下の事項の審議を行った。

1. 成績判定および先修要件・卒業要件の判定
2. 既習得単位の認定
3. 随時試験・定期試験時間割・試験監督の決定、平成26年度の時間割作成
4. 非常勤講師等の任用
5. 臨床教授等付与制度の運用に関する検討
6. 看護学実習の再履修に関する学生便覧への掲載
7. 2014年度フィールド実習の方法(カウンターパートナー型、民泊型)に関する検討
8. 2014年度実施の新カリキュラム(Human Health Care 科目の新設等)に関する検討・確認
9. 卒業研究に関する事項(受け持ち学生数決定・オリエンテーション・発表会運営等の学生への研究指導以外の事項)
10. FD部会主催・教務委員会共催「批判的思考力の育成と評価」の研修会
11. 教務委員会ガイダンス(自学自習を促進するための工夫の検討等)
12. フィールド実習部会に関すること
13. 看護学実習部会に関すること
14. 石川コンソーシアムのシティカレッジへの科目の提供および本学学生の受講科目の成績の確認
15. その他教務に関すること(オムニバス科目の担当者、国際看護演習のシラバス、成績通知書の表記等)

3.1.1 フィールド実習専門部会

部会長：垣花渉 准教授

部会員：大木教授、川村講師、曾山助教、中田助手、中嶋助手

開催頻度：随時

活動内容：

フィールド実習に関する専門的事項の審議及び実習の円滑な運営を図った。

1. 平成25年度フィールド実習要項の作成
2. 平成25年度フィールド実習オリエンテーションの実施（学生用・教員用）
3. 学生の実習計画案に基づく調整、担当関連一覧表の作成
4. フィールド実習経過報告会を学生主体で行うための事前準備等支援
5. フィールド実習報告会を学生主体で行うための事前準備等支援

6. フィールド実習のFD授業評価の実施、集約及び報告
7. フィールド実習の授業評価（学生用）の実施、集約及び報告
8. フィールド実習担当教員へのアンケート調査の実施、集約及び報告
9. フィールド実習を通じた社会人基礎力の成長の評価の実施、集約及び報告
10. フィールド実習自己評価票（学生用）の集約
11. フィールド実習施設に関する情報ファイルの作成
12. フィールド実習報告集（平成24年度）の作成
13. 平成25年度フィールド実習体制の反省
14. 平成26年度フィールド実習要項の検討及び改訂

3.1.2 看護学実習専門部会

部会長：谷本千恵 准教授

部会員：堅田講師、田村助教、曾山助教、山田助教、寺井助手、金子助手、井上助手

開催頻度：定例月1回（原則第1木曜日、必要時メール会議、IV段階実習中は不定期開催）

活動内容：

各看護学実習を円滑に遂行するために共通する専門的事項の審議および実施

1. 新年度ガイダンスにおける実習オリエンテーションの実施（4年生）
2. 実習施設との連絡・調整
3. 第IV段階実習に関する業務（実習要項の編集、ローテーションおよび学生配置表の作成、全体オリエンテーションの事前準備・運営）
4. 学生の実習状況に関する情報交換および要支援学生に対する支援方法の検討
5. インフルエンザ等の感染症流行に関わる予防対策および情報交換
6. 看護学実習中のヒヤリ・ハット記録の集計と分析
7. 実習記録の学生への返却
8. 実習部会備品の補充・管理
9. 同意書、誓約書等の保管・管理
10. ユニフォームに関する業者との調整および学生への提供支援
11. 平成26年度臨地実習スケジュールの策定
12. 実習中の携帯電話使用状況に関する調査の実施

3.2 学生委員会

委員長：浅見洋 教授（学生部長）

委員：牧野教授、今井教授、武山教授、織田准教授、垣花准教授、彦准教授、堅田講師、川村講師、田甫講師、中田弘子講師、入道教務学生課長

事務局：井ノ山事務員

開催頻度：定例月1回（原則 第3木曜日）

活動内容：

1. 学生委員会の開催(12回)、臨時学生委員会1回

審議事項および実施事項：

- ・ 平成 25 年度新入生ガイダンス・学生ガイダンスの準備
- ・ 平成 25 年度新入生ガイダンス・学生ガイダンスの実施
- ・ 平成 25 年度ガイダンス（6 月、10 月 2 回）の実施
- ・ オープンキャンパス協力
- ・ 学生セミナー開催（2 回/年）
- ・ 自治会活動及びサークル活動の支援
- ・ 後援会助成金申請および実施報告に関する学生への周知
- ・ 奨学金等、学生支援に関する周知、奨学金申請者の面接
- ・ 大学祭実施の支援
- ・ 同窓会総会開催の支援
- ・ クラスアワー開催の支援
 - 修学困難、病気等の学生の把握と対応（必要時担任との連携）
- ・ 平成 26 年度学生便覧の改訂と作成、改変
- ・ 学内緊急連絡メール活用
- ・ 学生サークルの支援
- ・ 被災地学生ボランティア活動への支援
- ・ 学生の動向把握と休学者との面接
- ・ 学生のニーズ調査に基づいて学長等との懇談会を実施
- ・ その他、学生指導と修学支援

2. 学生の健康支援

- ・ 定期健康診断および健康指導（保健室担当）の援助
 - B 型肝炎ワクチン等予防接種の指導
- ・ 罹病学生の把握と保健指導
- ・ 学生相談専門部会との情報交換

3. 学生の進路支援

- ・ 就職活動の支援
- ・ 国試対策への支援
- ・ 進路アドバイザー部会との情報交換
- ・ 就職・進学等の状況把握

3.2.1 学生相談専門部会

部会長：浅見洋 教授（学生部長）

部会員：武山教授、谷本准教授、井上助手、奥村保健室担当、入道教務学生課長

開催頻度：定例月1回

活動内容：

1. 学生相談部会の開催（6回）
2. 学生相談、およびカウンセリングの実施
 - カウンセラーの浅見教授、武山教授、谷本准教授、井上助手、奥村保健室担当が主に対応
3. こころの健康調査（MMPI）の実施及びフィードバック
4. こころの健康調査の実施

- 入学への積極性、入学に際しての不安など—
- 5. 修学困難、病気等の学生の把握と対応
- 6. 復学および休学意思の確認
休学・退学者との面談と指導
- 7. 学生の健康支援
定期健康診断および健康指導（奥村保健室担当）

3.2.2 進路支援専門部会

部会長：牧野智恵 教授

部会員：山岸准教授、塚田准教授、田甫講師、東助教

開催頻度：部会開催5回（不定期）、メール会議5回

活動内容：

施設及び企業からの求人・アンケート対応、及び学生への進路相談および看護師・保健師国家資格取得支援活動

1. 学生の進路支援

- 1) 学生の進路相談・面接の実施および生活指導
- 2) 進学者（養護教諭）受験対策としての小論文添削指導
- 3) 採用試験に向けての履歴書作成支援
- 4) 就職内定・進学状況の把握、および大学への報告
- 5) 3年次生への国家試験および保健師採用試験準備の支援
- 6) 病院見学および就職・進学試験情報の学生への周知
- 7) 進路情報コーナーの整備
- 8) 就職情報交換会に出席
- 9) 昨年度国家試験不首尾者への支援

2. 看護師・保健師国家資格取得支援

- 1) 国試模試受験に対する教室確保・環境整備
- 2) 業者模擬試験に関わる支援、問題の受領と担当学生への引渡、模試結果の返却と学習指導
- 3) 業者による国家試験対策無料ガイダンス実施に対する支援（7月、3月開催）
- 4) 成績不良者への生活・学習指導（進路支援部会と卒業研究担当者との連携）
- 5) 学内の補習講義の企画・実施に対する支援
- 6) 国試受験激励会開催
- 7) 国試受験日の交通手段確保支援および当日の学生状況把握
- 8) 国家試験結果の確認および結果後のフォロー
- 9) 第100回保健師、第103回看護師国家試験問題の教員への開示
- 10) 昨年度国家試験不首尾者への支援（4回/年実施）

3. 国家試験受験手続き（願書記入、受験票配布）および免許申請に対する指導

4. 施設および企業への対応

- 1) 求人募集施設・関係者との面談および情報収集
- 2) 進路就職調査への対応

- 3) 臨時・嘱託職員募集に対する対応
- 5. 次年度進路の手引きの改訂

3.3 図書館運営委員会

委員長：丸岡直子 教授（附属図書館長）

委員：丸岡教授、松原教授、中田准教授、彦准教授、堅田講師、久米臨時講師、
青山総務課長

事務局：山本主幹

開催頻度：定例月 1 回（第 4 木曜日） 計 4 回開催

1. 附属図書館規程の改正

- ・貸出冊数を 5 冊から 10 冊に変更したこと、土曜日の開館時間を変更したことにもなつて、附属図書館の規程を改定した。

2. 図書等整備状況

- ・4 月、8 月に教職員の推薦による図書 1,153 冊、視聴覚資料 165 点を選定し整理した。
- ・学生から先輩、後輩に薦めたい図書を募集し、30 冊の希望図書を購入整備した。

3. 図書館中期目標・長期計画

- ・「図書整備計画」に沿って計画的に図書・視聴覚資料を整備することについて検討。
- ・電子ジャーナル、データベース環境の確保について検討。

4. 企画展示

- ・「災害看護展」「第 1 回教員推薦図書展」「教職員推薦 わたしの 3 冊」「日本のナイチンゲール展」等、計 7 回の展示を実施した。

5. リユース図書について

- ・複本として所蔵する図書をリサイクルするため、夏のオープンキャンパス（7 月）、学園祭（10 月）に図書のリユースを実施した。

7 月：80 人 178 冊 一般 3 人 6 冊（計 83 人 184 冊） 10 月：42 人 115 冊

総計 125 人 299 冊

6. わく・ワーク（work）体験事業について

- ・平成 25 年度から、かほく市立高松中学校生徒 3 名を受け入れて、2 日間図書の装備、文献複写業務等の図書館業務を体験する「わくワーク（work）体験」事業を行った。

7. 館内レイアウトの変更について

- ・館内図書配架場所のリニューアルを実施

2 階に配架してあった図書 369～399 を 1 階へ移動。閲覧室の配架図書を一般教養、看護学、医学の資料群にまとめる作業を、8 月 12 日（月）～16 日（金）の 5 日間、学生ボランティア 5 名とともにいった。

8. 9 月の開館時間の変更について

- ・夏季休業期間中に実施される「基礎看護学実習Ⅱ」に合わせて、図書館の開館時間を午後 7 時まで開館、秋分の日を臨時開館した。

9. 「図書館特別利用証」のデザインについて

- ・卒業生、学外利用者に発行する「図書館特別利用証」のデザインを変更し、平成 26 年度から新しい利用者カードを使用することとした。
10. 学生アンケートについて
- ・図書館のサービス向上、運営改善のためアンケートを実施した。その内容を検討した結果、文献複写依頼が図書館システムを使ってできるMyCARINの使い方、当館に所蔵していない図書が他の図書館から借りることができる等の図書館サービスについて、周知を図るための広報を展開することにした。
 - ・図書館 2 階の会議室の利用促進を図るため愛称を募集し「がんばROOM」に決定した。
11. 雑誌の貸出しについて
- ・平成 25 年 4 月から雑誌のバーコード貼付作業を開始し、開架分約 22,000 冊のデータ登録が完了したので、平成 26 年 4 月から学部生は 3 冊、2 日間、院生、教職員は 5 冊、2 日間雑誌の貸出しを実施することに決定した。
12. JAIRO Cloud について
- ・平成 25 年 4 月 1 日の学位規則改正により、博士論文を機関リポジトリによる公表が義務付けられたことを機会に、当大学でもリポジトリの構築が急務となった。平成 26 年度、国立情報学研究所が運用する「JAIRO Cloud」への参加を前提に作業を開始することに決定した。
13. 日曜日開館について
- ・学生から要望があった、日曜日開館について検討した。図書館職員 3 名で日曜日開館を実施することは、日常業務に支障が生じること、すでに、図書館サービス向上を図って土曜日の開館時間延長や貸出し冊数を 10 冊にするなど図書館サービスの拡充を行ってきた。しかし、学生の要望を真摯に受け止め、試行的に第IV段階実習が始まる 10 月から 12 月の 1、2 クール、3、4 クールの間の日曜日、午後 1 時から 5 時まで、学生、院生のみ利用に限定して日曜日開館を試行することとした。なお、カウンター業務はアルバイトで対応するため、図書の貸出、返却のみとする。
14. 平成 26 年度図書館行事企画（案）について
- ・本学のリポジトリ構築のため、国立情報学研究所が運用する「JAIRO Cloud」に参加するため、平成 26 年度中に参加申請を行う予定。
 - ・図書館中・長期計画の策定を行う。
 - ・企画展示「闘病記」展、「看護の歴史」展を夏・秋のオープンキャンパスに実施する予定。

3.3.1 石川看護雑誌編集専門部会

部会長：多久和典子 教授

委員：松原教授、丸岡教授、山岸准教授、織田准教授、北山准教授、森田助教、大西助手

事務局：山本主幹

開催頻度：随時

活動内容：

1. 本年度から査読システムを一部電子化した。その結果、紙媒体による査読に比べて大幅に省力化できることを確認した。なお、投稿論文・修正論文は、従来通り紙媒体で3部を提出することとしている。
2. 石川看護雑誌第11巻を2014年3月に発行した。
3. 第10巻に引き続き、編集後記において、大学院における研究成果の論文としての公表を呼びかけた。なお、昨年度から本学大学院生に石川看護雑誌を配布し、周知を徹底している。

3.4 研究推進委員会

委員長：丸岡直子 教授（附属図書館帳）

委員：長谷川教授、松原教授、阿部准教授、岩城講師、堅田講師、山本主幹

開催頻度：定例月1回（第4木曜日）の11回開催

活動内容：

1. 学内研究助成の募集と決定

- 1) 前年度に作成した平成25年度学内研究助成募集要項により、研究助成の募集を行い、学内研究助成審査部会の審査結果をうけて委員会で採択案を決定した。その採択案を教育研究審議会での審議を付託した。今年度は二次募集を行った。

- 2) 平成25年度学内研究助成課題のホームページ掲載

*平成25年度の学内助成による研究

研究代表者	課 題 名
織 田 初 江	能登半島の中山間地域の限界集落で暮らす人々の健康観と死生観
森 田 聖 子	認知症をもつ高齢糖尿病患者のセルフケアの実態に関する研究
丸 岡 直 子	PNS (Partnership Nursing System) 導入における看護師のパートナーシップマインド育成に関する基礎的研究
大 木 秀 一	国内における生殖補助医療の動向と予後に関する包括的疫学研究
彦 聖 美	北陸3県（福井県・石川県・富山県）における妻や親を介護する男性介護者の介護状況の実態調査
金 子 紀 子	ソーシャルキャピタル概念とこれまでの母子保健活動との関連に関する文献検討
中 田 隆 博	有機カチオントランスポーターOCT2の局在に関する研究
谷 本 千 恵	過疎地域における精神障がい者の地域生活支援システムの現状と課題に関する研究

浅見 洋	ドイツの高齢者介護施設におけるターミナルケアについて －事前指定の現在－
吉田 和枝	20代女性の出産意欲の現状と妊娠・出産についての学習プログラム 開発に向けての基礎的な実態調査研究
長谷川 昇	オーダーメイド健康増進プロモーションシステムの実践効果の検証
高山 成子	絶対安静治療を余儀なくされる認知症高齢者の看護方法の構築 －大腿骨転子部骨折牽引及び人工透析を受ける認知症高齢者の 看護経験から－
多久 和典子	血管バリア機能を制御する血中脂質メディエーターの機能解析
井上 智可	石川県の訪問看護ステーションにおける精神疾患をもつ療養者の利用 に関する実態調査
中嶋 知世	石川県に住む外国人の実態調査 －健康問題を中心とした量的な現状把握－
田村 幸恵	看護学実習における大学教員の連携行動
久米 真代	がん終末期にある中等度から重度の認知症高齢者の身体的苦痛に対する 看護方法の有効性の検証
牧野 智恵	化学療法中の造血管腫瘍患者に緑茶を用いた口腔ケアの効果
西村 真実子	乳児期からの子ども虐待予防の支援活動 「子育てルーム “めばえ”」の評価
中田 弘子	看護師が対応困難感を抱く事例検討への効果的な支援方法

3) 平成26年度学内研究助成募集要項の作成と募集

平成26年度の募集は、平成25年12月28日～平成25年2月28日に行い、研究A：1件、研究B：14件、海外研究発表旅費：2件の応募があり、学内研究助成審査部会の審査結果をうけて委員会で採択案を決定した。その採択案を教育研究審議会での審議を付託することとした。なお、学内研究助成研究費に残額が生じたため、二次募集をおこなうこととし、募集要項案を決定した。

2. 教育・研究推進に係るフォーラム等の開催

1) 研究フォーラム

開催日時：平成25年6月26日（水）16:20～17:30 参加者：24名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

研究フォーラムのテーマおよび講師：

「臨床における看護研究の支援」 川村みどり講師（精神看護学）

「長期臥床患者の手指の清潔ケアに関する研究

－片麻痺患者の麻痺手の洗浄に微酸性電水を併用することの衛生効果

中田弘子講師（基礎看護学）

2) 研究サポート集会

既に科研費を獲得している研究者が、科研費を獲得するために必要な準備等を若手研究者に向けて解説すると共に、科研費助成金申請の手続きについて周知した。今年度は2回開催した。

対象者：教員

開催日時：1回目；平成25年7月30日（火）16:00～16:45 参加者：28名

2回目；平成25年9月20日（金）16:00～17:15 参加者：32名

場 所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

1回目：科研費獲得までの道のり 彦聖美准教授

書籍に学ぶ若手Bの応募について 寺井梨恵子助手

2回目：科研申請の事務手続き等 松田敏広主幹

科研費申請における留意事項 長谷川昇教授

3) ワシントン大学における DNP 教育の視察報告

開催日時：平成25年7月30日（火）16:50～17:20 参加者：32名

内容：UW における高度実践看護師教育の現状と課題（西村真実子教授）

高度実践のための病態生理学・薬理学の教育（塚田久恵准教授）

高度実践のための Physical Assessment 教育（岩城直子講師）

4) 平成24年度学内研究助成成果報告会の開催

12課題の発表があった。

開催日時：平成25年9月17日（火）13:00～15:00 参加者：38名

平成25年9月18日（水）13:00～14:20 参加者：43名

5) 特別講演会の開催

開催日時：平成26年3月17日（月）13:00～15:00 参加者：54名

演題・講師

「トランスレーショナルリサーチ」

東京大学大学院医学系研究科

老年看護学／創傷看護学分野 真田弘美教授

3.4.1 学内研究助成審査部会

部会長：丸岡直子 教授

委員：浅見教授、小林教授、今井教授、高山教授、西村教授、林教授、山岸准教授、
織田准教授、北山准教授

開催頻度：3回開催

活動内容：

1. 平成25年度学内研究助成申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。
2. 平成26年度学内研究助成（1次募集）申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。

3.5 情報システム委員会

委員長：小林宏光 教授

委員：中田准教授、木森助教、大江助教、寺井助手、松田主幹

開催頻度：随時

活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理・運営を担当している。また、毎月1回、県立大学と合同で情報システム管理に関する会議があり、委員長および事務局担当者が参加している。

3.6 地域ケア総合センター推進協議会

委員長：石垣和子 教授（学長）

委員：中村事務局長、川島教授（附属地域ケア総合センター長）、長谷川教授、西村教授、村井教授、垣花准教授、塚田准教授、菊池修一（県健康福祉部次長・外部委員）
立浦紀代子（羽咋市社会福祉協議会会長・外部委員）
種本博（石川県かほく農業協同組合代表専務理事・外部委員）
野口美和子（沖縄県立看護大学元学長・外部委員）
山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター長・外部委員）
吉田忠司（吉田司株式会社代表取締役社長・外部委員）

開催頻度：年1～2回 平成25年度は1回開催

活動内容：平成26年3月7日（金）委員会開催

主な内容

平成25年度事業報告

平成26年度事業計画説明

平成25年度に新設された看護キャリアセンターに関する説明

手浴ベースンの商品化についての経過報告

意見交換

地域ケア総合センター活動の肯定的な評価

事業一つ一つの質疑応答

県や自治体との連携の重要性

行政や看護現場だけでは進まないことを大学が支援することへの期待 等

3.7 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：川島和代 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：松原教授、長谷川教授、吉田教授、牧野教授、林教授、入道教務学生課長

事務局：砂山専門員

開催頻度：隔月1回（原則、第4木曜日） 計5回開催

活動内容：

1. 平成25年度地域ケア総合センター関連委員会・専門部会の活動概要

- 1) 地域ケア総合センターの運営体制を変更して2年目を迎え、「地域ケア総合センター運営委員会」ならびに3専門部会（①国際貢献専門部会、②地域連携・貢献専門部会、③人材育成専門部会）の体制で運営に当たった。また、センター事業の企画に外部委員の意見を反映させ、事業評価を頂くために地域ケア総合センター推進協議会を開催した。事業内容はシンプルとなり、各部会に重点的な取り組みを1～2に絞って運営された。
- 2) センター運営委員会ならびに各部会は2ヶ月に1回程度の委員会ないしは部会を開催し、事業の実施・評価を行ってきた。
- 3) 平成25年度の調査研究事業の報告会は、学内研究助成による研究報告とともに実施した。
- 4) かほく市との包括的連携協定に関する協議会にはセンター推進協議会の学内委員が担当することとした。平成25年度は2回の協議会が開催された。その中で、かほく市から提案のあった事業「ひとり暮らし高齢者への訪問活動」が学生の授業として取り入れることが出来た。
- 5) 本学の教員の開発した手浴ベースンを地域ケア総合センターの予算を活用して商品化することが出来た。

2. 運営委員会の活動

各専門部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握し、提示された課題について検討を行った。課題として、センター事業への予算配分、大学公開フォーラムの準備、外部の委託事業の受入れに関する方針、平成26年度事業の企画の立案・検討を行った。また、本学の新たな附属施設「看護キャリア支援センター」との棲み分けについて議論された。現時点では、大学発信のキャリアアップの支援は、「看護キャリア支援センター」が、地域の行政や医療機関や介護保険施設等の専門職（福祉職等も含む）からのニーズに応えるのは「地域ケア総合センター」との位置づけとなった。

3. その他の取り組み事業

1) 調査研究事業の継続

大学の戦略的な調査研究事業として「看護師の退職と再就業に関するもの」と「訪問看護推進のための方略」の2課題が研究継続となった。

2) かほく市との包括的連携協定にもとづく事業について

本学とかほく市の双方から事業提案を行い窓口担当者が事業の検討を行いながら、実施した。

3.7.1 国際貢献専門部会

部会長：川島和代 教授（附属地域ケア総合センター長）

部会員：山岸准教授、谷本准教授、彦准教授、久米臨時講師

事務局：砂山専門員

開催頻度：隔月1回（原則第1木曜日） 計5回開催

活動内容：

JICA 北陸の委託研修事業の実施ならびに国際交流委員会等が実施する公開講演会の開催支援を行った。

1. 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成コース」の実施
 研修期間：平成25年7月16日～8月9日
 研修員数：2名（パラグアイ2名）
 研修場所：石川県立看護大学、羽咋市社会福祉協議会 他
2. 青年研修「母子保健実施管理コース」の実施
 研修期間：平成25年11月28日～12月10日
 研修員：13名（中央アジアコーカサス地方5カ国混成チーム）、医師、助産師、看護師、その他
 研修場所：石川県立看護大学、かほく市、石川県立中央病院 他

3.7.2 地域連携・貢献専門部会

部会長：長谷川昇 教授

部会員：吉田教授、垣花准教授、織田准教授、北山准教授、曾根助教

事務局：砂山専門員

開催頻度：月1回（原則第2木曜日） 計5回開催

活動内容：

生涯学習講座の平成25年度大学公開フォーラム「笑いと医療～笑う看護に福来る～」事業の企画・運営を実施した。

1. オープンキャンパス2日目の10月27日（日）午後、有料講座（500円）として実施した。2部構成とし、第1部「お達者落語会」では、真打で医師の春雨や落雷師匠（安部正之先生）による江戸落語「目黒のさんま」、続いて「いきいき医学講話」では「笑いと免疫力・・・そして健康」と題した健康講話を実施した。第2部では、笑いヨガを研究している本学教員、コーディネータ教員と安部先生が壇上に上がり、フロアからの質問に答えながら楽しいひと時を過ごした。
2. かほく市民をはじめ213名の参加があった。参加者アンケート（回収率52.5%）では、「早速実践したい」との意見も多く見受けられたことから、本企画は満足度が高く、好評であったと推察された。生涯学習講座の希望テーマ調査では、健康関連の希望が多く、フォーラム内容の検討に役立った。大学祭との共同開催についても、大学に入る良い機会となり、満足度が高い様子が伺えた。
3. 平成26年度の公開フォーラムの内容について検討を行った結果、来年度の委員会に企画・運営を任せることとなった。

3.7.3 人材育成専門部会

部会長：林一美 教授

部会員：牧野教授、塚田准教授、田甫講師、米田講師、川村講師

事務局：砂山専門員

開催頻度：月1回（原則第2木曜日） 計4回開催

活動内容：

1. 人材育成専門部会の活動
 - 1) 専門職向け研修「放射線に関する基礎知識と看護実践」（北陸がんプロ共催）について金

沢大学名誉教授田崎和江氏と北里大学病院の放射線看護がん看護専門看護師久米恵江氏をお招きして研修会を開催した。第1部では、田崎氏に「放射線に関する基礎知識と看護実践」というタイトルで、実際の放射線測定器を用いた講義を頂いた。また、第2部では、久米氏には「がん放射線治療ができること、そこで看護がサポートできること」をテーマに講義を頂いた。放射線の功罪について考える貴重な機会を得た。参加者は85名であった。

- 2) 本学の教員主催の研究会や事例検討会等9講座が開講され、各教員の裁量によって運営された。CNS の誕生とともにそれぞれの専門分野の事例検討会が活発に開催されている。各研修会には一律4万円程度の支援を行なっている。
- 3) 医療機関や職能団体、行政等からの講義・講演の依頼に対して本学の教員の派遣回数は156件にのぼった。
- 4) 看護研究等の指導等に関する講師派遣は、12人の教員が11病院に対して延べ55件にのぼった。

2. 石川県からの委託事業、協力事業の実施

- 1) 県医療対策課からの委託事業として石川県看護教員養成講習会（8ヶ月講習）を3年間にわたり開催し、無事終了した。今年度は北陸3県を中心に27名の修了生を送り出した。本年度で教員養成講習会は一旦、休止することとなった。
- 2) 県長寿社会課並びに石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター事業への協力事業として介護職員等が実施する喀痰吸引等の研修事業を行った。

「不特定多数の者」に喀痰吸引等を実施できるコースを前期・後期に開催し、指導看護師80名を育成し、介護職員の受講者計300名が基本研修等を修了した。また、「特定の者」に対して喀痰吸引等を実施できるコースに50名余り受講し修了した。

3.8 国際交流委員会

委員長：吉田和枝 教授

委員：阿部准教授、中田隆博准教授、岩城講師、中田弘子講師、曾山助教、大江助教

事務局：砂山専門員

開催頻度：定例月1回（第1月曜日）および臨時開催、計10回開催

場所：教育研究棟会議室

活動内容：

1. 全学年の学生対象に国際サテライトの利用状況および英語学習についてのアンケート調査

学内施設の各部屋の利用状況を調査する作業に伴い、管理棟1階の国際サテライトの利用状況について全学の学生対象にアンケート調査を行った。調査票は342配布で回答の回収率は88%であった。国際サテライトの場の利用の再考を行った。国際的に活動できる能力を積極的に身につけたい学生は17%であり、身につけたいが積極的ではないが68%であった。英会話を授業以外で学習しているは4%にとどまり、全体的に国際的な感覚を身につけようとする学生の意欲は低いと感じられ、今後、グローバル人材の育成にあたり対策の必要がある。

2. 夏期アメリカ看護研修の実施

第9回夏期アメリカ看護研修は、8月25日～9月7日の14日間、引率教員1名・学生17名が参加して米国シアトルで実施された。Washington大学で看護師の講義を受講、同大学のメディカルセンター視察はじめ小児医療施設やホスピスの視察を行い、また生活に必要な英会話レッスンをLWIT(Lake Washington Institute of Technology)にて計7回受けた。また、マウントレーニアでの野外活動やマイクロソフトビジターセンター等も訪問した。

3. 来年度夏期アメリカ看護研修の計画立案

来年度のアメリカ看護研修の立案を行った。昨年度より引き続いて中期計画の実施として研修内容の充実および学生が参加しやすいように適切な価格とするために競争原理を働かせ数社から見積もりを取り検討を行った。教育研究審議会に報告し、最終的にシアトルの計画案に決定された。来年度の研修学生の募集にかかる広報に向けての準備を行った。

4. 夏期アメリカ看護研修の研修担当教員（引率教員）に関する内規改定について、来年度からは夏期アメリカ看護研修の研修担当教員は同時に国際看護演習の担当教員となることを委員会が提案し、教育研究審議会で承認された。

3.9 広報委員会

委員長：今井美和 教授

委員：石垣教授、高山教授、浅見教授、丸岡教授、川島教授、西村教授、曾根助教、山田助教、舟田臨時助手、中村事務局長

事務局：岩谷主事

開催頻度：11回

活動内容：

1. オープンキャンパス

・第14回 平成25年度 オープンキャンパス2013の企画立案・準備・実施

夏：開催日時 平成25年7月20日（土）9：45～14：30 参加人数 約400名

秋：開催日時 平成25年10月27日（日）9：30～12：00 参加人数 約180名

・第15回 平成26年度 オープンキャンパスの検討

日程 夏 平成26年7月19日（土）、秋 10月25日（土）午前 開催予定

2. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

・第24巻 2013.10の企画立案・編集・発行

・第25巻 2014.3の企画立案・編集・発行

3. ホームページ

・ホームページの運用

・英文ホームページの検討

4. 大学案内（学部・大学院）

・2014（学部・大学院）の企画立案・編集・発行

・2015（学部・大学院）の企画立案・編集

5. 大学コンソーシアム石川

- ・情報発信専門部会 第1回 平成25年5月13日（月） 第2回 平成25年12月18日（水）
 ※情報発信戦略ワーキンググループ 第1回 平成25年7月30日（火）
 第2回 平成25年9月10日（火） 第3回 平成25年11月19日（火）
- ・出張オープンキャンパス担当講師の調整と依頼 2013年度、2014年度
- ・石川の大学ガイドブックの編集 2013年度版、2014年度版
- ・石川県高大連携セミナー2013の参加教員を入学試験委員会に依頼
- 6. 看護への道（石川県健康福祉部医療対策課）等の原稿作成
- 7. 学生広報委員活動のサポート
 - (ア)オープンキャンパス
 - (イ)ナース・ステーション（医心発行）
 - (ウ)石川大学のガイドブック
- 8. 大学名入りグッズの検討

3.10 入学試験委員会

委員長：石垣和子 教授（学長）

委員：小林教授、長谷川教授、川島教授、吉田教授、村井教授、林教授、中村事務局長

開催頻度：8回開催

活動内容：

1. 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を円滑に行うこと。その流れの中に、入試実施部会（新設）の役割を位置づけること。また、実施体制において教務学生課等の事務職員との協働を強めること。
 - 1) 入試実施体制案作成及び当日運営は入試実施部会の役割、入学者選抜要項作成・募集要項作成・合格発表は本委員会の役割として定着し、委員会の開催回数が増加した。
 - 2) 入試実施部会の組み立てにより事務職員との協働体制が強められた。
 - 3) 入試評価部会からのフィードバックを得て、スムーズに実施できた。
2. 各入学試験の試験問題の作成と試験問題の適切な管理。
 - 1) アドミッションポリシーに照らした作問基準を新規に作成。基準に則った作問を実現。
 - 2) 試験問題の管理は従来の方策で行った。
 - 3) 作問プロセス、採点プロセスにおけるチェック体制について検討した。
3. 学生募集に関する活動
 - 1) 高等学校等への入試説明会、模擬授業等を円滑に分担するシステムとして、小講座持ち回りでの説明会等対応の徹底を行った。
 - 2) 上記により可能な限りすべての要望・申し込みに対応できた。
 - 3) 7月開催のオープンキャンパスに加え、10月学園祭と同時に行ったオープンキャンパスへの協力も行った。
4. 入試情報のホームページ上での公開と管理
 - 1) HPにて入試情報の公開と管理を行った。
5. 入試方法と入学者の特徴との関連に関する調査（入試評価部会）
 - 1) 入試評価部会より2年間に亘る調査結果報告があり、現状を認識できた。入試方法をめぐ

る動きの活発化している社会情勢を受けてさらに評価のための調査を継続する。

6. 平成25年度に行った入学試験実績(実施順)

平成25年9月7日(土)	3年次編入学試験
平成25年9月28日(土)	看護学研究科博士前期課程入学試験
平成25年11月23日(土)	推薦・社会人入学試験
平成26年1月18日(土)・19日(日)	大学入試センター試験
平成26年2月1日(土)	看護学研究科博士後期課程入学試験 看護学研究科博士前期課程(第2次募集)入学試験
平成26年2月25日(火)	一般選抜前期日程試験
平成26年3月12日(水)	一般選抜後期日程試験

3.10.1 入試実施部会

部会長：非公開

委員：非公開

開催頻度：7回開催

活動内容：看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務

研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務

大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

3.10.2 入試評価部会

部会長：非公開

部会員：非公開

開催頻度：7回開催(メール会議含む)

活動内容：以下について検討した

- ・平成26年度3年次編入学筆記試験変更に伴い継続的情報蓄積項目に関する事
- ・全国国公立大学、近隣大学における3年次編入学試験に関する事
- ・推薦入学試験における入学者数、入学後の状況及び資格取得状況に関する事
- ・平成27年度以降大学入試センター試験における理科科目採用状況に関する事

3.11 FD/自己点検・評価委員会

委員長：石垣和子 教授(学長)

委員：浅見教授、武山教授、大木教授、川島教授、丸岡教授、西村教授、村井教授、
高山教授、林教授、青山総務課長

事務局：山崎主任主事

開催頻度：原則隔月開催 計4回開催

活動内容：

1. 委員会体制について

この委員会は、3部会(教員評価検討専門部会、年報/自己点検評価専門部会、FD/授業評価専門部会)を持つため、部会からの報告、部会へのアドバイス等が委員会ごとに毎

回やり取りされた。

2. 7年ごとの認証評価・本学独自の経年評価について

大学基準協会による認証評価は平成24年度に受けたため、次回の認証評価までには数年の余裕がある。この間に経年的に自己点検評価することについて検討を開始した。(平成26年度に継続する)

3. 教員評価について

前年度に続き、教員評価検討専門部会案によって、教員個別の目標シートを用いた自己評価を行った。これを第3者が評価するための評価委員を選定し、評価委員による教員個人評価の試行を行った。さらに評価委員を評価する第2段階目の評価を施行する予定である。(平成26年度に継続する)

4. 授業評価について

FD/授業評価専門部会において改善された評価項目を用いた授業評価を実施した。その後、部会から評価結果の公表に関する相談があり、意見交換を行った。結論は得られず、次年度へ継続して検討する。

5. FDについて

大学コンソーシアム石川のFD研修を利用したFD研修を行った。

6. 新任教職員のFD・SD研修について

FD/授業評価専門部会から新任教職員のFD・SD研修の提案があり、平成25年度はじめに研修を行った。

7. 年報の作成について

年報/自己点検評価専門部会による年報作成を進めている。

3.11.1 教員評価検討専門部会

部会長：武山雅志 教授

部会員：多久和教授、林教授、村井教授、山岸准教授

開催頻度：随時

活動内容：

1. 教員評価委員の選任。
2. 教員評価委員への平成24年度振り返りシート、平成25年度目標シート、年報ファイルの提出。
3. 教員評価委員による適切度評価実施および面接に関するアンケート実施。
4. 教員評価委員への平成25年度振り返りシート、平成26年度目標シート、年報ファイルの提出。
5. 教員評価委員研修会(3月13日、講師：中村事務局長「面接の心得」)
6. 教員評価委員による面接実施。

3.11.2 年報・自己点検評価部会

部会長：大木秀一 教授

部会員：松原教授、丸岡教授、米田講師、岩城講師、川村講師、田村助教、川端助教

事務局：山崎主任主事

開催頻度：全体の部会は1回開催した。分担業務ごとの打ち合わせ会を随時開催した。

活動内容：

1. 年報の発行

平成 24 年度石川県立看護大学『年報』第 13 巻を平成 25 年 10 月に発行した。内容は、学事、教員・職員紹介、委員会活動、研究活動・社会活動、卒業研究論文題目及び修士・博士論文題目一覧、石川看護雑誌、附属図書館、地域ケア総合センター事業報告、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修、ワシントン大学との交流、いしかわシティカレッジ、地域連携活動などで、100 頁になった。印刷部数は 400 部で、県内外の関係諸機関等に送付した。

2. 年報の原稿収集

平成 25 年度石川県立看護大学『年報』第 14 巻の原稿依頼と収集を行った(平成 26 年 2-3 月)。

3. その他、今後の本学の内部質保証・外部評価に向けての継続的な学内データの収集について検討を行った。

3.11.3 FD/授業評価専門部会

部会長：村井嘉子 教授

委員：小林教授、中田隆博准教授、谷本准教授、中田弘子講師、堅田講師、東助教、

開催頻度：4回開催（メール会議含む）

活動内容：

1. 大学コンソーシアム石川教職員研修への参加

テレビ会議システムを活用して、障がい学生支援に関する学習会の参加、大教室での効果的な授業方法、学生参加型授業の実践、学生の背中を押す取り組みへの挑戦などの 7 回の FD/SD 研修会に参加した。参加人数は、延べ 98 名であった。

2. 学内研修会の開催

- ・障がいのある学生支援について講師（富山大学保健管理センター准教授・学生支援センターアクセシビリティコミュニケーション支援室長 西村優紀美先生）を招聘し、障がい学生の大学生活の実態、課題、指導における留意点などについて講義を受け理解を深めた。参加者 57 名
- ・研究倫理審査に関する学習会を開催（倫理審査委員会共催）し、研究推進のための研究倫理審査における留意事項、学部卒業研究における付議不要に関することについて説明を受け理解を深めた。大学院生 6 名を含む 52 名参加
- ・学内研修会において、授業の工夫の実際として統合実習 A および B の実際について報告し意見交換した。参加者 40 名
- ・大学コンソーシアム石川及び大学行政管理学会中部・北陸地区研究会主催の大学経営人材養成合宿研修に青山総務課長が参加しその報告を行い、大学教職員の役割と期待について理解を深めた。参加者 40 名
- ・前年度の新人教職員オリエンテーション実施報告を行い、その成果と課題について意見交換し、次年度実施について方向性を得た。参加者 40 名

- ・平成 24～25 年に実施された『臨地実習指導力評価』結果を報告した。結果より、今後必要な具体的な研修が明らかになった。参加者 40 名
 - ・学外より講師（金沢大学大学教育開発・支援センター長、大学教育研究開発部門教授 西山宣昭先生）を招聘し、「批判的思考力の育成と評価」について講義を受けた。参加者 32 名
3. 学生による授業評価票に関する検討
- ・平成 24 年度に作成した授業評価票を使用して、学生による授業評価を全科目において実施した。
 - ・学生による授業評価結果の公開についてその方法、内容等、また、該当年度の授業評価結果に加えて次年度への対策を記載する等について意見交換された。今後の継続審議となった。
4. 新任教職員に対するオリエンテーションを実施
- ・新任教職員（教員 6 名、職員 8 名）に対して、4 月 1 および 2 日において実施した。1 日目は、組織・運営について、本学の理念、大学教職員としての責務、FD/SD 活動について、2 日目は、教育関連、研究関連、附属施設関連等について研修した。

3.12 ハラスメント委員会

委員長：石垣和子 教授（学長）

委員：浅見教授、長谷川教授、吉田教授、村井教授、中村事務局長

相談員：武山教授、今井教授、彦准教授、川村講師

活動内容：

1. ハラスメント研修会（平成 26 年 2 月 26 日）参加者 41 名
「石川県立看護大学キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」の変更についての説明を委員長より行った。ついで臨地実習場面における 3 つの事例に基づくグループワークを行い、どのような対応が望ましいのかをディスカッションした。最後に「看護学教育における倫理指針」を題材に強制的な力の働きやすい臨地実習において「学生一人ひとりが大切にされていると実感できる教育環境」の大切さを確認した。
2. ハラスメントの苦情に対応して、ハラスメント委員会を招集した。「ハラスメントにはあたらぬ」という結論が出たが、支援チームを立ち上げ支援にあたった。
3. 相談：随時

3.13 情報セキュリティ委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：浅見教授、小林教授、今井教授、丸岡教授、西村教授、高山教授、川端助教
松田主幹

開催頻度：随時

主な活動内容：

平成 25 年 8 月 2 日（金）に情報セキュリティ研修会を開催した。

石川県公立大学法人統一の情報セキュリティ委員会の活動に関わってきた。

3.14 コンプライアンス委員会

委員長：高山成子 教授

委員：中村事務局長、多久和教授、牧野教授、小林教授、織田准教授、久米臨時講師、
松田主幹

開催頻度：随時（平成 25 年度は委員会を 3 回開催）

活動内容：

1. 4 月に平成 25 年度不正防止計画と、石川県立看護大学における研究者の行動規範と競争的資金等の取り扱い体系図を確認し、ホームページに掲載した。
2. 8 月に教員対象の平成 25 年度研究費不正防止の研修会を行い、昨年の研究費執行の調査結果を報告し、「行動規範」などの周知の徹底を図った（昨年同様に 38 人参加）。
3. 法人内部監査部門の研究費等内部監査（6 件）を受け、「概ね適正に執行・保管・管理されている」という結果報告を確認した。
4. 12 月に全教員に「公的研究費の不適切な経理に関する調査」を実施し、52 名の回答（回収率 100%）があった。「行動規範・不正防止計画」は認知率が昨年より増加したが、内部監査や相談窓口の仕組みの認知は 80%と低く、研修の継続の必要性が示唆された。
5. 3 月の文科省主催の事務職員対象の研究費不正防止推進の研修に松田事務官が出席した。まとめとして、公的研究費の不正使用が依然として発生している現状に基づき、2 月に文部科学省がガイドラインの改正を実施し、さらなる不正防止計画の取り組みが強化されるなかでコンプライアンス委員会による地道な啓蒙活動、システムづくりの重要性を委員会で確認した。

3.15 遺伝子組換え実験等安全委員会

委員長：中田隆博 准教授

委員：高山教授、長谷川教授、小林教授、中田弘子講師、入道教務学生課長

開催頻度：随時

活動内容：

本年度の申請件数は 2 件であった。申請内容はメール会議により各委員に周知された。申請案件は機関届出実験に相当し、委員会による審査は不要であった。

3.16 大学院教務・学生委員会

委員長：高山成子 教授（研究科長）

委員：丸岡教授、浅見教授、吉田教授、西村教授、牧野教授、大木教授
入道教務学生課長 井ノ山事務員

開催：定例月 1 回（第 4 火曜日）及び臨時会議

主な活動内容：

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会に提出し、承認を得て教務を行った。
 - ・ 新入生および在校生へのガイダンス
 - ・ 修士論文・博士論文に関し、修士（9名）の中間評価委員・博士論文（1名）の予備審査委員決定、修士中間報告会（9名発表.参加者48名）、修士論文発表会（8名発表.参加者54名）、博士中間報告会実施（2名発表.48名参加）を行った。
 - ・ 既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、研究生、休学・復学の認定
 - ・ 前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。
 - ・ 非常勤講師、院内講義担当者の、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。
 - ・ 時間割の作成、大学院便覧の作成を実施した。
2. 長期履修生支援対策の一環として、昨年実施した3名の看護部長のインタビュー結果を受けて、今後は14条の院生の意見を聞くことの必要性が確認された。
3. 「院生との懇談会（9月、2月）」開催、「意見箱」設置など院生のニーズの把握に努め、おたぽろ設置による連絡徹底、必要物品購入、早期の時間割作成など対応をした。
4. 専門看護師の受験・実習場所拡大を目的に、昨年につき2回目の「北陸3県看護部長との懇談会」を実施し、13名の看護部長の参加のもとに意見交換をした。
5. 修了生の授業・教員評価調査を9月に実施し、20名（80%回収率）の回答を得て評価結果をまとめた。概ね良い評価であった。
6. 専門看護師38単位カリキュラム申請に対応し、特別研究のあり方など検討を行った。
7. 院生の学びを深める目的で、院教務・学生委員会共催の特別講演会として、11月にキャリアセンター独立記念のルイス教授講演、3月に真田先生特別講演を共催で開催した。また、倫理研修会も共催で開催し、院生が述べ14名参加した。

3.17 倫理委員会

平成25年度実施内容

委員長：高山成子 教授（研究科長）

委員：武山教授、丸岡教授、吉田教授、中田准教授、北山准教授、外部委員

事務局：気谷専門員

開催頻度：定例月1回（毎月第4木曜日）。8月は開催し、12月は開催しなかった。

活動内容：

1. 平成25年度は学長が委嘱する学識経験者として9名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。
2. 審査数増加による外部委員の負担などの理由から迅速審査について討議してきたが、卒業研究のみに「付議不要」制度を適用することとなった。6～9月まで17件の付議不要確認を行い、また8月開催をした結果、平成25年度審査数は最高14件（昨年は最高20件）に減少した。
3. 平成25年度は、先述した付議不要の申請の説明の必要性と倫理審査の理解促進を目的に、6月に初めて第1回倫理研修会を開催し、参加者数は53名であった。3月には第2回倫理研修会、申請記入方法などの周知を目的に実施し、参加者数は38名で、研修後の申請内容において、著大な改善が見られた。

4. 平成25年度の申請数（付議不要を含む）は、教員20件、前期課程生12件、後期課程生4件、卒業論文14件、付議不要申請15件（2件は倫理審査へ移行した）で合計65件であった（昨年63件）。審査の結果は、承認60%（昨年38%）、条件付き承認34%（昨年54%）、変更の勧告6%（8%）で、昨年より承認の割合が増加した。

3.18 がんプロ企画委員会

委員長：牧野智恵 教授

委員：高山教授、林教授、多久和教授、松原教授、岩城講師
入道教務学生課長、松田主幹、宮崎特任助教

開催頻度：定例隔月開催（第1水曜日）計7回、メール会議 3回

活動内容：

1. 「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」推進に関する企画および実施
 - 1) 「がん教育改革」に関して、本科生の北陸がんプロ e-learning の単位認定および、全国 e クラウドへの参加に関する検討
 - 2) 「地域がん医療（インテンシブ）」に関して
 - ①『地域がん看護師養成コースⅠ』（大学院科目等履修）の募集要項の検討・学生募集および広報
 - ②『地域がん看護師養成コースⅡ』（修了証取得）の募集要項の検討・学生募集・成績判定・修了証の発行
 - ③『再就業に向けたがん看護実践サポート』の募集要項の検討・学生募集・成績判定・修了証の発行
 - 3) テレビ会議システムを用いた「がん看護事例検討会」の企画、運営（8回/年開催）
今年度はがん看護専門看護師のスキルアップのためのがん看護事例検討会の企画・実施（2回/年）
 - 4) 「リンパ浮腫ケア」の企画・実施・修了証発行
 - 5) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の企画・実施・修了証発行
 - 6) 「放射線と健康」の公開講座の企画
 - 7) 「英国視察研修」への参加
 - 8) 平成25年度の「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」の評価及び平成26年度企画内容の検討
2. 北陸がんプロ本科生の単位取得状況の承認
3. テレビ会議システム利用によるキャンサーボードの推進
4. 「平成24年度北陸がんプロ報告書」の作成
5. がん看護関連学会および全国がんプロ運営会議への出席

3.18.1 がんプロ運営委員会

委員長：牧野智恵 教授

委員：岩城講師、木森助教、川端助教、中田助教
松田主幹、宮崎特任助教

開催頻度：定例隔月開催（第1水曜日）計6回開催、

活動内容：

1. 「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」の実施
 - 1) テレビ会議システムを用いた「がん看護事例検討会」の企画・運営・アンケート集計（8回/年開催）

- 2) 「リンパ浮腫ケア」の企画・実施・アンケート集計
- 3) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の企画・実施・アンケート集計
- 4) 「放射線と健康」の公開講座の開催
- 5) キャンサーボードへの参加広報
2. 「平成24年度北陸がんプロ報告書」の編集
3. がん看護関連学会への参加および報告

3.19 衛生委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：今井教授、西村教授、阿部准教授、中嶋助手、中村局長、清水専門員、奥村囑託、
茶谷産業医

開催頻度：年度内に計6回開催

主な活動内容：

1. 職場巡視の実施（平成25年7月4日・平成25年11月28日・平成26年3月27日）・改善指導
2. 労働時間に関する実態調査の実施（平成25年7月）・報告・パンフレットの作成、配布
3. 消防訓練の計画・実施（平成25年7月17日）
4. 労働安全衛生研修会の実施（平成25年12月5日）
5. 「職場のメンタルヘルスに関するアンケート」の実施（平成26年1月）・報告
6. 定期健康診断の結果集計・受診率向上の検討

4. 研究活動・社会活動

4.1 書籍

4.1.1 書籍（著書）

浅見洋、「現代における死のイメージ」、細見博志(編)、島岩、竹村牧男、浅見洋他6名執筆、生から死を考える一新「死生学入門」金沢大学講義集一、北國新聞社出版局、石川、143-165、2013

阿部智恵子他15名(共著)、城ヶ端初子、新改訂実践に生かす看護理論19、サイオ出版、東京、101-114、2013

石垣和子、「保健師活動における個別ケア展開の歴史と評価」、「わが国の医療事情と入院・入所者の推移」、「病状・病態の変化の予測と自立支援」、「在宅看護に求められるヘルスアセスメント」、石垣和子、上野まり(編集)、在宅看護論、南江堂、東京、P2-4、P52-7、P102-104、P105-110、2014

大木秀一、看護研究・看護実践の質を高める 文献レビューのきほん、医歯薬出版社、東京、2013

垣花渉、石川県大学健康教育研究会(編著)、現代人のための健康づくり、北國新聞社出版局、金沢、P15-24、2014

高山成子、高山成子(編)、認知症の人の生活行動を支える看護エビデンスに基づいた看護プロトコルー、医歯薬出版、東京、編集およびp16-27、P48-55、2014.2

松原勇、統計情報学の研究事例集、非売品、金沢、B5版総頁数546頁、2014

4.1.2 書籍（翻訳）

浅見洋、Kerstin Lammer著 浅見洋、吉田新(訳)、悲しみに寄り添う一死別と悲哀の心理学一、新教出版社、東京、全164頁、2013

4.2 学術論文

4.2.1 査読有

浅見洋、中村順子、伊藤智子、諸岡了介、彦聖美、塚田久恵、浅見美千江、現代日本のルーラルエリアにおける終末期療養希望場所について一石川・島根・秋田での横断的意識調査の結果一、石川看護雑誌、11、33-40、2014

伊藤智子、加藤真紀、阿川啓子、諸岡了介、浅見洋、島根県江津市に暮らす中高年者の死生観と終末期療養ニーズに関する意識調査、島根県立大学出雲キャンパス紀要、8、65-70、2013

中村順子、高橋美枝子、木下彩子、浅見洋、阿仁地域における「住民の死生観と在宅終末期医療に関する意識」、秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要、22(1)、77-85、2014

藤田淳子、石垣和子、在宅脳血管障害者の誤嚥性肺炎予防ケアのための呼吸アセスメントツールの開発一第1報アセスメントツールの作成とその試行一、日本看護技術学会誌、12(2)、4-13、2013

- 細谷紀子、大光房枝、石垣和子、他、今日の社会・制度・業務体制下における地域のニーズに応じた保健師活動の工夫の特徴、千葉看護学会会誌、19(1)、35-44、2013
- 宮田愛実、今井美和、日本人女性における公費助成対象外HPVワクチン接種許容状況：今後の対策と研究の方向性、石川看護雑誌、11、41-50、2014
- 林紀代美、砂山美和、今井美和、石川県加賀地区滞在外国人のインフルエンザ予防行動と対処行動の実態調査、石川看護雑誌、11、83-92、2014
- Ooki S.、 Characteristics of Fatal Child Maltreatment Associated with Multiple Births in Japan、 Twin Research and Human Genetics、16(3)、743-750、 2013
- 浦山晶美、永山くに子、大木秀一、妊娠中の自尊感情・特性的自己効力感と産後抑うつとの関連性、ペリネイタルケア、32(6)、95-101、 2013
- Ooki S.、 An Overview of Human Handedness in Twins、Frontiers in Psychology、5:10:00 、doi: 10.3389/fpsyg.2014.00010、2014
- 大木秀一、彦聖美、公表された既存データの有効活用について、石川看護雑誌、11、13-22、2014
- 垣花渉、看護学生を活かした「健康のまち」づくり、地域活性研究、5、73-79、2014
- Nakajima Y, Mukai K, Nasruddin, Komatsu E, Iuchi T, Kitayama Y, Sugama J, Nakatani T.、 Evaluation of the Effects of Honey on Acute-Phase Deep Burn Wounds.、 Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine、Volume 2013 (2013),Article ID 784959、20 pages(1-20)、2013
- Kobayashi H.、 Effect of measurement duration on accuracy of pulse-counting、Ergonomics、56(12)、1940-1944、2013
- Shimizu N, Umemura T, Hirai T, Tamura T, Sato K, Kusaka Y.、 Effects of movement music therapy with the Naruko clapper on psychological, physical and physiological indices among elderly females: a randomized controlled trial. 、Gerontology、59(4)、355-67、2013
- 渡辺陽子、高山成子、大津美香、アルツハイマー型認知症と血管性認知症にみられる収集行動の比較と援助方法の検討、日本認知症ケア学会誌、Vol.12 No.2、510-521、2013
- Cui H, Okamoto Y, Yoshioka K, Du W, Takuwa N, Zhang W, Asano M, Shibamoto T, Takuwa Y. Sphingosine-1-phosphate receptor-2 protects against anaphylactic shock through suppression of eNOS in mice. J Allergy Clin Immunol 、132(5) 、1205–1214.e9 doi: 10.1016/j.jaci.2013.07.026. 2013
- 吉岡和晃、吉田耕太郎、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、PI3キナーゼ・ファミリーの血管における生理機能：クラスII α 型PI3キナーゼC2 α による新たな血管恒常性維持機構、血管、36(2)、53-61、2013
- 吉岡和晃、吉田耕太郎、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、細胞内小胞輸送制御を介して血管新生を促進するクラスII型PI3キナーゼ、BIO Clinica、28(5)、22-28、2013
- 吉岡和晃、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、クラスII α 型PI-キナーゼの血管内皮細胞における新しい生理機能、生化学、85(9)、775-780、2013
- 吉岡和晃、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、クラスII型PI3キナーゼC2 α による血管内皮シグナリング調節機能の蛍光ライブイメージング解析、日本血栓止血学会誌、24(6) 560-568、2013

Nakata T., Matsui T., Kobayashi K., Kobayashi Y., Anzai N., Organic cation transporter 2 (SLC22A2), a low-affinity and high-capacity choline transporter, is preferentially enriched on synaptic vesicles in cholinergic neurons., Neuroscience, 252, 212-21, 2013

Hasegawa, N., Mei, L., Mochizuki, M., Pycnogenol enhances proliferation and mineralization in osteoblast-like MC3T3-E1 cells, Phytopharmacology, 4(3), 569-574, 2013

Hasegawa, N., Kawasaki, Y., Demura, H., Mochizuki, M., Effect of Rice-shaped Glucomannan Diet on Prevention and Improvement of Metabolic Syndromes in the Noto District of Ishikawa Prefecture in Japan., Health Care, 1(3), 83-86, 2013

梅琳、望月美也子、福富悌、長谷川昇、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）モデルラットにおける成熟富有柿の肝機能低下緩和効果、機能性食品と薬理栄養、7（6）、459-463、2013

彦聖美、鈴木祐恵、自宅家族を介護する者のストレス対処能力の性差にみた特徴、日本在宅ケア学会誌、17(2)、45-52、2014.2

彦聖美、鈴木祐恵、大木秀一、男性介護者におけるStressful Life EventsとSense of Coherenceの関連、石川看護雑誌、11、19-27、2014.3

彦聖美、鈴木祐恵、大木秀一、就労男性の家族介護に対する関心と準備に関する予備的な調査、北陸公衆衛生雑誌、40(2)、24-32、2014.3

高山清敏、牧野智恵、松本友梨子、加藤亜妃子、野口絵理奈、我妻孝則、北本福美、サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の検討—子どもの記述を手がかりに—、石川看護雑誌、11、49-57、2014

野口絵理奈、牧野智恵、松本友梨子、加藤亜妃子、高山清敏、我妻孝則、北本福美、サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の検討—母親の特徴を手がかりに—、石川看護雑誌、11、59-67、2014

西沢志穂、花川真貴、矢鋪有梨、松原勇、多久和典子、地域医療を担う病棟看護師のストレス要因-地域ごとの特色に焦点を当てて-、石川看護雑誌、第11巻、93-102、2014

南堀直之、村井嘉子、中道淳子、寺井梨恵子、米田昌代、井上智可、西村真実子、木村久恵、川端祥子、小田沙矢香、石川県立看護大学看護学部卒業生の動向調査、石川看護雑誌 第11巻、51-62

吉田和枝、「開発途上国の母子保健医療従事者への研修」に関する一考察—タジキスタン共和国に対する国際協力から、医療と社会、40、31-39、2013

吉田綾、吉田和枝、不妊治療に携わるに看護者に焦点を当てた文献的研究、日本看護学会論文集—母性看護、62-65、2014

高井郁美、米田昌代、妊産婦の便秘と対処法に関する実態、石川看護雑誌、第11巻、103-109、2014

4.2.2 査読無

浅見洋、彦聖美、大永慶子、中山晴恵、ドイツにおける事前医療指定と看取りの現在、石川看護雑誌、11、99-100、2014

浅見洋、生老病死／ライフコース—臨床において人生苦をいかに受け止めるか—、医学哲学医学倫理、(31)、74-76、2013

Kazuko Ishigaki, An outline of the History of Family Nursing in Japan and the Japanese

- Association for Research in Family Nursing(JARFN)、 Journal of Family Nursing、19(2)、140-145、2013
- 石垣和子、トランス文化の視座から見たケア／ケアリングの普遍性、保健の科学、55 (12)、796-802、2013
- 大木秀一、多胎妊娠の医学的知識と多胎家庭の現状に沿った支援。〔特集〕多胎の支援 妊娠中から育児まで、助産雑誌、68 (4)、290-295、2014
- 大木秀一、I5 The World Congress on BUILDING CONSENSUS OUT OF CONTROVERSIES IN GYNECOLOGY, INFERTILITY AND PERINATOLOGY (BCGIP-COGI)に参加して、石川看護雑誌、11、137-139、2014
- 垣花渉、コミュニティ形成をととした社会人基礎力の育成、看護展望、38(7)、21-27、2013
- 川島和代、浅見洋、吉田和枝、垣花渉、塚田久恵、田甫久美子、東雅代、森田聖子、特別報告 平成25年度大学間連携共同教育推進事業～ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトの試行～、石川看護雑誌、11、121-124、2014
- 塚田久恵、曾根志穂、石垣和子、特別報告 韓国における生活習慣病対策と評価システム及び保健教育師制度の導入状況について一京畿道庁・保健所・保健診療所の訪問を通しての報告一、石川看護雑誌、11、87-97、2014
- 中嶋知世、牧野智恵、東雅代、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン英国視察～ホスピス発祥の地を辿る～に参加して、石川看護雑誌、11、2014
- 西村真実子、塚田久恵、岩城直子、ワシントン大学における看護実践博士(DNP ; Doctor of Nursing Practice) の教育課程の視察報告、石川看護雑誌、11(1)、137-144、2014
- Hasegawa, N.、Hepatoprotective effects of pycnogenol in a rat model of non-alcoholic steatohepatitis、World Biomedical Frontiers. Infection and Immunity、21、2013
- 松原勇、看護学生の看護師のイメージの改善に関する一考察、電子情報通信学会技術研究報告(教育工学分冊)、Vol.113,No.254、1-6、2013

4.3 その他の原稿

- 浅見洋、竹内慶至、生老病死／ライフコースー臨床において人生苦をいかに受け止めるかー(シンポジウムのまとめ)、医学哲学医学倫理、(31)、72-73、2013
- 浅見洋、第31回医学哲学倫理学会大会について、比較思想研究、40、138、2013
- 浅見洋、来人喜人里創り創成プロジェクト事業、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター『事業報告書』、10、17、2013
- 浅見洋、おふみさんに続け！女性哲学者の初穂・高橋ふみの生涯と思想(前篇)、石川 自治と教育、(678)、13-29、2014
- 浅見洋、おふみさんに続け！女性哲学者の初穂・高橋ふみの生涯と思想(後篇)、石川 自治と教育、(679)、15-28、2014
- 浅見洋、終末期療養希望場所の調査から、北國新聞朝刊 2014.3.5、15、2014
- 浅見美千江、地域・在宅ケアの未来を拓く 看護師職能委員会Ⅱ、日本看護協会出版会 コミュニティケア、Vol.16/No.01193号、8-8、2014.1

- 浅見美千江、新たな領域における1年間の活動を振り返って、石川県看護協会ナースのWa、27号、7、2013.4
- 岩城直子、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン「リンパ浮腫ケアの症状マネージメントを学ぶ」を開催して、「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」事業報告書、2014
- 岩城直子、「キャンサーボードに参加して」、「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」事業報告書、2014
- 大木秀一、卵性診断特別検査に関わって、ふたごと教育-双生児研究から見える個性、東京大学教育学部附属中等教育学校(編)、東京大学出版会、147-148、2013
- 大木秀一、彦聖美、志村恵、青木三枝子、河原廣子、玄田朋恵、山岸和美、天羽千恵子、多胎育児家庭に対する妊娠中からのメンタルサポートプログラムの開発と評価、平成24年度石川県立看護大学附属地域総合センター事業報告書、10、37-41、2013
- 大木秀一、病気・体質編、ひよこクラブ、11月号、233、2013
- 大木秀一、英文抄録紹介(5編)、日本双生児研究学会ニュースレター、54、17-19、2013
- 大木秀一、「多胎児家庭の育児に関するアンケート調査」の報告書を作成しました、JAMBAメールマガジン、33、2013
- 大木秀一、「多胎児家庭の育児に関するアンケート調査報告書」の自由記述から、JAMBAメールマガジン、34、2013
- 大木秀一、多胎児あるいは多胎家庭では虐待死の事例が多いのか?、JAMBAメールマガジン、35、2013
- 大木秀一、多胎家庭における虐待死事例の特徴、JAMBAメールマガジン、36、2013
- 大木秀一、妊娠の種類別に見た多胎出産について~最近の新聞記事から、JAMBAメールマガジン、37、2013
- 大木秀一、日本における単一胚移植の普及と多胎妊娠に対する影響、JAMBAメールマガジン、38、2013
- 大木秀一、多胎育児と乳幼児揺さぶられ症候群について、JAMBAメールマガジン、40、2013
- 大木秀一、多胎児家庭の育児支援に役立つ図と表 2014(平成26)年作成版、1-21、2014
- 川端京子、「第28回日本がん看護学会学術集会」に参加して、平成25年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書、112、2014
- 高山成子、家族が認知症になったら<1>、大法論、5、179-183、2013
- 高山成子、家族が認知症になったら<2>、大法論、6、178-183、2013
- 高山成子、家族が認知症になったら<3>コミュニケーション、大法論、7、172-177、2013
- 高山成子、家族が認知症になったら<4>お風呂の世話について、大法論、8、218-223、2013
- 高山成子、入浴ケア編 アルツハイマー病と血管性認知症の方の入浴ケアのポイント、認知症ケア最前線、Vol.38、80-84、2013
- 高山成子、入浴ケア編 レビー小体型認知症と前頭側頭葉型認知症の方の入浴ケアのポイント、認知症ケア最前線、Vol.39、64-67、2013
- 高山成子、入浴ケア編 認知症の人に適切な設備~機械、道具など~、認知症ケア最前線、Vol.40、104-108、2013
- 高山成子、入浴ケア編 認知症の人の入浴時のリスク・リスクマネジメント、認知症ケア最前線、Vol.41、97-102、2013

- 多久和典子、2013 FASEB Summer Research Conference Lysophospholipid and Other Related Mediators—From Bench to Clinicに参加して、石川看護雑誌、第11巻、147-149、2013
- 多久和典子、編集後記、石川看護雑誌、第11巻、159、2013
- 谷本千恵、坂上章、石井了恵、角田雅彦、川村みどり、大江真吾、相川竜子、NoelJ.Chrisman、能登地域の精神障がい者の地域生活移行・定着支援の現状と課題に関する研究～人口過疎地における精神障がい者の地域生活支援システムの開発に向けての基礎的研究～、平成24年度石川県立看護大学付属地域ケア総合センター事業報告書、10、46-56、2013
- 中嶋知世、Maggies' Londonの視察を終えて、平成25年度 北陸がんプロ報告書、2014
- 中田由紀子、「がん患者への早期からの在宅緩和ケアの必要性と今後の課題」に参加して、平成25年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書、105、2014
- 彦聖美、鈴木祐恵、大木秀一、男性介護者に対する料理教室を通じた交流の促進によるエンパワメント発展過程の分析、公益財団法人勇美記念財団在宅医療助成2012（後期）報告完了書（公益財団法人勇美記念財団ホームページ公開）、1-16、2014.2
- 牧野智恵、人間関係ゼミ参加報告、研究会誌IPR、NO21、62、2014
- 牧野智恵、「北陸がんプロチーム養成基盤形成プランの概要と本学におけるがん看護専門師養成の取り組み、平成25年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告、13-14、2014
- 牧野智恵、「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの発展に向けて」、平成25年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告、111、2014
- 牧野智恵、インテンシブコースについて—「インテンシブA」「地域がん看護師養成コース」「地域がん看護活性化コース」—、平成25年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告、21-24、2014
- 松原勇、情報処理学の研究の事例（PDF版）、単著、A5版総頁数418頁、2014
- 宮崎彩乃、平成25年度 がん看護事例検討会の運営に関わって、平成25年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書、25、2014
- 宮崎彩乃、「リンパ浮腫ケアの症状マネージメントを学ぶ」参加者アンケート集計結果、平成26年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書、66-70、2014
- 宮崎彩乃、臨床倫理セミナー「がん看護における臨床倫理事例検討会」参加者アンケート集計結果、平成27年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書、88-91、2014
- 宮崎彩乃、第33回 日本看護科学学会学術集会に参加して、平成28年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書、111、2014

4.4 学会発表

- 浅見洋、ドイツにおける看取りの現在—2012年9月視察より—、2013年度欧州看取り科研第4回研究会、東京、2013.5
- 浅見洋、「人口減少地域（里）での「ふつう死」—終末期療養希望場所に関する調査より—」シンポジスト、日本ルーラルナース学会第8回学術集会、石川、2013.10
- 浅見洋、中村順子、伊藤智子、諸岡了介、塚田久恵、彦聖美、浅見美千江、大永慶子、ルーラルにおける終末期療養場所のニーズとその背景—石川・秋田・島根の中山間地での意識調査の

- 結果一、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会、石川県、2013.10、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集、32、2013
- 伊藤智子、加藤真紀、諸岡了介、阿川敬子、浅見洋、「迷惑をかけない死」を理想の死とする人の終末期療養ニーズー日本の中山間地域での調査からー、第20回国際老年学会ソウル大会、韓国（ソウル）、2013.6、
- 浅見美千江、石原俊彦、田井雅代、中島ゆかり、干場順子、介護施設における看取りケアに関する看護職員の実態調査ー研修会終了後の特養・老健の看護職員を対象にしてー、第21回石川県看護学会、石川県立看護大学、2013、第21回石川県看護学会『病院から地域へつなぐケアの実現』、19-20、2013.9
- 東雅代、武山雅志、曾根志穂、石垣和子、被災地学生ボランティア活動による看護学生の変化ー初回参加群と参加継続群での社会人基礎力と自己効力感の検討ー、日本災害看護学会第15回年次大会、札幌、2013.8、日本災害看護学会第15回年次大会講演集、15(1)、288、2013
- 東雅代、西村真実子、米田昌代、堅田智香子、曾山小織、吉田和枝、育児困難に悩む母への段階的支援システムに関する研究ー『親育ち・子育てを考える会』における個別変化ー、日本子ども虐待防止学会第19回学術集会信州大会、松本、2013.12、日本子ども虐待防止学会第19回学術集会信州大会プログラム・抄録集、225、2013
- 阿部智恵子、樫田美雄、ビデオエスノグラフィーを用いた子育て支援現場の相互行為分析ージャンプ遊びでの子どもの『あぶない』という発話からみえるもの、第64回関西社会学会、京都、2013.5、第64回関西社会学会、2013
- 阿部智恵子、樫田美雄、ビデオエスノグラフィーを用いた子育て支援現場の相互行為分析ー子どもの泣き出し状況に対する対応をめぐって、第61回関東社会学会、東京、2013.6、第61回関東社会学会、2014
- 阿部智恵子、若林芳樹、石川県かほく市における子育て支援センターの利用実態と課題、2014年日本地理学会、東京、2014.3、2014年日本地理学会春季学術大会、2014
- K. Ishigaki, M. Tsujimura, A. Honda et al, Important Family Information When Assisting A Client's Discharge: A Mail Survey To Japanese Discharge Coordinators、第11回 International Family Nursing Conference、Mineapolis, USA、2013.06、11th International Family Nursing Conference Final Program、P31、2013.06
- M. Tsujimura, K. Ishigaki, A. Honda et al, How Important Is It To Understand Client Family's Beliefs? A Mail Survey To Japanese Discharge Coordinators、第11回 International Family Nursing Conference、Mineapolis, USA、2013.06、11th International Family Nursing Conference Final Program、P36、2013.06
- N. Sato, K. Ishigaki, et al、How do Japanese Discharge Coordinators understand Client Family's Beliefs about Family Relationship, Relationship with Public, and about Acceptance Social Support?、第11回 International Family Nursing Conference、Mineapolis, USA、2013.06、11th International Family Nursing Conference Final Program、P36、2013.06
- C. Kawakami, K. Ishigaki, et al、How do Japanese Discharge Coordinators(DCs) Understand Client Family's Beliefs about Family Illness, Aging, and End-of-Life Care?、第11回 International Family Nursing Conference、Mineapolis, USA、2013.06、11th International

Family Nursing Conference Final Program、P34、2013.06

辻村真由子、石垣和子、寝たきり度の高い在宅高齢者の排便ケアにおける家族の関係性を配慮した訪問看護師の支援：夫介護者の事例、第20回日本家族看護学会、静岡、2013.8、日本家族看護学会第20回学術集会抄録集、20回、P42,43、2013.08

岩田尚子、石垣和子、伊藤隆子、在宅療養移行期に独居高齢者が在宅療養生活に対して抱く心配に関する研究、千葉看護学会、千葉、2013.9

石垣和子、金子紀子、織田初江、塚田久恵、阿部智恵子、曾根志穂、他、半島地域における保健活動の特徴、第8回日本ルーラルナーシング学会、石川、2013.10、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集、P12、2013.10

野口美和子、大湾明美、石垣和子、他、島嶼看護学教育内容の体系化に関する研究、第8回日本ルーラルナーシング学会、石川、2013.10、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集、P17、2013.10

細谷紀子、大光房枝、石垣和子、他、今日の社会・制度・業務体制下における地域のニーズに応じた保健師活動の展開方法、日本公衆衛生学会、三重、2013.10、日本公衆衛生学会総会抄録集、72回、P567、2013.10

小堀有香、石垣和子、金子紀子、児童養護施設入所児と職員との愛着形成のための取り組みの現状と課題、北陸公衆衛生学会、富山、2013.11、第41回北陸公衆衛生学会講演集、40巻、P26、2013.11

伊藤隆子、雨宮有子、吉田千文、石垣和子、他、在宅ケアにおける倫理的ジレンマへの対処を促す支援プログラムの開発と有効性の検討(第2報)、第33回日本看護科学学会、大阪、2013.12、日本看護科学学会学術集会講演集、33回、P356、2013.12

田村幸恵、丸岡直子、石垣和子、看護職員募集における再就業看護師への情報提供の実態、第8回日本ルーラルナーシング学会、石川、2013.10、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集、P16、2013.10

井上智可、林一美、精神疾患をもつ療養者を援助する訪問看護ステーションの訪問看護師が抱く困難、第18回日本在宅ケア学会、東京、2014.3、第18回日本在宅ケア学会学術集会講演集、18、2014

岩城直子、牧野智恵、小竹佳津子、江川真紀子、酒井裕美、大井きよみ、尾川洋子、放射線療法中のがん患者へのPILテストを用いた看護介入の有効性の検討、第28回日本がん看護学会学術集会、新潟、2014.2、日本がん看護学会誌、第28回日本がん看護学会学術集会講演集、28、296、2014

Ooki S.、Birth Defects after Assisted Reproductive Technology in Japan: Comparison between Multiples and Singletons, 2004-2010.、The World Congress on BUILDING CONSENSUS OUT OF CONTROVERSIES IN GYNECOLOGY, INFERTILITY AND PERINATOLOGY (BCGIP-cogi)、Istanbul, Turkey、2013.5-6

山岸和美、大木秀一、志村恵、青木三枝子、浅間理絵、河原廣子、玄田朋恵、道厘敦子、中野すみよ、原範子、NPO法人いしかわ多胎ネットの8年間の活動と今後の展望、第28回北陸母性衛生学会学術総会、金沢、2013.7

加藤則子、吉田穂波、横山徹爾、瀧本秀美、大木秀一、出生体重、アディポシテリバウンド及び6歳時BMIに関する単胎双胎間の比較検討、第60回日本小児保健協会学術集会、東京、

2013.9

太木秀一、彦聖美、志村恵、 全国データに基づく多胎家庭における虐待死亡事例の相対危険の推定、第72回日本公衆衛生学会、三重、2013.10、日本公衛誌、第72回日本公衆衛生学会総会抄録集、60 (10) 、384、2013

太木秀一、彦聖美、 自然妊娠と不妊治療別に見た多胎出生の過去30年間（1977-2011年）の動向および単一胚移植の効果、第78回日本民族衛生学会、佐賀、2013.11、民族衛生、第78回日本民族衛生学会総会講演集、79、124-125、2013

太木秀一、 全国データを基にした多胎家庭における虐待死事例の特徴、第19回日本子ども虐待防止学会、松本、2013.12、JaSPCAN信州大会抄録集、235、2013

Ooki S.、 The effect of development and nutrition in early life on later body mass index: A twin study、The 2nd International Conference on Nutrition and Growth (N&G) 、Barcelona, Spain、2014.1-2

垣花渉、 看護学生を活かした「健康のまち」づくりの試行、地域活性学会第5回研究大会、高崎、2013.7、地域活性学会第5回研究大会論文集、69-72、2013

垣花渉、川村みどり、 看護大学のフィールドワークを通じた社会人基礎力の育成、初年次教育学会第6回大会、金沢、2013.9、初年次教育学会第6回大会 発表要旨集録、155-156、2013

垣花渉、長谷川昇、 コミュニティを基盤とした健康教育の試行、第68回日本体力医学大会、東京、2013.9、体力科学、63、147、2014

垣花渉、水本菜々、山岸まどか、吉村友里子、 看護大生による限界集落の活性化―世代を越えた交流で住民を元気にしよう―、「社会人基礎力育成グランプリ2014」中部地区予選大会、名古屋、2013.12、社会人基礎力育成グランプリ2013中部地区予選大会予稿集、3、2013

Noriko Kaneko、Keiko Agawa、Kazuko Ishigaki、 A comparison between the current child-rearing environment and that of the mother's childhood in a rural area of Japan、17thEAFONS、Manila,Philippines、2014.2

橋本智江、川島和代、林一美、中田弘子、木森佳子、 看護と介護の連携に向けた教育デザインに関する研究その1 喀痰吸引等研修における介護職員の学習効果と今後の課題、日本老年看護学会第18回学術集会、大阪、2013.6、日本老年看護学会第18回学術集会講演集、18、2013

橋本智江、川島和代、林一美、中田弘子、木森佳子、 看護と介護の連携に向けた教育デザインに関する研究その2 喀痰吸引等研修における指導看護師の指導の特徴と今後の課題、日本老年看護学会第18回学術集会、大阪、2013.6、日本老年看護学会第18回学術集会講演集、18、2013

中島由加里、向井加奈恵、小松恵美、北山幸枝、須釜淳子、中谷壽男、 急性期三度熱傷創における蜂蜜の抗炎症作用の効果、第43回日本創傷治癒学会、大分、2013.11、第43回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集、43rd、122 (O-01) 、2013

木森佳子、 目視困難な末梢静脈可視化装置の試作評価―近赤外光を用いた末梢静脈可視化システムの臨床における可視性評価―、第1回看護理工学会学術集会、東京、2013.10、第1回看護理工学会学術集会概要集、26、2013

臺美佐子、木森佳子、松本勝、西澤知江、井内映美、藪中幸一、大桑麻由美、須釜淳子、 上肢リンパ浮腫に対するリンパドレナージ前後における超音波画像の定量的分析、第1回看護理工学会学術集会、東京、2013.10、第2回看護理工学会学術集会概要集、38、2013

松本勝、伊吹愛、須釜淳子、峰松健夫、臺美佐子、木森佳子、仲上豪二郎、真田弘美、 肥満に伴

- う皮膚酸化ストレスの変化と皮膚構造タイプとの関連－異なる測定部位での検討－、第1回看護理工学会学術集会、東京、2013.10、第1回看護理工学会学術集会概要集、30、2013
- Kimori K., Sugama J., Ura M., Non-invasive identification peripheral veins to facilitate safe venipuncture in elderly patients, The 17th Conference East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS 2014)、Manila、2014.2、The 17th Conference East Asian Forum of Nursing Scholars Proceeding、32、2014
- 曾根志穂、武山雅志、東雅代、石垣和子、被災地学生ボランティア活動に参加した看護学生の思い、日本災害看護学会第15回年次大会、札幌、2013.8、日本災害看護学会誌 第15回年次大会講演集、15(1)、287、2013
- 曾根志穂、石垣和子、被災地学生ボランティア活動が看護学生に与える影響、第72回日本公衆衛生学会総会、三重、2013.10、日本公衛誌、第72回日本公衆衛生学会総会抄録集、60(10)、556、2013
- 橋上まさよ、曾根志穂、石垣和子、東日本大震災での住民への支援活動における保健師と生活支援相談員の効果的な連携のあり方、日本災害看護学会第15回年次大会、札幌、2013.8、日本災害看護学会誌 第15回年次大会講演集、15(1)、211、2013
- 高山成子、小林佐知子、健康高齢者を対象とした「胃瘻の勉強会」プログラムの開発、一般財団法人日本看護研究学会、秋田、2013/8、日本看護研究学会 第39回学術集会 プログラム、34、2013
- 高山成子、久米真代、ホスピス・緩和ケア病棟に入院しているがん終末期の認知症高齢者の身体的苦痛に関する主観的体験、日本がん看護学会、新潟、2014/1、日本がん看護学会第28回学術集会、254、2013
- 岡本安雄、崔弘、吉岡和晃、多久和典子、多久和陽、S1P2は内皮型一酸化窒素合成酵素を抑制することによりアナフラキシーショックに対して防御的に働く、第55回日本脂質生化学会、松島、2013.6、脂質生化学研究、55、125-127、2013
- 岡本安雄、崔弘、吉岡和晃、多久和典子、多久和陽、S1P受容体はeNOS-NO経路を抑制することによりアナフラキシーショックに対して抑制的に働く、第21回日本血管生物医学会、豊中、2013.9、第21回日本血管生物医学会学術集会抄録集、21、158、2013
- 安藝翔、吉岡和晃、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、TGFβ1-Smad2/3シグナル伝達系を介した血管新生調節におけるクラスII α PI3キナーゼPI3K-C2αの機能的役割、第21回日本血管生物医学会、豊中、2013.9、第21回日本血管生物医学会学術集会抄録集、21、138、2013
- 吉岡和晃、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、クラスIIα型PI3キナーゼ-C2αによる血管新生・バリア機能調節メカニズム シンポジウム「血管機能を抑制するシグナリング機構」、第21回日本血管生物医学会、豊中、2013.9、第21回日本血管生物医学会学術集会抄録集、21、64、2013
- 安藝翔、吉岡和晃、岡本安雄、多久和典子、多久和陽、クラスII型PI3K-C2αはSARAのエンドソームへの動員を制御しTGFβ1-Smad2/3シグナル伝達系を介した血管新生を調節する、第36回日本分子生物学会、神戸、2013.12、第36回日本分子生物学会抄録集、36、82、2013
- Yoshioka K, Takuwa N, Okamoto Y, Takuwa Y, Endothelial class II PI3K-C2a controls vascular barrier integrity through regulating membrane trafficking. (Invited Symposist), The 91th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan、鹿児島、2014.3、J Physiol Sci、64 Suppl. 1、S77、2014

- Okamoto Y, Cui H, Yoshioka K, Takuwa N, Zao J, Takuwa Y、 Sphingosine-1-phosphate receptor-2 protects against anaphylactic shock through inhibiting eNOS. (Invited Symposist), The 91th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan、鹿児島、2014.3、J Physiol Sci Suppl. 1、64 Suppl. 1、S85、2014
- 武山雅志、曾根志穂、東雅代、石垣和子、被災地学生ボランティア活動の継続が看護学生に与える影響について、日本災害看護学会第15回年次大会、札幌、2013.8、日本災害看護学会誌、15(1)、237、2013
- 矢山壮、谷本千恵、長谷川静子、的場圭、樋上容子、野中高浩、梶原友美、山川みやえ、遠藤淑美、牧本清子、高松病院における看護ケアに関するインシデントレポートの詳細分析、第26回石川県立高松病院こころの臨床学会、かほく市、2014.3、第26回石川県立高松病院こころの臨床学会抄録集、2014
- 田村幸恵、丸岡直子、石垣和子、看護職員募集における再就業看護師への情報提供の実態—能登北部と南加賀医療圏にある病院ホームページの分析から—、第8回日本ルーラルナーシング学会学術集会、石川、2013.10、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集、54、2013
- 坂本靖奈、田甫久美子、初回手術当日に患者が抱く心理的ストレスへの対処行動を支援するケアの検討、第7回看護実践学会学術集会、七尾市、2013.9.14、第7回看護実践学会学術集会講演集、28-29、2013
- 山村美貴、田甫久美子、入浴に近い満足感を目指した入浴剤入り足浴の検討、第7回看護実践学会学術集会、七尾市、2013.9.14、第7回看護実践学会学術集会講演集、74-75、2013
- 宮本若菜、田甫久美子、患者の感じる足浴の効果と満足度についての研究、第7回看護実践学会学術集会、七尾市、2013.9.14、第7回看護実践学会学術集会講演集、76-77、2013
- 塚田久恵、松原勇、曾根志穂、金子紀子、高齢者の要介護状態となる原因疾患と要介護認定に関連する要因についての実態調査、第72回日本公衆衛生学会総会、三重県、2013.10、第72回日本公衆衛生学会総会抄録集、60(10)、571、2013
- 塚田久恵、神里みどり、大湾明美、交流集会「諸外国に見るへき地看護」、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会、石川県、2013.10、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会抄録集、26、2013
- 寺井梨恵子、丸岡直子、田甫久美子、看護師の転倒リスクアセスメントにおける視覚情報の取り込みの特徴、第17回日本看護管理学会学術集会、東京、2013.8、第17回日本看護管理学会学術集会抄録集、276、2013
- 佐々木加奈、中田弘子、微酸性電解水を用いた手部温浴の衛生効果、第7回看護実践学術集会、石川県、2013.9、第7回看護実践学術集会講演集、26-27、2013
- Mamiko Nishimura, Masayo Yoneda, Chikako Katada, Masayo Azuma, Saori Soyama, Satsuki Dateoka, Kazue Yoshida、The Evaluation of the Group Meeting by Mothers with Problems of Childcare Difficulty about Parenting and Growing As a Mother : Qualitative Analysis of Substantial Discussion, 9th. International Nursing Conference & 3rd. World Academy of Nursing Science, Seoul, Korea, 2013.10, Program Book, 24, 2013
- 成田みぎわ、西村真実子、虐待等子育ての悩みを抱える母親にとっての「赤ちゃん登校日」授業の有用性：エンパワメントの側面から、日本子ども虐待防止学会 第19回学術集会信州大会、長野県松本市、2013.12、日本子ども虐待防止学会 第19回学術集会信州大会 プログラム・抄

- 録集、233、2013
- 西村真実子、第23回日本新生児看護学会/第58回未熟児新生児学会合同シンポジウム「NICUからはじめる虐待予防」座長、第23回日本新生児看護学会/第58回未熟児新生児学会、金沢市、2013.12、第23回日本新生児看護学会学術集会講演集、50、2013
- Sugako Tamura、Chiemi Neyoshi、HEALTHCARE NEEDS OF CHILDREN WITH AUTISM SPECTRUM DISORDERS AND THEIR PARENTS USING CHILD DEVELOPMENTAL SUPPORT SERVICES、IUHPE、Thailand、2013、IUHPE 21st World Conference 2013、2013
- Mochizuki, M., Hasegawa, N.、Green tea extract and vitamin D increased bone mineral density in elderly women in Ishikawa Prefecture、The 5th International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science、Shizuoka、2013.11、The 5th International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science ABSTRACTS、85、2013
- 望月美也子、長谷川昇、緑茶カテキンの骨密度増加効果、日本薬学会第134年会、熊本、2014.3
- 林一美、川島和代、田中克恵、中山晴恵、喀痰吸引等研修に参加した介護職員等の医行為実施上の困難点、第18回日本在宅ケア学会学術集会、東京、2014.3、第18回日本在宅ケア学会学術集会講演集、190、2014
- 林一美、喀痰吸引等研修会事業（第三号研修）を受講した介護職員等の医行為に伴う緊急事態の実態、日本在宅看護学会誌、東京、2013.11、日本在宅看護学会学術集会プログラム・抄録集、Vol.2、No.1、131、2013
- 林一美、川島和代、田中克恵、中山晴恵、喀痰吸引等講習会事業(第三号研修) 介護者の教育的レディネス、第44回日本看護学会一地域看護一学術集会、福井、2013.11、第44回日本看護学会一地域看護一学術集会抄録集、134、2013
- 彦聖美、村山美奈子、白山山録・鶴来地区における在宅医療連携拠点事業の取り組み～活動の現在～、第8回日本ルーラルナーシング学会学術集会、石川、2013.10、第8回日本ルーラルナーシング学会学術集会抄録集、17、2013
- 彦聖美、大木秀一、在宅で家族を介護する男性介護者のストレス対処能力Sense of Coherence (SOC)、第72回日本公衆衛生学会、三重、2013.10、日本公衛誌、第72回日本公衆衛生学会総会抄録集、60 (10)、430、2013
- 彦聖美、大木秀一、就労男性の家族介護に対する関心および準備と各種要因との関係、第78回日本民族衛生学会総会、佐賀、2013.11、第78回日本民族衛生学会総会抄録集、79、112-113、2013
- 彦聖美、大木秀一、家族介護者における首尾一貫感覚Sense of Coherence (SOC) の性差、第24回日本疫学会学術総会、宮城、2014.1、Journal of Epidemiology、24、90、2014
- 牧野智恵、松本友梨子、加藤亜妃子、我妻孝則、高山清敏、サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の効果—サポートブック作成状況の分析—、第28回日本がん看護学会学術集会、新潟、2014.2、第28回日本がん看護学会学術集会講演集、44、2014
- 松本友梨子、牧野智恵、加藤亜妃子、我妻孝則、サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の効果、第28回日本がん看護学会学術集会、新潟、2014.2、第28回日本がん看護学会学術集会講演集、61、2014
- 平優子、牧野智恵、胃がん術後とその配偶者に対する食の支援—調理実習を取り入れたがんサロンの導入—、第28回日本がん看護学会学術集会、新潟、2014.2、第28回日本がん看護学会学

- 術集会講演集、62、2014
- 山瀬勝巳、牧野智恵、早期から外来がん化学療法患者への訪問看護を試みて—A氏への介入を手がかりに—、第28回日本がん看護学会学術集会、新潟、2014.2、第28回日本がん看護学会学術集会講演集、74、2014
- 丸岡直子、田甫久美子、寺井梨恵子、新人看護師の転倒リスクマネジメント行動の実態と課題、第33回日本看護科学学会学術集会、大阪、2013.12、第33回日本看護科学学会学術集会講演集、494、2013
- 丸岡直子、田甫久美子、田村幸恵、I県下の看護師の退職・再就業の動向とその背景要因（第1報）—初回の退職・再就業に焦点をあてて—、第17回日本看護管理学会学術集会、東京、2013.8、第17回日本看護管理学会学術集会抄録集、241、2013
- 坂本和美、丸岡直子、田甫久美子、退院支援における病棟看護師長の役割、第17回日本看護管理学会学術集会、東京、2013.8、第17回日本看護管理学会学術集会抄録集、260、2013
- 中村真寿美、丸岡直子、田甫久美子、スタッフ看護師On-the-Job Training(OJT)における新人看護師に対するかかわりと意図、第17回日本看護管理学会学術集会、東京、2013.8、第17回日本看護管理学会学術集会抄録集、154、2013
- Shizuko Hayashi,Naoko Maruoka,Hiroimitsu Kobayashi、Relationship between a Nurse's Observation gaze and the clinical judgement of the patient's condition、World Academy of nursing science,The 3rd International Nursing Research Conference、Seoul, Korea、2013.10、The 3rd International Nursing Research Conference Program Book、47、2013
- 丸岡直子、教員の魅力とキャリア形成（シンポジスト）、第67回国立病院総合医学会、金沢、2013.11、第67回国立病院総合医学会講演抄録集、259、2013
- 丸岡直子、看護管理学の教育とこれからの看護管理者の育成（シンポジスト）、第67回国立病院総合医学会、金沢、2013.11、第67回国立病院総合医学会講演抄録集、315、2013
- 丸岡直子、その人の思いを支える退院支援・退院調整（講演）、第21回石川県看護学会、金沢、2013.10、第21回石川県看護学会、2013
- 丸岡直子、田甫久美子、石川県下の看護師の退職・再就業の動向と背景要因、第7回看護実践学会、七尾、2013.9、第7回看護実践学会講演集、86、2013
- 山岸映子、JICAタジキスタン共和国国別研修におけるアクションプランメディカルハウスの助産師、看護師による妊婦健診受診の大切さを伝えるロールプレイ、第27回日本助産学会、金沢、2013.5、日本助産学会誌、26(3)、189、2013
- 吉田和枝、米田昌代、曾山小織、祖父母の孫育て教室に関する実践活動—祖父母の生きがいと子育て支援の視点から—、第27回日本助産学会学術集会、金沢、2013.5、日本助産学会誌、26(3)、248、2013
- 吉田和枝、自然分娩から無痛分娩へと分娩方法を変えた経産婦に関する調査、第54回日本母性衛生学会、埼玉、2013、第54回日本母性衛生学会学術集会抄録集、288、2013
- 吉田綾、吉田和枝、不妊治療に携わるに看護者に焦点を当てた文献的研究、第44回日本看護学会学術集会、岡山、2013、第44回日本看護学会—母性看護—学術集会抄録集、54、2013
- 米田昌代、吉田和枝、曾山小織、周産期のグリーンケアの拡大・充実のための実践活動～ペリネイタル・グリーンケア検討会を振り返って～、一般社団法人日本助産学会第3回(第27回)学術集会、金沢、2013.5 日本助産学会誌(一般社団法人日本助産学会第3回(第27回)学術集会集録)、

26(3)、217、2013

栗津文葉、米田昌代、曾山小織、出生前診断において胎児異常を告げられた女性の心理に関する文献的考察、一般社団法人日本助産学会第3回(第27回)学術集会、金沢、2013.5、日本助産学会誌(一般社団法人日本助産学会第3回(第27回)学術集会集録)、26(3)、219、2013

米田昌代、周産期に児を喪失した母親・家族に対する退院後のグリーフケアの現状と課題 ～セルフヘルプグループを対象として～、日本ヒューマンケア心理学会学術集会第15回大会、東京、2013.7、日本ヒューマンケア心理学会学術集会第15回大会 プログラム・抄録集、64、2013

米田昌代、北陸の4つのセルフヘルプグループ【天使のゆりかご&ひまわりの会&小さな天使のママの会&SIDS家族の会北陸支部】、日本ヒューマンケア心理学会学術集会第15回大会、東京、2013.7、日本ヒューマンケア心理学会学術集会第15回大会 プログラム・抄録集、96、2013

4.5 研究助成

浅見洋、諸岡了介、伊藤智子、中村順子、ルーラルにおける住民の死生観と終末期療養ニーズの変容に関する総合的研究、平成23-27年度、科学研究補助金基盤研究(B) 一般

竹ノ内裕文、浜渦辰二、浅見洋ほか、世俗化する欧州社会における看取りの思想的な拠り所の究明、平成24-26年度、科学研究費補助金基盤研究(B)海外

東雅代、西村真実子、子どもに寄り添うデスエデュケーションの検討、平成24-26年度、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究))

阿部智恵子、母と子の相互行為分析から「育つこと」「育てられること」を捉えなおす、平成23-25年度、科学研究費補助金挑戦的萌芽研究

石垣和子(研究代表者)、家族支援を効果的に進める家族ビリーフアセスメント方法の開発、平成23年-25年度、科学研究費補助金基盤研究(B)

石垣和子(研究代表者)、地域性に根ざした地域保健活動の探索に関する研究、平成25-26年度、科学研究費補助金挑戦的萌芽研究

石垣和子(分担研究者)、島嶼看護学教育内容の体系化に関する研究 研究代表者:野口美和子、平成24-26年度、科学研究費補助金基盤研究(C)(1)

石垣和子(分担研究者)、研究代表者:伊藤隆子、平成24-26年度、科学研究費補助金基盤研究(C)(1)

今井美和(赤祖父美和)、吉田和枝、河原栄、女子高校生の子宮頸がん予防行動推進プロジェクト、平成25-28年度、科学研究費基盤研究(C) 課題番号25463640

岩城直子、牧野智恵、放射線療法中のがん患者へのPILテストを用いた看護介入プログラムの効果、平成24-26年度、科学研究費補助金基盤研究(C)

大木秀一、彦聖美、双生児家系世代間長期縦断データによる成人期以降発症疾患のライフコース遺伝疫学研究、平成24-26年度、科学研究費基盤研究(B)

大木秀一、多胎家庭における虐待防止に向けたプログラムの作成と普及・啓発実践活動、平成25年度、北陸公衆衛生学会研究助成

熊澤栄二、山岸雅子、垣花渉、舟田勤、宮嶋茂、浅谷保光、新・買い物弱者支援システム:オンデマンド商店街の可能性調査・研究、平成25-27年度、第18回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業(一般社団法人北陸地域づくり協会)

北山幸枝、須釜淳子、中谷壽男、低蛋白血症ラットにおける褥瘡発生機序解明のための病態モデル開発、平成24-25年度、平成24年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究

木森佳子、近赤外光を用いた末梢静脈可視化システムにおける基礎研究、平成25-26年度、科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究

曾根志穂、神経難病患者と介護サービス事業者への保健師による在宅療養支援方法の検討、平成24-26年度、科学研究費補助金・基金助成金（若手研究（B））

曾山小織、米田昌代、吉田和枝、東雅代、妊婦のセルフケア行動を促進する要因の検討とガイドラインの作成、平成23-26年度、挑戦的萌芽研究

多久和典子（研究代表者）、スフィンゴシン1リン酸情報伝達系による癌血管新生・血行転移、虚血後血管新生の制御、平成23-25年度、科学研究費補助金基盤研究（C）（研究課題番号23590344）

谷本千恵、角田雅彦、石井了恵、坂上章、Noel J.Chrisman、過疎地域における精神障がい者の地域生活支援システムの現状と課題に関する研究、平成25年度、学内研究助成

寺井梨恵子、看護師の転倒リスク場面における視覚情報の取り込みと臨床判断、平成24-26年度、科学研究費補助金若手研究(B)

中田隆博、Cre-loxPシステムを用いた新しい神経伝導路解析法の開発とその応用、平成25年度、三谷研究開発支援財団助成金

中田隆博（分担研究者）、研究代表者：風間富栄、発達中の脳における麻酔薬の神経毒性に関する包括的研究、平成25-28年度、科学研究費補助金基盤研究（B）

中田弘子、川島和代、小林宏光、田村幸恵、中嶋知世、電解微酸性水による拘縮手の手浴が皮膚上有機物に及ぼす影響、平成24-26年度、科学研究費助成補助金 基盤研究（C）

子吉知恵美、5歳児健診実施地の発達障害児の早期支援・支援継続への保健師の援助方法の実証的研究、平成24-26年度、科学研究費補助金若手研究（B）

河崎恭子、長谷川昇、科学的根拠に基づいたロコモティブシンドローム予防と住民支援に関する研究、平成25-26年度、大同生命厚生事業団

林一美、井上智可、ケアマネジャーの介護者支援に関する力量形成教育プログラムの開発、平成23-25年度、科学研究助成事業（挑戦的萌芽的研究）

彦聖美、大木秀一、鈴木祐恵、高齢期の妻や親を介護する男性介護者に対する地域特性に基づく支援のあり方、平成25-27年度、文部省科学研究費補助金基盤研究（C）

牧野智恵、北本福美、がん患者とその子供への支援プログラムの開発ー芸術療法とPILテストの導入の試み、平成24-27年度、科学研究費補助金基盤研究（C）

丸岡直子、寺井梨恵子、川島和代、田甫久美子、新人看護師の転倒リスク認知・リスク回避教育プログラムの開発、平成22-25年度、科学研究費補助金基盤研究（C）

鈴木みずえ、泉キヨ子、丸岡直子、加藤真由美、岡本理恵、谷口好美、平松知子、小林小百合、臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質指標の開発、平成22-25年度、科学研究費補助金（基盤研究（B））

村井嘉子、北山幸枝、急性大動脈解離患者のキュアとケアの融合を基盤とする看護実践の構造、平成25-27年度、科学研究費補助金基盤研究（C）

山岸映子、過疎地域における里帰り分娩に対するソーシャルサポートに関する研究、平成24-

26年度、科学研究費補助金挑戦的萌芽研究

米田昌代、吉田和枝、曾山小織、周産期の死を経験した母親・家族を社会全体で支えるシステム開発に関する研究、平成23-26年度、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究

4.6 社会活動・地域貢献

浅見洋、西田哲学会理事

浅見洋、日本宗教学会理事

浅見洋、比較思想学会評議員、北陸支部会長

浅見洋、北陸宗教文化学会会長、編集委員

浅見洋、医学哲学・倫理学会運営委員

浅見洋、公益信託能登町エンデューバーファンド21運営委員、能登町

浅見洋、西田幾多郎博士頌徳会理事、かほく市

浅見洋、石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員（会長代理）、かほく市

浅見洋、石川県看護教員養成課程 生命倫理 講師、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、石川県立看護大学、2013.5-7

浅見洋、北國新聞主催「感想文コンクールコンクール 新聞を読んで」審査員講評、北國新聞社、北國新聞会館、2013.11

浅見洋、石川県民大学（専門講座）西田幾多郎講座「無限愛の教育論」、石川県西田幾多郎記念哲学館、石川県西田幾多郎記念哲学館、2013.5

浅見洋、平成25年度第1回看護・介護部会研修会「老健における看取りケア実践している施設からの報告」（コメンテーター）、石川県老人保健施設協議会、石川県地場産業振興センター、2013.5

浅見洋、公立松任石川中央病院職員研修会「スキルとしての臨床倫理—ジレンマの合理的な解決のために—」、公立松任石川中央病院、公立松任石川中央病院、2013.7

浅見洋、平成25年度ものがたり在宅塾「ドイツにおける終末期の現状」、ものがたり診療所、オークス砺波平安閣（富山県）、2013.8

浅見洋、老いと死を考える準備講座「贈り物としての老い—人生は悲喜こもごも—」、大学コンソーシアム石川、しいのき迎賓館、2013.8

浅見洋、神戸学院大学社会人キャリアアップ講座「日本の施設における「看取り」調査より」、神戸学院大学、神戸学院大学有瀬キャンパス、2013.9

浅見洋、老いと死を考える準備講座「終の棲家を選ぶ時代—どこで療養し、どこで死ぬか—」、大学コンソーシアム石川、しいのき迎賓館、2013.9

浅見洋、老いを生きる、野々市寿大学校教養講座、野々市市中央公民館、2013.11

浅見洋、ドイツの看取り、石川県看護教員養成講習会特別講義、石川県立看護大学、2013.11

浅見洋、能登の禅、NOTOxGIAHS English Presentation 能登に関する講義／ワークショップ、しいのき迎賓館、2013.12

浅見洋、終の棲家を選ぶ時代、悲しみ110番ネットワーク研修会、石川女性センター、2013.12

浅見洋、 「介護現場での看取りを考えるー医療・福祉の現場と人文社会科学の協働にむけてー」
（パネラー）、神戸学院大学、神戸学院大学有瀬キャンパス、2014.1

浅見洋、 石川県民大学（専門講座）西田幾多郎講座「西田幾多郎の生涯ー鎌倉における思索と短歌ー」、石川県西田幾多郎記念哲学館、石川県西田幾多郎記念哲学館、2014.2

浅見美千江、 石川県看護協会看護師職能Ⅱ理事

浅見美千江、 平成25年度訪問看護フォーラム「この町で最期の時を迎えたい」、石川県看護協会、石川県立中央病院健康教育館、2013.11

東雅代、 看護研究の指導・助言、浅ノ川病院、2013. 5,7,10

東雅代、 看護研究発表会講評、浅ノ川病院、2013.11

阿部智恵子、 模擬講義『社会の発見』～身のまわりの当たり前を見直してみよう、高大連携事業、富山県上市高校、2013.12.06

阿部智恵子、 第8回日本ルーラルナースング学会事務局、和倉温泉会館、2013.10.13、14

石垣和子、 里山海道の暮らしと看護：日本ルーラルナースング学会会長講演、第8回学術集会企画委員会、和倉温泉観光会館、石川県七尾市、2013.10

石垣和子、 アジアの高齢化と看護・介護ビジネスAging Asia and Future of Health Care Service：ワンアジア財団提供講義での招聘講義、ダルマプルサダ大学、ダルマプルサダ大学、ジャカルタ、インドネシア、2013.11

石垣和子、 Forging Partnership in Nursing Education and Research in Asia：第17回EAFONSにおける招聘パネリスト、Philippinフィリピン 大学、マニラ、フィリピン、2014.2

石垣和子、 石川県医療審議会委員

石垣和子、 石川県医療計画推進委員

石垣和子、 大学コンソーシアム石川理事

石垣和子、 石川県ユニセフ協会評議員

石垣和子、 NPO法人 地域保健研究会理、

石垣和子、 NPO法人 いしかわ在宅支援ねっと理事

石垣和子、 かほく市介護保険運営協議会委員

石垣和子、 沖縄県立看護大学外部評価委員

石垣和子、 日本家族看護学会理事長

石垣和子、 日本ルーラルナースング学会副理事長

石垣和子、 日本老年看護学会監事

石垣和子、 日本看護技術学会監事

石垣和子、 日本看護科学学会理事

石垣和子、 日本在宅ケア学会評議員

石垣和子、 文化看護学会理事

石垣和子、 第8回日本ルーラルナースング学会学術集会企画委員長

今井美和、 大学コンソーシアム石川 情報発信専門部会員

今井美和、 平成25年度 七尾高校SSH 講義「がんの病理」講師、石川県立七尾高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、2013.6

今井美和、 平成25年度 七尾高校SSH 成果発表会に係る助言、石川県立七尾高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、2013.12

今井美和、日本病理学会 学術評議員

岩城直子、第33回 北陸消化器内視鏡技師学会 座長、北陸消化器内視鏡技師会、小松市民センター、2013.11.17

岩城直子、日本がん看護学会 代議員、査読委員、日本がん看護学会、2013-

大木秀一、日本公衆衛生学会、査読委員

大木秀一、日本小児保健学会、査読委員

大木秀一、日本民族衛生学会、査読委員・評議員

大木秀一、日本双生児研究学会、幹事

大木秀一、The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research、Reviewer

大木秀一、Journal of Epidemiology、Reviewer

大木秀一、日本衛生学会、双生児医学連携研究会 世話人

大木秀一、NPO法人 日本多胎支援協会、理事

大木秀一、NPO法人 いしかわ多胎ネット、副理事長

大木秀一、東京大学教育学部附属中等教育学校、双生児特別検査 委員

大木秀一、石川県公害審査会委員

大木秀一、講師、多胎育児支援スキルアップ講座「多胎支援の基礎知識」、NPO法人いしかわ多胎ネット、小松サンアビリティーズ、2013.5

大木秀一、講師、多胎支援研修会「多胎児家庭支援のためのポイント」、ひょうご多胎ネット、ひょうごボランティアプラザ、2013.6

大木秀一、講師、多胎育児サークルハッピーキッズ10周年記念講演会「今できる、これからできる双子の育児をしている家庭への支援」、ハッピーキッズ旭川、サンホールはびねす、2013.9

大木秀一、講師、北九州多胎児の会ツインスタークラブ20周年記念フォーラム「公衆衛生学から見た多胎育児支援」、ツインスタークラブ、八幡西生涯学習総合センター、2013.9

垣花渉、日本体力医学会、学会評議員

垣花渉、初年時教育学会、選挙管理委員会副委員長

垣花渉、初年時教育学会第6回大会、実行委員、金沢工業大学

垣花渉、石川県大学健康教育研究会、委員

垣花渉、NPO法人クラブパレット、アドバイザー、NPO法人クラブパレット、石川県かほく市

垣花渉、石川県広域スポーツ支援センター「クラブネットいしかわ」、運営委員会委員、石川県教育委員会スポーツ健康課

垣花渉、かほく市観光物産協会、理事

垣花渉、かほく市ケーブルテレビ番組評議委員

垣花渉、第18回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業、分担研究者、一般社団法人 北陸地域づくり協会

垣花渉、平成24年度いしかわ里山創成ファンド事業助成金事業、分担研究者、いしかわ里山づくり推進協議会

垣花渉、かほく市民大学講師、「動く・食べる・休むのコマをまわそうーたくましい心と身体を育てるー」、かほく市教育委員会生涯学習課、七塚生涯学習センター、2013.6

垣花渉、シティーカレッジ授業「石川の市町」コーディネーター、「かほく市・志賀町」、大学コンソーシアム石川、金沢市、石川県政記念しいのき迎賓館、2013.6

垣花涉、学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築 FD・SD研修会講師、「世代間交流を通して健康なまちをつくる」、大学コンソーシアム石川、金沢市、石川県政記念しいのき迎賓館、2013.6

垣花涉、石川県地域スポーツ指導者養成講習会講師、「中高齢者の体力とスポーツ指導」、石川県教育委員会スポーツ健康課、いしかわ総合スポーツセンター、2013.8

垣花涉、津幡町中条地区認知症安心ネットワーク推進委員会講師、「認知症の予防を目指したライフスタイル」、津幡町地域包括支援センター、津幡町条南コミュニティプラザ、2013.11

垣花涉、健康保険委員・年金委員研修会における講師、「静かなスポーツのすすめ」、全国健康保険協会石川支部、石川県地場産業振興センター、2013.11

垣花涉、学校保健委員会講師、「深呼吸のすすめ」、小松市立松陽中学校、小松市立松陽中学校、2013.11

堅田智香子、石川県実習指導者講習会 小児看護学、社団法人 石川県看護協会、石川県看護協会看護研修センター、2013.7.30 2013.7.31

堅田智香子、石川県看護教員養成課程 「看護教育方法論」「小児看護学」「専門領域別看護論演習」、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、石川県立看護大学、2013.6.11～8.2

川村みどり、看護研究指導、公立宇出津総合病院、公立宇出津総合病院、2013.6～2014.2

川村みどり、かほく市介護認定審査会委員、かほく市、かほく市役所、2013.4～2014.3

川村みどり、出張オープンキャンパス「大学・病院等連携講座」講師、富山県立高岡南高等学校、富山県立高岡南高等学校、2013.7

川村みどり、「看護の魅力」講演会 講師、石川県医療対策課、県庁、2013.8

川村みどり、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会 実行委員、日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会 事務局、石川県立看護大学、2013.10

川村みどり、支部研修（看護学術集会）講師、日本精神科看護技術協会 石川県支部、石川県立看護大学、2013.11

北山幸枝、日本褥瘡学会、評議員、編集委員

北山幸枝、第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会、実行委員、静岡、2013.5

木森佳子、看護研究の指導、講評、公立能登総合病院、2013.6 2014.2

木森佳子、看護研究の指導、石川県済生会金沢病院、2013.6 2014.2

小林宏光、「研究方法」講義、金沢医療専門学校、金沢医療専門学校、2012.6

曾根志穂、かほく市介護認定審査会審査員、かほく市、かほく市役所、2013.4～2014.3

曾根志穂、平成25年度新任保健師研修会講師、石川県健康福祉部健康推進課、石川県立看護大学、2013.9.25～27

曾根志穂、能登キャンパス構想推進協議会平成25年度課題成果発表会報告、能登キャンパス構想推進協議会、能登空港、2014.3

曾山小織、看護研究指導、講評、珠洲市総合病院、2013年6月、10月、2014年3月

高山成子、講義 兵庫県看護協会認定看護師（認知症看護）援助方法論Ⅲケアマネジメント、認知症看護と倫理、兵庫県看護協会、兵庫県看護協会研修室、2013.8

高山成子、講義 日本看護協会認定看護師（認知症看護）（援助方法論Ⅲケアマネジメント）、日本看護協会、清瀬看護研修センター、2013.8

高山成子、講義「認知症BPSDに対する看護について」、高松病院、高松病院、2013

高山成子、日本老年看護学会評議員、日本老年看護学会、2013

高山成子、日本看護研究学会評議員、日本看護研究学会、2013

高山成子、日本看護科学学会誌専任査読委員、日本看護科学学会、2013

高山成子、後期高齢者医療懇話会副座長、石川県、2013.1

高山成子、「認知症高齢者の入浴困難・徘徊・収集行動に対する援助法を学ぶ」講義、福井県介護教育研修、福井県健やかシルバー病院、2013

高山成子、「認知症の進行と看護」について講演、第9回金沢口腔フォーラム、石川県地場産業振興センター 本館1階 大ホール、2013.7

多久和典子、日本生理学会副理事長（情報担当）、編集・広報委員長、日本生理学雑誌編集長、評議員

多久和典子、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

多久和典子、出張講義「メタボリックシンドロームを知ろう!」、石川県立看護大学、石川県立金沢泉丘高校、2013.7

多久和典子、出張講義「メタボリックシンドロームを知ろう!」、石川県立看護大学、小松市立高等学校、2013.11

多久和典子、模擬講義「生命の誕生と継承」、石川県立金沢北陵高等学校、石川県立看護大学、2013.11

武山雅志、シティカレッジ「地域と災害」講師、災害避難所について学ぶ、金沢星稜大学、石川県社会福祉会館 中ホール、2013.5

武山雅志、石川県警察学校初任科教養講師、犯罪被害者との接し方、石川県警察学校、石川県警察学校、2013.7

武山雅志、小松市職員研修講師、犯罪被害者とその家族の人権、小松市あんしん相談センター、小松市公会堂 大会議室、2013.7

武山雅志、傾聴ボランティア養成講座講師、相手の話を聴くとは、志賀町社会福祉協議会、志賀町文化ホール、2013.1

武山雅志、石川県看護協会認定看護管理者セカンドレベル研修講師、人的資源活用論ーストレスマネジメント・タイムマネジメントー、石川県看護協会、石川県看護協会研修センター、2013.11

武山雅志、第2回研修会講師、対人援助におけるコミュニケーション、石川県高等学校教育研究会福祉部会、石川県女性センター 研修室1、2013.12

武山雅志、石川県警察学校（災害警備専科）教養講師、被災者の心理、石川県警察本部警備部、石川県警察学校、2013.12

武山雅志、お話し相手ボランティア養成講座講師、お話を聴くことの基本について、かほく市社会福祉協議会、かほく市七塚健康福祉センター、2014.2

武山雅志、石川県精神保健福祉協会理事

武山雅志、石川県精神保健福祉協会会報編集委員

武山雅志、石川県臨床心理士会会長

武山雅志、(財)いしかわ女性基金運営委員

武山雅志、金沢こころの電話相談役

武山雅志、公益社団法人石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志、 石川県警察被害少年カウンセリングアドバイザー
武山雅志、 かほく市不登校問題対策運営協議会委員
武山雅志、 かほく市地域交通会議委員
武山雅志、 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員
谷本千恵、 かほく市地域自立支援協議会委員2014.3
田甫久美子、 看護研究に関する講義と研究倫理について、金沢社会保険病院、金沢社会保険病院、2013.5.9
田甫久美子、 看護研究指導面接、金沢社会保険病院、金沢社会保険病院、①2013.6.12
 ②2013.6.26 ③2013.7.3 ④2013.7.24 ⑤2013.7.31 ⑥2013.10.15 ⑦2013.10.22
田甫久美子、 看護研究講評、金沢社会保険病院、金沢社会保険病院、2014.2.22
田甫久美子、 出張オープンキャンパス（星稜高等学校）、大学コンソーシアム石川、星稜高等学校、2013.10.21
田甫久美子、 出張オープンキャンパス（呉羽高等学校）、大学コンソーシアム石川、呉羽高等学校、2014.3.7
田甫久美子、 看護実践学会、査読委員
田甫久美子、 大学間連携共同教育推進事業（ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト；プログラム1）、金沢大学、能登町、2013.8.28
田甫久美子、 大学間連携共同教育推進事業（ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト；プログラム3）、金沢大学、能登町、2013.10.12～10.13
塚田久恵、 かほく市健康づくり推進協議会委員、かほく市、かほく市、2013.6
塚田久恵、 JICA日系研修講義・アクションプラン作成における助言指導、当大学附属地域ケア総合センター、当大学附属地域ケア総合センター研修室、2013.8
塚田久恵、 石川県看護教員養成研修会(保健師教育課程概論2回)講師、石川県医療対策課(委託事業)、県立看護大学大小講義室、2013.7
塚田久恵、 日本公衆衛生看護学会査読委員、日本公衆衛生看護学会、2013.6～2016.5
塚田久恵、 日本ルーラルナース学会第8回学術集会事務局長、実行委員長、企画委員、学会事務局 石川県立看護大学内、和倉温泉観光会館、2013.1～2013.10
塚田久恵、 第72回日本公衆衛生学術集会一般演題発表座長(P1605-1～10)、日本公衆衛生学会、三重県総合文化センター、2013.1
中田弘子、 看護部職員研修 講師、公立羽咋病院看護部、公立羽咋病院、2013.7.25、10.24、2014.1.16、3.20
中田弘子、 看護部職員研修 講師、医療法人社団芙蓉会二ツ屋病院看護部、医療法人社団芙蓉会二ツ屋病院、2013.6.17
中田弘子、 模擬授業、小松明峰高等学校、2013.10.15
中田弘子、 看護実践力向上セミナー 第1回ジェネラリストのための事例検討 チューター、看護科学研究学会 北陸研修会 いしかわ学習会、石川県立看護大学、2013.7.27、11.3
西村真実子、 日本小児保健協会、代議員
西村真実子、 公益社団法人、日本看護科学学会、代議員および和文誌編集委員
西村真実子、 看護実践学会、理事
西村真実子 石川県小児保健協会、役員

西村真実子、 石川県奨学生選考審査会（石川県教育委員会）審査委員
西村真実子、 NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川、理事（副代表）、相談員
西村真実子、 石川県看護協会・老人保健施設「なでしこの丘」まちの保健室事業、実行委員
西村真実子、 北陸小児糖尿病サマーキャンプ、運営委員
西村真実子、 平成25年度 石川県要保護児童対策協議会、専門家チーム委員
西村真実子、 平成25年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」研修会講師、石川県 健康福祉部 少子化対策監室、石川県庁行政庁舎、2013.8
西村真実子、 金沢市子ども・子育て審議会 子育て支援専門部会 次期かなざわ子育て夢プラン 策定ワーキング会議、委員・副会長、金沢市福祉健康局 こども福祉課 児童育成グループ
西村真実子、 金沢市平成25年度部局専門研修「安心出産育児支援研修」（全2回）講師、金沢市 市駅西福祉健康センター、金沢市 市駅西福祉健康センター、2013.5～2013.6
西村真実子、「Nobody's Perfect『完璧な親なんていない』」連続講座(全6回) ファシリテーター、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、此花会館(金沢市)、2015.1～2015.2
西村真実子、米田昌代 平成25年度「自分らしい子育て講座」親育ち支援プログラム「ノーバディーズ・パーフェクト（完璧な親なんかいない!）」プログラム(全6回)ファシリテーター、)、小松市いきいき健康課、小松市すこやかセンター、2013.8～2013.9
西村真実子、米田昌代、親育ち支援プログラム ノーバディーズパーフェクト（完璧な親なんていない!）再会プログラムファシリテーター(全1回)、小松市、小松市すこやかセンター、2013.12
西村真実子、 家庭科における「親子交流授業プログラム」研究委員会委員、公益財団法人いしかわ子育て支援財団
西村真実子、「かほく市子ども・子育て会議」委員・会長、石川県かほく市
西村真実子、 医道審議会 保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会専門委員、厚生労働省 医政局看護課
西村真実子、米田昌代 子育て支援者向け体験講座「ファシリテーターってなあに？」(全4回)講師、金城大学短期大学部 地域連携・貢献センター、金城大学・医療健康学部棟、2013.11～2014.2
西村真実子、 JICA青年研修中央アジア・コーカサス混成母子保健管理コース講師、JICA北陸支部・石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、2013.11
西村真実子、 親へのグループ支援に関する意見交換会助言者、公益財団法人いしかわ子育て支援財団 石川県健康福祉部 少子化対策監室、しいのき迎賓館、2014.3
西村真実子、 だろっぶ・いん・さろん「だろっぶ・いん・るーむ」「親育ち子育てを考える会」(全5回)、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、聞善寺(金沢市)、2013.9～12
長谷川昇、 めざせカラダ美人♪～食事ですます健康に～、石川かほく農業協同組合、石川県 西田幾多郎記念哲学館ホール、2013.7
長谷川昇、 見て、やっ、て、学ぶ授業の展開、石川県看護教員養成会、石川県看護大学、2013.11
長谷川昇、 ロコモチャレンジ、能登町・石川県立看護大学、能登町体育館、2013.9-
長谷川昇、 石川県食品技術研究者ネットワーク 幹事、石川県
Hasegawa N、 Editor-in-Chief: Health Care、Sciknow publication, New York, USA
Hasegawa N、 Reviewer: J Ethnopharmacology、Elsevier
Hasegawa N、 Reviewer: Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology、John

Wiley & Sons, Inc.

Hasegawa N、 Reviewer: Food and Chemical Toxicology、 Elsevier

Hasegawa N、 Reviewer: Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine、
Hindawi Publishing Corp. New York, USA

Hasegawa N、 Reviewer: Journal of Chinese Integrative Medicine、 JCIM Press, China

林一美、 日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会企画委員、日本ルーラルナーシング学会、
七尾市、2013.1

林一美、 看護実践学会第7回学術集会シンポジウムコーディネーター、実践看護学会、七尾市、
2013.9

林一美、 平成25年度北陸高度がんプロチーム要請基盤形成プラン市民講座座長、北陸高度がん
プロチーム要請基盤形成プラン、金沢市、2013.12

林一美、 公開講座「学都石川の才知」講師、大学コンソーシアム石川、金沢市、2013.6

林一美、 津幡町介護認定審査会委員、津幡町

林一美、 かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長、かほく市

林一美、 かほく高松訪問看護ステーション運営委員、石川県看護協会

林一美、 羽咋市国民健康保険運営協議会委員、羽咋市国民健康保険運営協議会

林一美、 石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員、石川県国民健康保険団体連
合会

林一美、 看護教員養成講習会講師、石川県看護教員養成講習会、石川県立看護大学、
2013.6/3,7,12,13,14,20,27,7/2,11/27

林一美、 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修、石川県、石川県立看護大学、
2013.8/24,9/2,9.10、12/14,24

林一美、 学科説明会授業、金沢桜丘高等学校、2013.10月

林一美、 出張オープンキャンパス、金沢高等学校、2013.9

彦聖美、 かほく市介護認定審査会審査員、かほく市、かほく市役所、2011.4～継続

彦聖美、 かほく市食育推進計画作成委員、かほく市、かほく市役所、2013.6～2014.3

彦聖美、 白山ろく・鶴来在宅医療連携協議会アドバイザー、白山ろく・鶴来在宅医療連携協議
会、公立つぎ病院、2013.4～継続

彦聖美、 NPO法人 いしかわ在宅支援ねっと理事、NPO法人いしかわ在宅支援ねっと、石川県
白山市、2012年～継続

彦聖美、 金沢市協働をすすめる市民団体登録任意団体 百万石介護メンズ倶楽部（男性介護者の
会）事務局、百万石介護メンズ倶楽部、石川県金沢市、2012年～継続

彦聖美、 平成25年度石川県実習指導者講習会「在宅看護論」講師、石川県看護協会、石川県看護
協会、2013.8.19

彦聖美、 平成25年度石川県認定看護管理者制度教育ファーストレベル教育課程、「看護情報論」
講師、石川県看護協会、石川県看護協会、2013.11.12

彦聖美、 JICA研修 パラグアイ日系研修コーディネーター・講師、JICA北陸支部・石川県立看
護大学、石川県立看護大学、2013.7.16～8.9

彦聖美、 日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会事務局、実行委員、企画委員、学会事務
局 石川県立看護大学内、和倉温泉観光会館、2013.1～2013.10

- 彦聖美、 男性介護者のための料理教室「楽ちん・美味しい・幸せご飯作りの開催・コーディネーター（金沢市）、勇美記念財団研究助成、金沢市女性センター、2013. 5.29,6.26,7.31
- 彦聖美、 男性介護者のための料理教室「楽ちん・美味しい・幸せご飯作りの開催・コーディネーター（羽咋市）、勇美記念財団研究助成、羽咋市千里浜公民館、2013. 8.3,10.26,11.30
- 彦聖美、 男性介護者のための料理教室「楽ちん・美味しい・幸せご飯作りの開催・コーディネーター（輪島市）、勇美記念財団研究助成、輪島市門前支所、2013. 12.21
- 彦聖美、 羽咋市「食の交流会」の開催・コーディネーター、羽咋市社会福祉協議会・勇美記念財団研究助成、羽咋市すこやかセンター、2014.2.1
- 彦聖美、 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院看護研究指導および看護研究発表会講評、芳珠記念病院、芳珠記念病院、2013. 9.25,12.18、2014. 2.22
- 彦聖美、 公立つるぎ病院看護研究指導および看護研究発表会講評、公立つるぎ病院、公立つるぎ病院、2013. 7.26, 11.28, 2014. 2.21
- 牧野智恵、 平成25年度福井県自殺対策緊急強化特別事業電話相談技能研修（相談員矯正講座（第2課程）①講義「ロゴセラピーと自己考察」②懇談（ビデオ学習&バズセッション）、福井こころの電話、研修施設リライム、2013.7.27
- 牧野智恵、 石川県看護教員養成講習会 ①1-2回 ②3-4回 ③5-6回、石川県看護教員養成講習会、石川県立看護大学付属地域ケア総合センター、①2013.7.18 ②8.1 ③8.29
- 牧野智恵、 メンタルケア・スペシャリスト養成講座 ターミナルケア、財団法人メンタルケア協会、石川県文教会館、2013.10.5
- 牧野智恵、 「がん患者の心のケア」、平成25年度看護師資質向上研修、金沢大学附属病院、2013.10.28
- 牧野智恵、 卒業記念講演、敦賀市立看護専門学校、敦賀市立看護専門学校、2014.2.27
- 牧野智恵、 第21回がん看護研修会講演「看護倫理の原則と態度」、京都府立医科大学付属病院、京都府立医科大学、2014.2.28
- 牧野智恵、 「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」運営協議委員、北陸がんプロ、金沢大学、2013
- 牧野智恵、 看護師研修「がん看護」についての検討会委員、石川県庁、2013.5
- 牧野智恵、 日本がん看護学会誌 査読委員、日本がん看護学会、2013-2015
- 牧野智恵、 石川県在宅緩和ケア推進連絡協議委員、2007-
- 牧野智恵、 日本IPR研究会 運営委員・査読委員、2007-
- 牧野智恵、 福井 生と死を考える会 副代表、福井 生と死を考える会、2006-
- 牧野智恵、 石川緩和ケア医療研究会 世話人、石川緩和ケア医療研究会、石川県地場産業会館、2010-
- 松原勇、 富山大学大学院医学薬学研究部（医学）協力研究員、富山大学、富山大学、2013.4-2014.3
- 丸岡直子、 福井大学講師（認定看護師教育課程：リーダーシップ担当）、福井大学、福井大学医学部看護学科、2013.6
- 丸岡直子、 石川県看護教員養成講習会講師（看護研究）、石川県健康福祉部、石川県立看護大学、2013.4～5
- 丸岡直子、 石川県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師（看護サービス

- 提供論-問題解決思考)、石川県看護協会、石川県看護研修センター、2013.8
- 丸岡直子、石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員、石川県看護協会、2013
- 丸岡直子、日本看護学教育学会 評議員、2013
- 丸岡直子、日本看護研究学会 査読委員、2013
- 丸岡直子、看護実践学会専任査読委員、2013
- 丸岡直子、石川県看護教員養成講習会検討委員会座長、石川県健康福祉部、2013
- 丸岡直子、石川県看護教員養成講習会運営委員、2013
- 丸岡直子、認定薬剤師研修制度委員会委員、石川県薬剤師協会、2013
- 丸岡直子、石川県看護協会WLB推進委員会委員、石川県看護協会、2013
- 丸岡直子、石川県立中央病院地域医療支援委員会委員、石川県立中央病院、2013
- 丸岡直子、日本ルーラルナース学会第8回学術集会実行委員、日本ルーラルナース学会第8回学術集会、2013
- 丸岡直子、金沢大学大学院医薬保健学講師(看護管理特論)、金沢大学、金沢大学、2013.12
- 丸岡直子、国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校あり方検討会委員、2013
- 丸岡直子、高齢者医療・在宅医療総合看護研修講師(転倒防止とリスク感性)、国立長寿医療研究センター、国立長寿医療研究センター、2013.1
- 村井嘉子、金沢脳神経外科病院看護研究指導、随時
- 村井嘉子、能美市立病院看護研究指導、年3回
- 村井嘉子、日本救急看護学会評議員
- 村井嘉子、日本救急看護学会専任査読委員
- 村井嘉子、日本循環器看護学会誌専任査読員
- 村井嘉子、日本クリティカルケア看護学会専任査読員
- 村井嘉子、日本クリティカルケア看護学会評議員
- 村井嘉子、シンポジウムI 重症患者のベッドサイドにおけるcomfortケアの実際 座長、第9回日本クリティカルケア看護学術集会、神戸、2013.6、第9回日本クリティカルケア看護学術集会プログラム・抄録集、9(2)、61、2013
- 森田聖子、看護実践学会、査読委員
- 森田聖子、院内看護研究指導、公立能登総合病院
- 山岸映子、性感染症予防講演会講師、輪島市、石川県立輪島高等学校、2013.7
- 山岸映子、思春期健康講演会、加賀市、加賀市立東和小学校、2013.7
- 山岸映子、性教育講座講師、石川県立翠星高等学校、2013.11
- 山岸映子、JICA成年研修中央アジア・コーカサス混成 母子保健実施管理コース講師、JICA、石川県立看護大学、2013.12
- 吉田和枝、曾山小織、米田昌代、祖父母の楽しい孫育て教室開催、石川県立看護大学地域ケア総合センター、女性センター、2013.6
- 吉田和枝、看護教員養成講習会 専門領域別看護論演習 講師、石川県立看護大学、2013
- 吉田和枝、子育て・女性健康支援センター相談員、石川県助産師会、石川県立看護大学、2013
- 吉田和枝、シティカレッジ 講義「セクシャリティ」、石川コンソーシアム、しいのき迎賓館、2013.4~6
- 吉田和枝、長谷川昇、講演「更年期からの女性の健康」と骨密度測定、石川県宝達志水町女性

会、石川県立看護大学、2013.8

吉田和枝、女性高齢者のボランティア活動に関するアドバイス、高齢者ボランティアやよい会・社会福祉協議会、大阪府豊能郡公民館、2013.1

吉田和枝、田甫久美子、東雅代、能登町運動会での「健康推進：ロコモ度チェック、ロコトレ」実施、石川県立看護大学地域ケア総合センター、石川県能登町、2013.1

吉田和枝、JICA青年研修 中央アジア・コーカサス混成 母子保健管理コース 講師担当、業務責任者、JICA北陸支部・石川県立看護大学地域ケア総合センター、石川県立看護大学、2013.11,12

吉田和枝、ゲストティーチャ 授業「かがやく命、たいせつな命、すてきな命」、かほく市立金津小学校、かほく市立金津小学校、2013.11

吉田和枝、講演「女性の各期のメンタルヘルス」、メンタルケア協会、石川文教会館、2013.12

米田昌代、日本看護研究学会 査読委員

米田昌代、SIDS家族の会 医学アドバイザー

米田昌代、石川県看護協会 助産師出向支援モデル事業協議会委員

米田昌代、村田久美子、親育ち支援プログラム ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）ファシリテーター(全6回)、社会福祉法人 伊奈美園、児童家庭支援センター（ファミリーステーションいなみえん）、2013.5～2013.6

米田昌代、村田久美子、親育ち支援プログラム ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）再会プログラムファシリテーター(全2回)、社会福祉法人 伊奈美園、児童家庭支援センター（ファミリーステーションいなみえん）、2013.9 2013.12

米田昌代、堅田智香子、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 子育てドロップ・イン・サロン NP親育ち・子育てを考える会ファシリテーター(全5回)、石川県立看護大学、聞善時、2013.8～2013.12

米田昌代、石川県看護教員養成講習会「看護教育評価演習」 講師、石川県立看護大学、石川県立看護大学、2013.8

米田昌代、吉田和枝、曾山小織、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター指導助言事業 ペリネイタル・グリーフケア検討会（第9回 第10回）運営、石川県立看護大学、石川県立看護大学 石川県立中央病院 健康教育館、2013.7 2014.2

米田昌代、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター指導助言事業 あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動、石川県立看護大学、津幡町議室、生涯学習センター等 メール相談、2013.4～ 2014.3

米田昌代、いしかわ多胎ネットワーク研修会 ファシリテーションスキルを学ぼう 講師、いしかわ多胎ネットワーク、教育プラザ富樫、2014.2

4.7 その他（受賞等）

田甫久美子、平成24年度 日本看護研究学会奨励賞、若年男性労働者が就職以降に体重増加・肥満に繋がる要因とその背景 - 特徴的な思考・行動パターンによる若年男性肥満労働者の類型化

5. 卒業研究論文題目及び修士論文題目一覧

5.1 平成25年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
人間科学領域 (15人)	1001016	大山 恵理佳	石川県内における多世代間交流型コミュニティカフェの現状
	1001021	鹿島 琴巳	かほく市の生活習慣病の現状とその危険因子との関係
	1001051	西島 結実	子どもの孤食と共食の違いが食事の内容へ及ぼす影響
	1001023	片山 有沙	胎児異常と診断された妊婦の思いと看護ケア
	1001027	喜多 智紗都	石川県の特別養護老人ホームにおける看取りについて －意向確認を中心に－
	1001064	松田 真歩	臍帯血幹細胞移植を受ける患児とその家族に対する看護について
	1001003	浅田 有紀子	腕組みが与えるポジティブな印象形成に関する研究
	1001040	大門 愛理	看護学生における友人関係のとり方と対人ストレスコーピングとの関連について
	1001052	西本 梢恵	コミュニケーション・スキルの高低とうなずきの関係性
	1001077	森口 弥波	スリープスキャンによる睡眠評価の基礎的研究 －スリープスキャンとアクチグラフ、心拍計の比較から－
	1001081	弓納持 眞美	睡眠評価機器の使用による睡眠の基礎的検討の研究 －年齢による睡眠状態の違いと相関－
	0901024	小林 茉耶	スリープスキャンによる睡眠評価の基礎的検討 －学生対象者による睡眠の比較－
	1001024	金山 美由紀	女子大学生の便秘と食習慣や生活習慣との関係
	1001044	高島 萌	看護大学生の家庭環境の違いによる食生活と身体状況に関する研究
	1001047	中谷 真一郎	看護学生が抱く看護師のイメージについての量的研究
看護専門領域 健康科学 (15人)	1001035	笹倉 麻里	破骨細胞の分化における細胞形態変化の検討
	1001041	高名 沙也佳	女貞子の破骨細胞における抗 RANKL 効果について
	1001063	松田 志保美	破骨細胞前駆細胞の増殖と細胞形態に及ぼす女貞子の影響
	1001073	連 久留美	女子生徒の子宮頸がん予防に関する認識・許容状況 －女子学生と比較して－
	1201101	油野 未帆	子宮頸がんの疫学的特徴と予防行動の現状 －全国と石川県を比較して－
	1201106	安田 佳菜	高等学校教員における子宮頸がん予防の認識・許容と予防教育の現状・意識
	1001011	梅澤 舞子	Cre-loxP を用いたウイルスベクターによる神経伝導路解析法の改良

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
	1001067	南 克典	有機カチオントランスポーターOCT2 結合タンパク質の検索
	1001071	村上 綾菜	有機カチオントランスポーターrat OCT2 安定発現 PC12 細胞株作製の試み
	1001032	小谷内 良華	看護学生の冠動脈疾患予防への意識とセルフケアの現状 -患者指導に活かす生活習慣病予防の取り組みに向けて-
	1001057	平 成美	看護大学生における緑茶の摂取状況と緑茶に関する認識の調査研究 -エビデンスに基づいた生活習慣病予防への展望-
	1001059	平山 愛理	看護大学生のダイエットと食事・運動習慣
	1001014	扇谷 佳菜	多胎家庭における育児の負担と必要な支援に関する文献レビュー
	1001025	加納 幸歩	児童虐待のリスク因子に関する文献レビュー
	1001037	澤田 智世	不妊治療が夫婦関係に与える心理的影響に関する文献レビュー
看護専門領域 基礎看護学 (10 人)	1001012	浦川 夏未	夜間の安全・安楽を保障するために看護師が行っている患者への入眠ケアの実態
	0901016	川越 史織	看護師が捉える入院患者の退院後の希望・不安と生活状況
	1001013	卜部 文乃	高齢者の筋力低下に着目した転倒アセスメントスコアと転倒予防対策の実際
	1001076	森岡 港	検査後に生じた身体的苦痛を緩和するための看護実践の意味
	1001045	堂谷内 弘美	清拭車保管時のタオルの収納方法の違いがタオルの衛生性に及ぼす影響
	1001082	横川 智子	微酸性電解水を用いた清拭の衛生効果
	1201103	海岸 奈々恵	微酸性電解水を用いた清拭タオルの清拭車保管時における衛生効果
	1001019	笠井 彩加	2 型糖尿病患者の通院継続の実際と促進・阻害する要因の調査票の試案
	1001030	桑原 彩	女子大学生のダイエット行動の特徴に関する研究
	1001065	水野 夏歩	手術室へ向かう患者に対する看護師の働きかけの内容
看護専門領域 母性看護学 (8 人)	1001020	笠嶋 愛実	NICU 入院が決定した児の母親やその家族への支援に関する文献研究
	1001031	後藤 菜摘	ペリネイタル・ロスを経験した夫(父親)の心理における文献の動向と今後の課題
	1001043	高島 周	配偶者間におけるドメスティック・バイオレンスについての文献検討-妊娠期に焦点をあてて-
	1001053	濱田 美保	父親の育児参加と母親の育児不安との関連性に焦点をあてた文献検討
	1001005	石島 由香	思春期における性行動の実態と効果的な性教育のありかた
	1001038	嶋田 愛実	院内助産の現状と今後の課題に関する文献検討

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
	1001033	紺谷 実生	出生前診断受検の意思決定を支える医療者の関わりに関する文献的考察
	1001034	坂本 独	父親となる意識・役割行動への影響要因と支援について －文献検討による考察－
看護専門領域 小児看護学 (4人)	1001039	清水 美咲	亡くなった患児のきょうだいの思いと支援に関する文献研究
	1001078	矢尾 智里	1型糖尿病児の思春期におけるセルフケアの自立を妨げる要因とその援助方法に関する文献検討
	1001026	河合 祐来	小児がん患児への告知の進行を妨げる親と医療者のネガティブな認識
	1001048	中原 円香	長期入院・入退院を繰り返す子どもの成長発達を促す支援についての文献検討－保育士と看護師の活動内容から－
看護専門領域 成人看護学 (9人)	1001029	畔川 清音	サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援効果－子どものサポートブックの記述内容及び親子の会話の特徴から－
	1001069	宮崎 志保	サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援効果－母親の特徴から－
	1001018	小谷 文乃	クリティカルケア看護を受ける患者の家族が抱く思いやニーズの文献的考察
	0901071	宮野 春菜	人工股関節置換術を受ける患者に対する看護援助の文献的考察
	1001022	片桐 紗季	オストメイトの災害対策における実態とその課題－過去 10年以内に震源地を有する地震を経験した 2 県の比較－
	1001070	邑井 志帆	養護教諭が行う湿潤環境理論に基づく創傷処置の実際
	1001002	赤島 薫	クリティカルケア看護領域における家族援助についての文献的考察－重症患者家族・看護師の認識するニーズの重要度・満足度の分析より－
	1001015	大塚 那月	外来で告知を受ける患者に対する外来看護師の関わり
	1001055	東出 桜	家族支援が得られないがん患者への看護師の思いと関わり
看護専門領域 老年看護学 (5人)	1001083	若林 恵理子	急性期の治療を受ける認知症高齢者のケアについての文献検討
	0801022	桑田 安彩	急性期病棟と療養病床群の看護師における認知症の知識とケア場面での感情、優先度の関連
	0901009	浦上 悠紀	急性期病棟における看護師の認知症に関する知識と困難感情
	1001001	赤坂 愛実	在宅要介護高齢者に対する家族の口腔ケアの実施状況と認識に関する文献検討
	1001028	北井 伶奈	高齢者の年齢と性別による口腔保健行動の特性
看護専門領域 地域看護学 (6人)	1001074	村中 裕紀	東日本大震災被災地支援ボランティア活動に参加した看護学生の学び－活動後の意識・行動の変化－
	1201102	稲垣 幸	日本におけるがん緩和ケアシステムの現状と課題に関する文献検討
	1001010	上野 思惟	ALS 患者の疾患受容までの気持ちの変化と支援のあり方に関する基礎的研究
	1001080	山本 美恵	新任保健師の成長に関わる要因についての基礎的研究 －地域包括センターで働く新任保健師を対象として－

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
	1201104	地井 万梨恵	災害亜急性期における認知症高齢者と家族に対する保健師の生活支援－一般避難所での対応－
	1201105	藤井 美里	特定保健指導の中断者への保健師の関わり－意欲を高めるために－
看護専門領域 在宅看護学 (6人)	1001056	東平 幸代	在宅で生活している封入体筋炎患者の生活状況と工夫
	1001079	山崎 真理亜	封入体筋炎と診断を受けた患者の思いと経験
	1001006	板村 靖世	北陸3県の都道府県別にみた高齢期の妻や親を介護する男性の介護状況
	1001009	岩本 紗緒里	高齢期の妻や親を介護する男性の続柄別の実態調査-富山県・福井県における介護支援専門員に対する質問紙調査-
	1001049	中村 貫二	就労男性に対する家族の介護を担う際に必要な支援の検討－いしかわ男女共同参画推進宣言企業に対する調査を通して－
看護専門領域 精神看護学 (5人)	1001036	佐藤 純	統合失調症患者の病気体験に関する研究－障害受容に焦点を当てて－
	1001066	三井 奈央子	統合失調症長期入院患者の退院促進につながる看護に関する文献検討
	1201107	山田 優介	新型うつ病患者への看護師の支援に関する文献検討
	1001054	東出 愛	がん患者が抑うつ状態にいたる要因別の看護に関する文献的考察
	0901060	東川 世奈	精神科に勤務する新人看護師のストレスに関する文献検討

5.2 平成25年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	論文題目	担当教員
成人看護学	佐伯 千尋	術後膵臓がん患者の人生観の特徴 －PILテストを通して－	牧野 智恵
成人看護学	上埜 千春	化学療法中の造血器腫瘍患者に対する口腔 ケアの有効性に及ぼす緑茶の効果	牧野 智恵
看護管理学	野村 仁美	看護師がいきいきと実践する清潔援助の意 味と専門職的自律性	丸岡 直子
看護管理学	澤味 小百合	新人看護師の看護師としてやっていけそう という感覚	丸岡 直子
看護管理学	藤田 恵子	中堅看護師の看護実践の向上に繋がる自己 学習の仕組み	丸岡 直子
看護管理学	越中 のりこ	看護実践において看護師が求める看護師長 の役割	丸岡 直子
看護デザイン	大永 慶子	精神科病院で最期を迎える精神疾患患者へ の看取りケアについて	浅見 洋
コミュニティーケア	中山 晴恵	進行性核上性麻痺療養者の在宅療養を支え る家族介護者の体験と求める支援	林 一美

6. 石川看護雑誌

第11 卷 (2014 年 3 月)

■ 記念講演

いきる・くらす人に寄り添う看護へのまなざしと期待

波平恵美子

■ 総説

公表された既存データの有効活用について

大木秀一, 彦聖美

■ 原著論文

男性介護者におけるStressful Life Events とSense of Coherence の関連

彦聖美, 鈴木祐恵, 大木秀一

現代日本のルーラルエリアにおける終末期療養希望場所について

—石川・島根・秋田での横断的意識調査の結果—

浅見洋, 中村順子, 伊藤智子, 諸岡了介, 彦聖美, 塚田久恵, 浅見美千江

■ 研究報告

日本人女性における公費助成対象外HPV ワクチン接種許容状況：今後の対策と研究の方向性

宮田愛実, 今井美和

石川県立看護大学看護学部卒業生の動向調査

南堀直之, 村井嘉子, 中道淳子, 寺井梨恵子, 米田昌代, 井上智可, 西村真実子, 木村久恵,
川端祥子, 小田沙矢香

サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の検討—子どもの記述を手がかりに—

高山清敏, 牧野智恵, 松本友梨子, 加藤亜妃子, 野口絵理奈, 我妻孝則, 北本福美

サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の検討—母親の特徴を手がかりに—

野口絵理奈, 牧野智恵, 松本友梨子, 加藤亜妃子, 高山清敏, 我妻孝則, 北本福美

石川県加賀地区滞在外国人のインフルエンザ予防行動と対処行動の実態調査

林紀代美, 砂山美和, 今井美和

地域医療を担う病棟看護師のストレス要因—地域ごとの特色に焦点を当てて—

西澤志織, 花川真貴, 矢鋪有梨, 松原勇, 多久和典子

妊産婦の便秘と対処法に関する実態

高井郁美, 米田昌代

■ 特別報告

韓国における生活習慣病対策と評価システム及び保健教育師制度の導入状況について

～京畿道庁・保健所・保健診療所の訪問を通しての報告～

塚田久恵, 曾根志穂, 石垣和子

平成25 年度大学間連携共同教育推進事業ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトの試行

川島和代, 浅見洋, 吉田和枝, 垣花渉, 塚田久恵, 田甫久美子, 東雅代, 森田聖子

ドイツにおける事前医療指定と看取りの現在

浅見洋, 彦聖美, 大永慶子, 中山晴恵

The World Congress on BUILDING CONSENSUS OUT OF CONTROVERSIES IN GYNECOLOGY, INFERTILITY AND PERINATOLOGY (BCGIP-COGI) に参加して

大木秀一

北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン英国視察～ホスピス発祥の地を辿る～に参加して

中嶋知世, 牧野智恵, 東雅代

28th International Conference of Alzheimer' s Disease International に参加して

高山成子

ワシントン大学における看護実践博士 (DNP ; Doctor of Nursing Practice) の教育課程の視察報告

西村真実子, 塚田久恵, 岩城直子

The 9th International Nursing Conference and 3rd World Academy of Nursing Science

への参加・発表報告

西村真実子

2013 FASEB Summer Research Conference on Lysophospholipid and Other Related Mediators

— From Bench to Clinic に参加して

多久和典子

7 附属図書館

7.1 今年度の主な活動概況

7.1.1 図書館業務の改善

図書館運営委員会の審議、学生アンケートの結果を分析したことにより、以下の業務改善を行った。

- ① 土曜日開館時間の延長
土曜日の開館時間を従来の午後1時～午後5時を午前10時～午後6時までとし、4月6日（土）から本格的に実施した。
- ② 貸出冊数の変更
平成24年10月から、実習を行っている3年次生を対象に、貸出冊数の上限を5冊から10冊にして試行的に貸出したところ、大変好評であったため、平成25年4月から1年次生～4年次生の貸出冊数を10冊として本格実施した。
- ③ 国家試験対策資料コーナーの新設
看護師、保健師の国家試験関連資料を集めた、国家試験対策資料コーナーを設置した。
- ④ 館内図書配架場所のリニューアル
8月12日（月）～16日（金）の5日間、2階に別置されていた社会科学図書約2,000冊（369～399）を1階へ移動するとともに、閲覧室の図書を「一般教養」「看護学」「医学」の資料群にまとめる作業を学生ボランティア5名とともにいった。
- ⑤ 看護・医療に関する新聞記事ファイリング
「新聞 de 見る看護の記事」をテーマ別にファイリングし、二次資料として情報提供を始めた。
- ⑥ 9月夏季休業期間中の開館日、開館時間の変更
9月から始まる基礎看護実習Ⅱにあわせて、秋分の日を臨時開館、午後5時閉館を午後7時まで開館時間を延長した。
- ⑦ 開架雑誌データ入力完了
平成25年4月から開始した、雑誌のバーコード貼付、データ入力作業が完了したので、平成26年4月から雑誌の貸出を予定している。
- ⑧ 夏季休暇中に実施していた特別整理を、春季休暇中に実施
毎年、夏季休業中に休館して実施していた5日間の特別整理を、卒業式後の春期休暇中3月17日（月）～22日（土）に実施した。その結果、約800名の入館者増となった。

7.1.2 図書館事業の実施

- ① リユース図書の実施（年2回）
図書館が複本で所蔵する図書を、7月夏のオープンキャンパスと、10月秋のオープンキャンパスに学生と見学者に無料で提供した。
7月：学生80人178冊、見学者3人6冊（計83人 184冊）の利用があった。
10月：学生42人115冊の利用があった。
来年度のリユース図書の実施に向けて、4年次生にリユースに使える図書の寄贈を依頼

した結果、約60冊の寄贈があった。

② わく・ワーク (work) 体験事業

平成25年度から、かほく市立高松中学校2年生3名が、7月25日 (木) ～26日 (金) の2日間「わく・ワーク (work) 体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。

③ 企画展示の実施

テーマ別に図書を選定し展示する企画展示を行った。(カッコ内展示期間 冊数)

「災害看護展」(7/20～31 71冊)、教職員推薦図書「わたしの3冊」(10/26～11/16 21冊)「日本のナイチンゲール展」(10/26～11/16 35冊)、「世界エイズデー関連図書展」(11/30～12/9 20冊)、「レポート・論文の書き方展」(3/10～4/28 21冊)、「あなたのスタート新生活応援! 図書展」(3/26～4/28・学び始める編 24冊・暮らし始める編 22冊)

7.2 資料整備状況

資料整備状況 (平成26年3月31日現在) () 内平成25年度受入れ数

図書	和書	46,341 冊 (1,462 冊)	購入:1,153 冊 寄贈:309 冊	合計 52,288 冊 (1,469 冊)
	洋書	5,947 冊 (7 冊)	購入: 7 冊	
雑誌タイトル数	和雑誌	453 誌	継続購入 98 誌	合計 622 誌 (内購入 138 誌)
	洋雑誌	169 誌	継続購入 40 誌	
新聞	日本紙	8 紙	—	—
	英字紙	1 紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	160 点 (1 点)	購入:1 点	合計 2,146 点
	ビデオ	1,376 点	—	
	DVD	610 点 (165 点)	購入:165 点	

7.2.1 平成25年度分野別蔵書構成 (平成26年3月31日現在)

○総冊数: 52,288 冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	技術	言語	文学
冊数	4,324	2,726	572	7,333	1,560	17,288	12,642	1,075	217	1,250	1,181	2,120

7.2.2 医学分類蔵書構成 (平成26年3月31日現在)

○医学書 (看護学を除く) の総冊数: 17,288 冊

490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
1,439	2,635	1,232	5,574	1,845	898	226	153	3,052	234

7.2.3 看護系資料分類別構成（平成26年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：12,642冊

N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家族看護	状態別看護
1,959	1,081	3,267	512	440	1,678	476	556	1,789	884

7.3 利用統計

7.3.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	23	25	26	20	23	27	24	22	20	22	19	275
入館者数	4,342	6,514	5,839	8,866	5,408	4,109	7,417	5,456	3,629	4,073	4,788	1,060	61,501
1日平均	181	283	234	341	270	179	275	227	165	204	218	56	224

7.3.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	209	352	441	389	187	233	380	275	263	248	194	75	3,246
	冊数	424	696	872	852	374	659	995	629	742	533	400	195	7,371
院生	人数	91	97	88	83	49	75	38	63	25	28	20	5	662
	冊数	256	223	215	222	144	193	195	182	51	53	58	19	1,811
教職員	人数	40	64	55	50	29	35	56	42	27	33	22	22	475
	冊数	101	144	160	225	64	86	156	82	90	116	58	68	1,350
一般	人数	60	90	95	73	72	80	102	79	48	58	44	40	841
	冊数	149	228	236	200	164	201	227	193	106	141	120	93	2,058
計	人数	400	603	679	595	337	423	576	459	363	367	280	142	5,224
	冊数	930	1,291	1,483	1,499	746	1,139	1,573	1,086	989	843	636	375	12,590

7.3.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	44	29	60	61	61	40	61	35	25	19	57	40	532
学生	50	71	53	20	44	31	11	25	39	24	12	25	405
計	94	100	113	81	105	71	72	60	64	43	69	65	937

7.3.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	4	20	10	11	6	4	12	10	38	5	6	12	138
学生	54	122	76	103	98	76	77	65	241	60	41	31	1,044
一般	12	23	10	15	6	14	13	7	20	14	2	2	138
計	70	165	96	129	110	94	102	82	299	79	49	45	1,320

7.3.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	59	46	125	137	86	96	119	95	54	56	70	39	982
枚数	678	410	1,785	2,025	883	1,580	1,728	1,543	777	553	975	566	13,503

7.3.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	0	11	9	7	5	9	6	7	5	10	10	6	85
大学	0	2	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	6
合計	0	13	11	7	5	9	6	8	5	11	10	6	91

7.3.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	0	27	27	44	12	26	64	60	24	28	15	33	360
大学	2	1	2	2	0	1	1	1	1	0	0	0	11
合計	2	28	29	46	12	27	65	61	25	28	15	33	371

7.3.8 データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL Plus with Full Text (EBSCO 社)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	190	155	108	63	49	3	31	238	234	80	287	187	1,625

○和雑誌：メディカルオンライン (メテオゲート社)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,100	1,034	874	1,507	363	887	765	943	630	384	246	428	9,161

7.4 利用者サービス

7.4.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	名称	対象・参加人数	内容
4月2日(火)	新任教職員	11名	図書館の利用案内
4月5日(金)	新入生父兄施設見学 新大学院生	約80名 13名	図書館の概要説明 〃
4月8日(月)	新入生ガイダンス	93名	図書館利用方法の説明
4月15・16・17日(月～水)	看護教員養成講習会 受講生講習会	看護教員養成講習会受 講生 27名	図書館の利用方法とオンラ インデータベース講習
3月18日(火) 19日(水)	3年次生 〃	11名 13名	「DVD情報の達人」上映と 文献検索の方法

7.4.2 学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

日 時	名 称	対象・参加人数	内 容
5月15日(水)	かほく市立高松中学校	高松中学校生徒 25名	図書館の概要説明
7月20日(土)	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説 明 図書リユースコー ナー設置
7月25・26日 (木・金)	かほく市立高松中学校 「わく・ワーク(work)体 験事業」	生徒3名	図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験
8月20日(火)	県立田鶴浜高等学校	生徒 35名	図書館の利用方法と データベースの講習
10月8日(火)	県立小松高等学校	生徒 40名	図書館の概要説明
10月26・27日 (土・日)	大学祭 秋のオープンキャンパス	一般	図書館の開放 施設説 明 リユースコーナ ーの設置
11月7日(木)	門前高校PTA	15名	図書館の概要説明
5月13日(月) ～11月12日(火)	県政バス(能登町他) 計7回	約245名	図書館の概要説明

7.4.3 学内で利用できるデータベース

	検索システム	内 容	収録範囲	同時使用
最新看護索引 web	Web	国内唯一の、看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成 23 年度（第 42 回）より、電子版を掲載。全 10 領域の「論文集（電子版）」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約 20 万件、収録誌数 812 誌。更新頻度月 1 回。	1987-	3
PubMed	Web	医学分野の代表的文献情報データベース。米国 NLM 作成。医学・歯学・生命科学関係の 4,800 誌以上の雑誌から収録。収録データ数約 1,600 万件。	1949-	フリーアクセス
メディカルオンライン	Web	医学文献の検索全文を閲覧をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。	1949-	フリーアクセス
CINAHL	Web	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約 3,000 誌の専門誌が対象。データ数約 42 万件。（EBSCO 社）	1937-	4
PsycINFO	Web	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29 カ国、20 以上の言語で出版されている 2,400 点の心理学関連資料から収録。	1987-	4
医学中央雑誌	Web	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約 5,000 誌。収録件数約 630 万件。	1983-	8
CiNii (国立情報学研究所)	Web	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	-	フリーアクセス
JDreamIII	Web	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文 DB。収録約 5,200 万件。	1987-	10
ELSEVIER Science Direct	Web	ScienceDirect 購読タイトルの 2007 年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他 10 誌 サブジェクト・コレクションの論文全て。 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	-	4

7.5 職員研修

7.5.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
4月12日(金)	金沢市	第1回図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	山田 志歩
5月14日(火)	金沢市	平成25年度第1回図書館実務講習会(初任者研修) 主催：石川県公共図書館協議会	図書館サービス等について研修	東 加奈子
6月6・7日 (木・金)	高知県	公立大学協会図書館協議会事務長会・同総会、同中部地区会議 主催：公立大学協会図書館協議会	・公立大学図書館の活動について ・中部地区幹事館として会議の開催	山本 晃暢
8月20日(火)	野々市市	石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会 主催：石川県大学図書館協議会	県内大学図書館の活動について	東 加奈子
10月4日(金)	金沢市	第2回図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立、県内公共図書館との相互協力について	山田 志歩
11月7日(木)	金沢市	平成25年度石川県図書館大会 主催：石川県公共図書館協議会	生涯学習の拠点としての図書館の役割を研究討議	東 加奈子
11月8日(金)	金沢市	平成25年度石川県大学図書館協議会特別研修会 主催：石川県大学図書館協議会	大学図書館の「学習支援」について研究討議	山本 晃暢
11月 13～15日 (水～金)	東京都	平成25年度教育研修事業目録システム講習会(図書) 主催：情報・システム研究機構国立情報学研究所	総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方(入力基準)を修得(図書目録)	山田 志歩
12月4～6日 (水～金)	福井市	平成25年度教育研修事業目録システム講習会(雑誌) 主催：情報・システム研究機構国立情報学研究所	総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方(入力基準)を修得(雑誌目録)	東 加奈子
1月28・29日 (火・水)	福岡市	JAIRO Cloud 説明・講習会 主催：国立情報学研究所	機関リポジトリの概要 JAIRO Cloud 概要	山本 晃暢
3月11日(火)	金沢市	「図書館機能強化プログラム」シンポジウム -大学図書館におけるこれからの学習支援 主催：大学間連携共同教育推進事業	学生の情報リテラシー修得のために果たす図書館の役割について	山田 志歩 東 加奈子

8. 附属地域ケア総合センター

8.1 人材育成事業

8.1.1 主催事業

対象	事業名	内 容 ・ 結 果			
		テーマ等	講 師	実施日	参加状況
専門職	放射線に関する基礎知識と看護実践	「放射線に関する基礎知識と看護実践」	金沢大学名誉教授 (専門：環境地質学) 田崎 和江	11月9日 (土)	85
		第二部 がん放射線治療ができること、 そこで看護がサポートできること	北里大学病院 放射線看護 がん看護専門看護師 久米 恵江		

8.2 本学教員主催の研究会・事例検討会ならびに子育て支援講座

8.2.1 本学教員主催の研究会・事例検討会ならびに子育て支援講座一覧表

	事業名	日時	内 容	講 師	場 所	対象者
1	ジェネラリストのための事例検討	7/27 (土) 11/3 (日)	看護の目的に照らしたアセスメントやクリティカルな思考過程を学び、ジェネラリストとしての実践力を向上させた。	基礎看護学教授 川島 和代 他	基礎看護学実習室 他	看護師・看護教員
2	ペリネイタル・グリーフケア検討会	第1回 7/9 (火) 第2回 2/18 (火)	周産期の死(流産・死産・新生児死亡)のケアに関わる看護職同士、情報交換しながら、一緒によりよいケアについて考えていく機会を設けた。	母性看護学講師 米田 昌代 教授 吉田 和枝 助手 曾山 小織	石川県立中央病院 健康教育館	周産期の死に関わる看護職(県内の産科・NICUに勤務する助産師・看護師)
3	子育て支援・虐待防止に関する勉強会(事例検討会)	1～2ヶ月に1回	地域や医療現場での子育て支援や虐待予防に関するケア体験を共有し、研鑽を深めた。	小児看護学教授 西村 真実 子 他	母性・小児看護学講座共同研究室	子育て支援・虐待防止に関わる者

4	高齢者ケア事例検討会	8/10 を除く毎月第2水曜	高齢者ケアを行っている看護職が様々な事例について意見交換。県内の高齢者ケアの質の向上を目指し、色んな立場から智恵を出し合い共有した。	老年看護学教授 高山 成子 他	成人・老年看護学講座 共同研究室	高齢者ケアに携わる看護職者等
5	保健事業評価能力の向上支援研修	6月～1月(計5回)	保健師等の保健事業の評価能力の向上を支援するため、その成果や今後の課題を明確にする過程について実践的に学んだ。	地域看護学准教授 織田 初江 他	講義室 他	地域保健活動に従事する保健師等
6	がん看護事例検討会	5/7、6/4、8/6、10/1、11/5、12/3、2/4、3/4	がん患者やご家族への看護に関する困難事例について、施設の垣根を越えて意見交換を行った。	成人看護学教授 牧野 智恵	石川県立看護大学 他 テレビ会議システム設置会場	看護師
7	あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動	お話し会 月1回 各種相談 適宜	み送ったお子さんのことやお気持ちを同じ体験をもつ方たちと一緒に語り合い、気持ちをわかちあい、少しでも光を見いだせるお手伝い。体験者とともに医療者がサポートした。	母性看護学講師 米田 昌代	松任ふるさと館、津幡町役場 他	(流産・死産・新生児死亡・乳児死亡等で)あかちゃんを亡くした方
8	祖父母の楽しい上手な孫育て教室	6/16(日)	祖父母を対象に、今時の孫育てについて話し合い、一緒に考える機会を設けた。	母性看護学教授 吉田 和枝 講師 米田 昌代 助教 曾山 小織	女性センター	孫の誕生を迎える祖父母、新生児から乳児の孫を持つ祖父母
9	子育てどろっふ・イン・さろん	8/6、9/3、10/8、11/12、12/3	母親だけのスペース「どろっふ・イン・るーむ」・保育ルーム「どろっふ・イン・ひろば」の提供、「完璧な親なんていない」プログラムに参加経験のある母親を対象とした再会プログラムを通じて、子育ての仕方を見つける一助とした。	ファシリテータ: 小児看護学教授 西村真実子 母性看護学講師 米田 昌代	聞善寺	子育て中の母親

10	おやこのたのしいじかん	5/19、9/7、3/1	乳がん患者の方とお子様 が楽しい時間を過ごすお手伝いをした。	成人看護学 教授 牧野 智恵	石川県立看護大学 玉川こども図書館 しいのき迎賓館	乳がん患者と その子
----	-------------	--------------	-----------------------------------	----------------------	---------------------------------	---------------

8.2.2 派遣状況

項目	病院・医療 関係等	職能団体 (看護協 会等)	行政(地方 公共団体 等)	学校・教育 機関等	福祉・高齢 者関係の 任意団体	その他	計
講師派遣 回数	31	11	35	5	20	3	105

8.2.3 看護研究および看護活動の指導に関する派遣状況

地区別	派遣病院名	指導内容	講師名		回数
加賀地区	公立つるぎ病院	看護研究指導・講評	准教授	彦 聖美	3
	芳珠記念病院	看護研究指導・講評	准教授	彦 聖美	1
金沢地区	金沢社会保険病院	看護研究指導	講師	田甫 久美子	8
	浅ノ川総合病院	看護研究指導・講評	助教	東 雅代	4
	金沢大学附属病院	がん患者の心のケア	教授	牧野 智恵	1
	石川県済生会金沢病院	研究計画書の作成	助教	木森 佳子	1
能登地区	公立宇出津総合病院	看護研究指導・講評	講師	川村 みどり	2
	珠洲市総合病院	看護研究指導・講評	助教	曾山 小織	3
	県立高松病院	看護師資質向上研修	教授	高山 成子	1
	公立能登総合病院	看護研究指導	助教 助教	木森 佳子 森田 聖子	2
	公立羽咋病院	事例検討会	講師	中田 弘子	4
	二ツ屋病院	看護・介護に携わる人材の 教育について	教授	川島 和代	1

8.3 国際化促進事業

JICA 北陸による研修委託を受け、以下を行った。

① 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成コース」

7月16日～8月9日の日程で、研修員2名（パラグアイ2名）を本学および羽咋市社会福祉協議会が受け入れた。本年は、7年目の受け入れであった。

② 青年研修「母子保健実施管理コース」

本年度初めて、11月28日～12月10日の日程で、中央アジアコーカサス地方混成チームから13名の研修員を受け入れた。

8.4 かほく市との包括的連携

平成22年10月に、かほく市と締結した包括的連携に関する協定に基づき、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域づくりに寄与するため、保健及び福祉の向上などを目的に事業を展開した。

8.5 大学施設の開放

8.5.1 大学施設の利用

実施年月日	内 容	主 催 者	参加人数
25.4～25.10 土曜	サッカー練習	高松フットボールサポーター11	25名
25.4～26.3 土・日曜	野球練習	石川ウィングスボーイズ	25
25.4.13	のと里山海道サイクル&ラン	北國新聞社事業局	100
25.5.～25.12	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（指導者養成講習及び基礎研修）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター	150
25.5.11	教育研究集会発足集会	石川県教職員組合河北支部	400
25.6.17	かほく市高松北西部土地画整理組合総会	かほく市高松北西部土地画整理組合	150
25.6.29	第18回石川県紙ひこうき大会 in かほく	石川県紙ひこうき大会 in かほく実行委員会	300
25.7.7	くぼたまさと工作ショー	Banana サークル	450
25.7.11	事業説明会	石川県企画課	7
25.7.13	第12回認知症高齢者サポートを考える会	エーザイ株式会社	350
25.8.6	地域包括支援センター職員研修	石川県健康福祉部長寿社会課	80
25.8.8	勉強会	宝達志水町女性の会	46
25.8.20	食品衛生責任者研修会	河北食品衛生協会	200
25.8.22	教育研究中間集会	石川県教職員組合河北支部	250
25.8.24	子供会会合	学園台自治会	40

25. 8. 25	介護支援専門員介護と医療連携研修	石川県健康福祉部長寿社会課	150
25. 9. 15・16	高松中学校吹奏楽部 第18回定期演奏会・リハーサル	かほく市立高松中学校	50
25. 9. 25	新人保健師研修	石川県健康福祉部健康推進課	20
25. 9. 29	かほく市防災訓練	かほく市防災環境対策室	300
25. 10. 13	介護職員実務研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター	
25. 10. 13	高松地区ウォーキング	石川県ウォーキング協会	80
25. 10. 19	第21回石川県看護学会	石川県看護協会	500
25. 10. 24	かほく市障害者自助グループ	かほく市健康福祉課	4
25. 10. 31	認知看護研修	石川県立高松病院	150
25. 11. 6	かほく市高松北西部土地区画整理組合総会	かほく市高松北西部土地区画整理組合	70
25. 11. 9	日本精神科看護技術協会石川県支部学術集会	日本精神科看護技術協会石川県支部	100
25. 11. 16	原子力防災訓練	石川県危機対策課	500
25. 11. 30	特養・老健で働く看護職員の交流会	石川県看護協会	100
25. 12. 6～7	表現会・リハーサル	うのけ幼稚園	500
26. 2. 15	JA石川かほく設立20周年記念式典	JA石川かほく	300
26. 2. 27	認知症疾患医療センター医療連携協議会研修会	石川県立高松病院	60
26. 3. 1	院内学会	石川県立高松病院	350
26. 3. 2	理容師美容師国家試験	(財)理容師美容師試験研修センター 一東海ブロック事務所	200
26. 3. 15	ピアノ発表会	坂本裕美音楽教室	100
26. 3. 22	かほく市高松北西部土地区画整理組合 完工記念	かほく市高松北西部土地区画整理組合	80
26. 3. 30	ピアノ発表会	くらたに音楽教室	

8.5.2 大学施設の見学

見学団体	件数(件)	人数(人)
県政バス	9	298
県内高等学校生徒・保護者	3	85
その他の団体	1	25
計	13	408

9. 附属看護キャリア支援センター

委員長：丸岡直子 教授

委員：高山教授、北山准教授、浅見特任准教授、木森助教、
中村事務局長、清水専門員

事務担当：片山事務員

開催頻度：①運営委員会 3回開催

②感染管理認定看護師教育課程開設関連部会 9回開催

活動内容

1. 看護キャリア支援センター設立に伴う学内規程等の制定・改正

1) 平成26年11月1日に設立

組織図の附属施設として、附属看護キャリア支援センターを位置づけた。

2) 学則の改定及びセンター規程の制定

3) 感染管理認定看護師教育課程規程および細則の制定

2. 看護キャリア支援センター設立記念講演会の開催

開催日時：平成26年11月2日（土）13:00～16:00

開催場所：本学講堂

内 容：記念講演Ⅰ

フランシス・M・ルイス先生（ワシントン大学看護学部教授）

「米国における高度実践看護師の教育と実践活動」

記念講演Ⅱ

波平恵美子先生（お茶の水女子大学名誉教授）

参加人数：250名

3. 感染管理認定看護師教育課程の開設準備と認定

1) 認定看護師教育課程教育機関申請に伴い、下記の検討会を実施した。

(1) 感染管理認定看護師所属病院看護部長会議の開催

開催日時：平成25年5月14日（火）10:30～12:00 （参加人数 13名）

(2) 感染管理認定看護師連絡会議

開催日時：平成25年5月28日（火）10:00～11:30 （参加人数 13名）

(3) カリキュラム検討小委員会 3回開催

2) 教育機関申請の実施

平成25年8月に申請書を日本看護協会認定部に提出した。

3) 教育機関の認定

平成25年10月21日付で認定された。（有効期間：平成33年3月31日まで）

4) 教員会と入試委員会の開催

教員会1回、入試委員会を2回開催した。

5) 感染管理認定看護師教育課程入試説明会の開催

開催日時：平成25年11月16日（土）13:30～15:30 66名が参加

- 開催内容：①感染管理認定看護師教育課程の教育内容
②入学試験関連の情報提供
③個別相談
- 6) 平成 26 年度感染管理認定看護師教育課程の募集要項の作成

10. 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの概要

平成24年度から高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とした「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業が始まり、金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請した結果「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」は採択された。全国で15拠点が採択されている。

本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

この3つのスキームのうち、本学では、1) 2) の実施を担当している。

<平成25年度の実施内容>

1. 「本科生」によるがん看護師の育成

本年度の「本科生」としての修了生は2名、入学者数は1名であった。

また、これまでの大学院でのCNSコース内容を充実させるために、「フィジカルアセスメント」「臨床生理学」「臨床薬理学」および「がん看護学実習Ⅲ」を充実させ、修了要件を26単位から38単位に増加したカリキュラムを整備し承認された。26年度からのがん看護専門看護師課程をスタートする準備を整えた。

2. インテンシブコース

「がん看護インテンシブAコース」は、平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしているまたは更新の予定の看護師やがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は、がん看護専門看護師とがん看護専門看護師受験予定者者だけを対象とした高度がん事例検討会を、7月（本学）と9月（金沢都ホテル）にて実施した。9月には、石垣靖子先生を特別コメンテーターとして招き、より専門性の高い事例検討会となった。

今年度の本コース修了者は2名である。

「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」では、インテンシブコースとして、「地域がん看護師養成コースⅠ」（大学院科目等履修）と、「地域がん看護師養成コ

ースⅡ」（修了証取得）の内容がある。修了者は7名であった。

また、潜在看護師の復職支援として地域がん看護活性化コースとして昨年度から「再就業に向けたがん看護実践サポート」を立ち上げた。本コースでは、3名が修了した。

3. 「看護実践セミナー」

今年度の「リンパ浮腫のケア～がん患者におけるリンパ浮腫の特徴と病態アセスメントに基づいた看護の実際～」では、平成25年8月24日（土）・25日（日）京都大学医学部附属病院がん看護専門看護師の井沢知子先生をお迎えして、講義と演習を行った。参加者は46名参加があった。

4. 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の開催

今年は（平成25年9月8日に）石垣靖子教授と清水哲郎教授をお呼びして実施した。北陸3県（石川、富山、福井）から62名の看護師の参加があった。午前は、清水教授から「臨床倫理の考え方と検討の実際」と題した講義を事例を交えながらの説明があり、午後は、グループに分かれて2事例について倫理シートに沿って検討した。今年度は、事例検討会のあとに石垣靖子先生から「看護を語ることの意味」と題した講演をお願いした。

5. がん看護事例検討会の開催

今年度から、北陸3県（石川県、富山県、福井県）のテレビ会議システムを利用したがん看護事例検討会の実施を開始した。毎回10-12の病院からがん看護に関心のある看護師や医師、薬剤師などが一同に会して事例発表とディスカッションし、最後にがん看護専門看護師によるミニレクチャーによってがん看護に関する知識の向上に努めた。今年度は合計8回開催し、述べ915人の参加者があった。

11. 大学間連携共同教育推進事業

ーヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトー

1. 本プロジェクトの背景

文部科学省高等教育局大学振興課より大学改革推進事業の一部として大学間連携共同教育推進事業補助金について平成24年度にあった公募につき、県内19大学・短大・高専で構成している大学コンソーシアム石川（代表 金沢大学）を中心として「行動力や国際力などを身につけた、地球規模の視野を持ちながら地域の課題に主体的に取り組み解決できる、石川と日本の持続的成長に貢献できる人材の育成システムを構築する」（事業名：学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築）目的で応募したところ、同年10月に本事業が採択された。平成24～28年の5ヵ年にかけて大学間連携をとまなう教育カリキュラムを構築していく大型事業である。

本事業の中で、石川県立看護大学は「地域連携グループ」に属している。そのグループの活動を尊重しつつも、保健・医療・福祉にかかわるグローバル人材を育成する教育カリキュラムを構築できないかと考え、学内に担当ワーキンググループを編成し、事業案の検討を開始した。

2. 『ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト』の全体像

石川県における奥能登地域 2 市 2 町は、65 歳人口が 37～40%（2010 年）を占め、今後も高齢化が進んでいく傾向にあり、40 年先の日本を先取りしていると指摘されている。人口過疎地の暮らしと健康を守る担い手として、保健・医療・福祉系の人材の果たす役割は大きいと考える。さらに、その地域で住民の方々が培ってこられた豊かな歴史や文化、暮らしぶりに学ぶことは、人口減少時代を迎えつつあるわが国を支える人材育成につながると期待できる。

そこで、「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の下、主に保健・医療・福祉系の学生に向けて、人口過疎地域の住民の暮らしや健康課題への対処方法について住民自身に学び、さまざまな地域のネットワークを活用し地域の健康づくりにアプローチできるグローバルな視野を持った人材を育成する学習プログラムを構築したいと考えた。

<平成 25 年度の実施内容>

1. 能登町における民泊実習体験

本プロジェクトでは、学生が地域での活動や民泊などを通して、地域の実情を学び、地域の方々と一緒に健康課題の解決に向けた活動を展開することとしており、平成 25 年度はその試行版としてのプ三段階のプログラムを実施した。

- 1) 平成 25 年 8 月 28 日に能登町内を訪問し、地域の方々との信頼関係を形成するためにショッピングセンター等で健康推進キャンペーンの実施、地域の散策等を実施した。
- 2) 平成 25 年 9 月 21 日に能登町宮地地区にある「春蘭の里」において民泊し、自治体職員から講義を受け、自然の中での山菜取り、それを用いた調理実習（郷土料理）を体験し、翌日は「猿鬼歩こう走ろう健康大会」に参加し、参加者の体力測定と大会運営協力等を体験した。
- 3) 平成 25 年 10 月 12 日に能登町内の民宿に宿泊し、内浦健康クラブの方々から「能登町音

頭」の講習を受けた。また、健康づくりをテーマとした座談会を実施し、その中から健康課題を明らかにする方法論を学習した。翌日は、能登町民運動会にてロコモ度チェック、ロコトレ等を体験した。

2. 海外における地域保健体制を学ぶ研修

夏季休業・春季休業等の期間に、韓国及びタイへ学生を派遣し、グローバルな視野を育成するとともに、日本の人口過疎地への健康支援のモデルとして学び、石川県における取り組みを考える基盤形成を図る。平成 25 年度は、海外における地域保健体制を学ぶ研修プログラムを作成するためにタイ王国ならびに韓国を訪問し、実施可能性の検討を行った。

- 1) 平成 25 年 8 月 27 日から 9 月 1 日にかけてタイ王国チェンマイ大学の看護学部に教員 2 名を派遣し、研修先の地域の視察と今後の研修依頼、研修プログラム作成の打ち合わせを行った。
- 2) 平成 25 年 11 月 19 日から 22 日にかけて韓国の全羅北道庁ならびに全北大学に本学教員 2 名を派遣し、看護学部学部長と地域社会看護教授に「海外における地域保健体制を学ぶ研修（韓国版）」の構築と学生の短期留学の交渉を行った

12. 国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修

平成25年度夏期アメリカ看護研修（第9回）報告

夏期アメリカ看護研修は、本学学生および大学院生のために用意された国際化推進プログラムの1つである。平成25年度も例年通り、4月に行われる各学年向けガイダンスや7月に開催されるオープンキャンパスなどで研修に関する広報を行った。平成25年度の本研修はシアトルで実施された。8月25日～9月7日の日程で行われ、学生17名が参加した。

University of Washington (UW) School of Nursing および Lake Washington Institute of Technology (LWIT)での看護に関する講義や、UW Medical Center ツアー、Seattle Children's Hospital、Keiro Nursing Home を見学し、また、Lake Washington Institute of Technology (LWIT)にて英会話および看護英語を学習した。また看護関係以外の、マイクロソフトビジターセンターを訪問したり、マウントレニアでのハイキング体験なども行い視野を広めた。

学生へのアンケート調査および聞き取り調査結果から、本看護研修の趣旨に沿った形の成果がある程度得られたと考えられた。また、研修後の学生の感想は、有意義であった、視野が広がった、楽しく過ごせたという意見が圧倒的に多かった。

学生が視野を広げられ、国際的な人材となるための能力開発に自ら努力する契機となるように、今後も本研修の充実に向けて努力していく必要がある。

13. ワシントン大学との交流

13.1 はじめに

本学は、ワシントン大学との学術協定のもと、隔年ごとにワシントン大学への教員派遣と招聘教授による大学院生への国際看護特論の講義を実施している。平成 24 年には上月頼子准教授を招聘し大学院国際看護特論の講義、一般公開講義、教員対象講義教員との懇談会等を行った。平成 25 年度は本学教員（彦）が Visiting Scholar として Noel・J・Chrisman 教授のもとで CBPR(Community-Based Participatory Research)、SHG (Self Help Group) のネットワーク化、活動の評価について学ぶことを目的に研修を行なった。

13.2 概要

- 1) 研修期間：平成 26 年 2 月 28 日（金）～3 月 26 日（水）
- 2) 派遣教員 Visiting Scholar：彦聖美 准教授（在宅看護学）
- 3) 研修先：ワシントン大学看護学部
- 4) 受け入れ教授：Noel・J・Chrisman 教授（Psychosocial&Community Health：医療人類学、コミュニティ看護学）

13.3 研修目的

- 1) CBPR(Community-Based Participatory Research)活動の実際を学び、エビデンスに基づいた男性家族介護者に対する支援プログラムの開発に向けた示唆を得る。
- 2) 米国における SHG (Self Help Group) 活動及び家族介護者支援についての知見を得て、家族介護者に対する支援、SHG のネットワーク化、実践活動に関する評価手法を学ぶ。

13.4 研修内容

- 1) オリエンテーション・図書館ツアーへの参加
- 2) Visiting Scholar Required Check-In (J1 ビザプログラム) への参加
- 3) CBPR(Community-Based Participatory Research)プログラムへの参加
1995 年より開始した Chrisman 教授らの CBPR プログラムである「South Park Community Partnership」活動への参加
- 4) 「South Park Community Partnership」プログラムに参加している大学院生のゼミへの参加
- 5) 大学院生による地域看護活動報告会（ポスター発表）への参加
- 6) 認知症家族支援プログラムの Reserch Profeser である S.M.McCurry 氏との面談・意見交換
- 7) Global Oncology Lecture Series (Fred Hutchinson Cancer Research Center) への参加（講演の聴講）
 - ①A.Dvaladze (MPH) 氏: Living with Breast Cancer; Experiences and Perceptions of Women in Georgia.
 - ②F.M.Lewis(PhD)氏: Evidence-based Training Modules for Russian Oncology Nurses and Medical Faculty.

14. いしかわシティカレッジ

シティカレッジは石川県の高等教育機関（大学、短期大学、高等専門学校）で構成されている大学コンソーシアム石川を母体とした活動事業である。各大学から授業科目が提供され、単位互換制度を本学学生も活用することができる。主にシティカレッジ運営は教務学生専門部会が行っている。全体をみると受講者は年々増加の傾向にあるが、本学学生は「課題演習（地域と災害）」の授業科目に1名の受講があっただけだった。平成25年度シティカレッジの本学の担当は以下のとおりであった。

① 前期

科目名：セクシャリティ

担当：吉田和枝 教授

開講期間：平成25年4月11日～6月13日

開講時間：水曜日 15時30分～17時00分

受講者：3名

内容：第1回 セクシャリティとは何か

第2回 人間の生と生殖

第3回 性の多様性

第4回 女性ホルモンと男性ホルモンの働き

第5回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて

第6回 世界の性に関する暴力と改善に向けての様々な活動

第7回 総括

② 後期

科目名：人間工学

担当：小林宏光 教授

開講期間：平成25年10月8日～11月26日

開講時間：火曜日 15時30分～17時00分

受講者：4名

内容：人間が本来持っている生物学的特性の理解を基盤とし、現代社会の生活環境への適応とそれにまつわる諸問題について理解することを目的とした。

第1回 人間とはどういう生き物か？

第2回 快・不快の感覚と適応

第3回 ヒトの成長・発達・ライフスタイル

第4回 睡眠とサーカディアンリズム

第5回 温熱環境（空調・衣服・入浴等の問題）

第6回 偏側性（左右差）

第7回 個体差・個体内変動

15. 地域連携活動

15.1 来人喜人里創りプロジェクト

実施団体名

- ・石川県立看護大学（代表者 浅見洋）
- ・連携団体：能登町

概要：

能登町住民の健康な生活を創造するために、本プロジェクトでは看護大学の学生と教職員が教育研究活動として、これまで自治体、住民が主体的に取り組んできた健康と地域共同体の絆に関わるさまざまな社会的文化的な活動に協力、参加、協働し、交流人口を拡大すると同時に、健康づくり運動と健康キャンペーン活動を展開する。特に、健診受診率向上活動を支援し、住民の健康意識の向上を図った。

活動内容

9月22日 「第27回猿鬼歩こう走ろう健康大会」に参加。健康キャンペーン実施。

- ・看護大学の参加者50名、健康チェック、健康づくりゲーム

10月26日～27日 石川県立看護大学学園祭にて「能登町健康特産品クライネメッセ」の開催。

（マルガージェラード、能登高校地域創造クラブ参加）

3月～ エクササイズ運動量測定

外部報告：

なし

外部資金：

なし

15.2 棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり

実施団体名

- ・石川県立看護大学（代表者 垣花渉）
- ・連携団体：津幡町興津区、石川県県央農林総合事務所

概要：

将来地域の保健や福祉の中核に担う看護職者を育成するため、垣花ゼミでは本学の1、2年生と協働して高齢化・過疎化に悩む中山間地域の健康づくりを通じた活性化策に挑戦した。「棚田の景観」と「住民の優しさ」を活かして人のにぎわいを創出するため、学生は住民と協働して民泊や収穫祭を企画・開催した。一方では、「健康づくり」の調査活動を通じて住民の健康意識の啓発に努めた。その結果、高齢農家のやる気は増進し、「棚田オーナー制度」に今年度より着手することになった。併せて、学生の社会人基礎力は向上した。今後の課題は、このような取組を大学の正課に取り入れるための授業デザインを構築することであった。

外部報告：

- ・「社会人基礎力育成グランプリ 2014 中部地区予選会」（社会人基礎力育成協議会主催、2013年11月）
- ・「限界集落の活性化」報告会（津幡町総務部企画財政課主催、2014年2月）

外部資金：

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業費

15.3 コミュニティ形成を通じた道の駅活性化

実施団体名

- ・石川県立看護大学（代表者 垣花渉）、
- ・連携団体：かほく市商工会

概要：

今春無料化された能登里山海街道を活用して「道の駅高松」を活性化したい地域のニーズに対して、「健康のコミュニティデザイン」を研究する垣花ゼミでは商工会や行政と連携して、海を活かした交流イベントを企画・開催した。「日本海を親子で描く絵画教室」では、学生はパステル画講師と協働して市内10組の親子を「道の駅高松」へ招き、日本海に沈む陽光を描写しながら楽しいひとときを作った。また、「ハマボウフウ」の植樹イベントでは、今春道の駅と海岸を結ぶ連絡通路を白い花で彩る仕掛けを作った。今後の課題は、このような交流イベントを道の駅に定着させるための役割分担の明確化であった。

外部報告：

北國新聞 8月10日朝刊、北國新聞 11月18日朝刊に掲載

外部資金：

なし

15.4 世代間交流による「健康なまち」の創造

実施団体名

- ・石川県立看護大学（代表者 垣花渉）、
- ・連携団体：かほく市民部健康福祉課、かほく市商工会、NPO 法人クラブパレット

概要：

病気の予防に貢献できる看護職者を育成するため、働き盛りの運動不足の解消や健康意欲の増進等の「疾病予防と健康づくり」の社会的課題に対し、解決を図る試行錯誤を通じて隠れているリスクを発見する能力の育成をねらったゼミ活動。「世代や職種の異なる人のつながり」という地域資源を活かし、経験を基盤に住民への健康教育に挑戦した。その結果、個人の健康をコミュニティで支える意義や仕組みの難しさに気づいた。自分で考えさせてから失敗させることは「振り返り」の文化を生み、学生の自立を促すとともにチームワークを強固にした。

外部報告：

なし

外部資金：

なし

15.5 たかまつまちかど交流館の活用と地域振興のための調査研究

—みんなが交流できる場所づくり—

指導教員 石川県立看護大学 看護学部 川島和代 教授、森田聖子 助教

参加学生 石川県立看護大学 1年次 林和慶・林凜子・早松未矩・平岡美咲・広崎桃子・
藤井悠希

1. 概要

「たかまつまちかど交流館」(かほく市高松)は、人通りが少なくなった旧高松町の中心市街地に再び活気を呼び戻そうと、平成15年の市町村合併を目前に、旧北国銀行高松支店跡を当時の高松町が購入し、その運営は地元商店街が結成した『NPO 法人まちかど倶楽部たかまつ』に委託された。この施設は設置から10年の歳月を経て、耐震化工事を行うことになった。「たかまつまちかど交流館」のリニューアル・オープンに向けて商店街の活性化にもつながる新しい提案を要望された。

そこで、「たかまつまちかど交流館」の課題を明確にし、その解決の一助となる新たな提案を行うことを本調査研究の目的とした。活動の前半ではフィールド・ワーク、聞き取り調査を中心として「たかまつまちかど交流館」の課題を洗い出し、『NPO 法人まちかど倶楽部たかまつ』理事会において改善点を提案した。活動の後半には、七尾の一本杉商店街に『NPO 法人まちかど倶楽部たかまつ』の理事と共に視察に出向き、商店街の散策・住民の方々から講義を受け、インタビューを実施し、活性化の取り組みの実際を知ることができた。これらを踏まえて、「たかまつまちかど交流館」の活性のため、理事の提案に協力して「まちかど歴史資料室」の設置に学生も協力し、3階の空きスペースに開設した。さらに、地域の内外に「たかまつまちかど交流館」の認知度を高めるために、学生が考えたコンセプトに地域の方の意見を取り入れ、「たかまつまちかど交流館」の新たなシンボルとなる壁画制作に取り組み、完成した。今後、この壁画があることにより、地域の認知度が高まり、PR効果があるか、来館者の推移等を見守ることが重要と考えている。

『NPO まちかど倶楽部たかまつ』の理事より、学生の来館や意見が交流館を活性化することにつながるとの意見を頂いた。さらに、来館者の中心は、地元在住の高齢者であったが、今後は、子ども達や若い世代も訪れやすい企画の提案を要望されている。地元の大学と地域が連携して交流拠点の特徴や課題を明らかにし、活性化の支援に参画する活動そのものが地域振興となり得ることを学んだ。

2. 外部報告

大学・地域連携アクティブフォーラム(大学コンソーシアム石川主催)、優秀賞受賞

3. 外部資金

平成25年度地域課題研究ゼミナール支援事業(大学コンソーシアム石川)

15.6 被災地仮設住宅住民の孤立化防止の取組

概要：

仮設住宅での生活が長期化する中、被災地住民の中には高血圧やや肥満の増加が問題となっている。そんな中、被災地住民の孤立化は孤立死という悲劇に結びつく可能性が懸念される。そこで今回の活動は被災地の NPO 法人亘理いちごっここと連携して、これらの健康問題や孤立化を防止する活動を行った。

災害ボランティアサークルふたばの HP と Facebook ページを設け、被災地住民との SNS を通じた交流を行った。また SNS の利用が可能でない方とは、はがきや手紙を通じた交流を行った。

春休みを利用した亘理町でのボランティア活動では、仮設住宅の個別訪問や集会所でのサロン活動の際に血圧測定や健康教育を行い、交流の輪を広げる取り組みを行い孤立化防止のための交流を継続発展させた。

外部報告：

被災地 Home Coming Day パネルディスカッション「聴き、支えあう今」活動報告

外部資金：

大和証券福祉財団平成 25 年度（第 3 回）災害時ボランティア活動助成

15.7 能登キャンパス学生教育・活動支援事業

— 2 市 2 町を対象とする地域看護フィールド教育 —

指導教員 石川県立看護大学 看護学部 曾根志穂 助教、塚田久恵 准教授、川島和代 教授
参加学生 石川県立看護大学 4 年次 赤島愛、大塚那月、笠嶋愛実、北井伶奈、東出桜、平山愛理、濱田美保

1. 概要

地域看護学実習において、学生らが主体的に企画した住民への健康教育を幅広く展開し、住民の健康保持・増進に寄与し、健康なまちづくりを支援する、学生が住民のセルフケア能力の向上に貢献する公衆衛生看護技術、看護援助（健康教育）を展開することで、その働きかけの方法や援助のあり方を考察し、自己の看護観を発展させることを目的とし、以下のとおり学生による健康講座を行った。

【第 1 弾】「知って得する！夏を元気に過ごすコツ！！」

日時：平成 25 年 7 月 17 日（水）

場所：能登町、輪島市

対象：能登町 内浦健康クラブ会員

輪島市 ひまわりクラブ会員

内容：熱中症の症状や予防方法についてのお話

【第2弾】「むし歯を防ごう！」

日時：平成25年9月12日（木）

場所：穴水町

対象：1－2歳児とその母親

内容：幼児のむし歯予防についてのお話

学生たちは手作りのポスターやパンフレットを用いて、あるいは紙芝居や寸劇を取り入れた丁寧な分かりやすい内容を心がけてお話をし、住民の方々は熱心に聞いてくださった。住民からはさまざまな質問があり、学生たちはそれらに真摯に一生懸命回答することで精一杯の様子であったが、住民の健康への関心の高さを感じていた。

地域看護学実習は3週間という限られた期間の中で、学生たちは実習目標と自己の実習課題について学習している。対象集団に対する健康教育の計画・実施は都合上1回のみ行なうことが多いため、今回のように評価後の展開まで進める機会があることにより、学生たちには一層の達成感・充実感が生じ、その看護援助方法の考察が深まったと思われる。そしてなによりも住民とふれ合うことが一番の喜びにつながっていたようである。

2. 外部報告

能登キャンパス構想推進協議会 平成25年度 課題成果発表会

3. 外部資金

平成25年度 学生教育・活動支援事業 学生教育支援（能登キャンパス構想推進協議会）

編集後記

石川県立看護大学の平成 25 年度年報をお届けいたします。平成 25 年度で本学は創立 14 年目となり、本学創立とともに歩んできた年報も第 14 巻となりました。大学年報の作成は、本学の教育・研究・地域貢献における客観的な実績を学内外に公表するための貴重な機会となっています。

平成 25 年度は、公立大学法人となった 3 年度目になります。法人本部に対して策定した 6 年間の中期計画のうちの半分が過ぎたこととなります。中期計画の実施と年度ごとの中間評価・年度末評価も受けました。既に平成 24 年度には大学基準協会の審査を受け、平成 25 年（2013 年）3 月 6 日付で同協会が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。このように、法人本部・認証機関から様々な評価を受けながら、公立大学法人として、これまで以上にその責務を果たしてきた 1 年となりました。

平成 25 年度の特徴として、以前にも増してより積極的に地域貢献に力を注いだことが挙げられます。平成 22 年には開学 10 周年を機に、本学が所在する石川県かほく市と本学との間に包括的連携協定が締結されました。このような状況を踏まえて、一昨年からの年報から新たに、「9. 看護キャリア支援センター」、「11. 大学間連携共同教育推進事業」を項目立てしました。地域貢献の具体的な内容は本文をお読みいただければと思います。国際交流としては、夏期アメリカ看護研修、ワシントン大学との交流、JICA の中央アジア・コーカサス混成青年研修及び日系研修などを行いました。

他にも、様々な学事や教職員の活動を報告しております。年報を執筆することで、教職員は各々の立場で本年度の活動を振りかえり、自己評価し、次年度に向けてさらなる精進を目指す良い機会となります。

本誌の編集にあたり各委員会、附属地域ケア総合センター、附属図書館、附属看護キャリア支援センターの皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。実質的な作業を担った岩城直子委員、川端京子委員、山崎正志委員の労をねぎらいたと思います。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

2014 年 7 月吉日 自己点検評価委員会 大木秀一

平成25年度 石川県立看護大学年報 第14巻
2014年7月31日 発行

編集：石川県立看護大学 FD/自己点検・評価委員会
年報・自己点検評価専門部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 fax.076-281-8319

印刷：株式会社ハクイ印刷
〒925-0053 石川県羽咋市南中央町ユ83-51
tel.0767-22-1243 fax.0767-22-6161

「著作権は石川県公立大学法人に属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)